海竜寺遺跡発掘調査報告書

――県営畑地帯総合整備事業（担い手育成型）
里見板鼻地区に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書――

2006

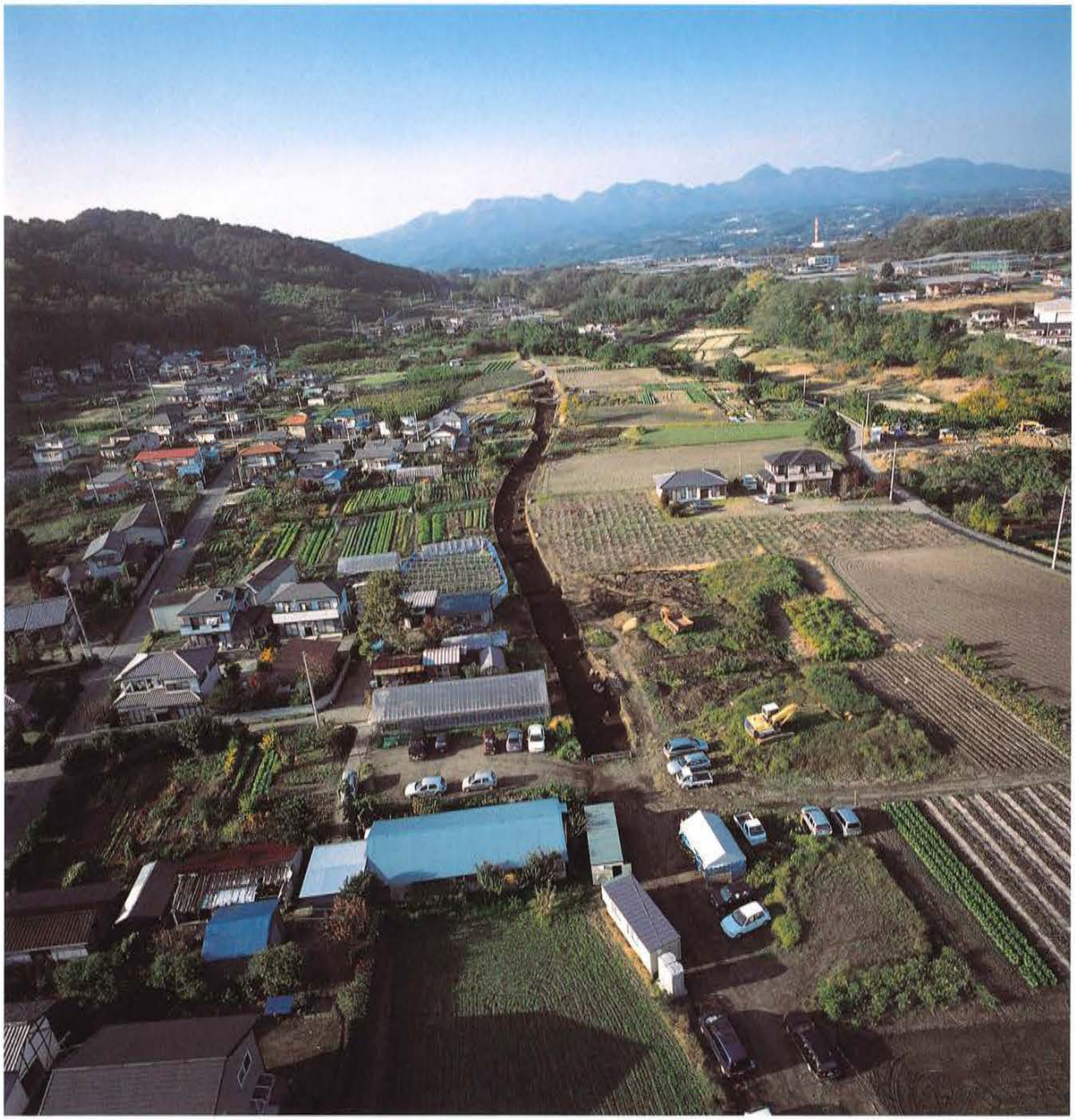
群馬県安中市教育委員会

海竜寺遺跡発掘調査報告書

――県営畑地帯総合整備事業（担い手育成型）
里見板鼻地区に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書――

２００６

群馬県安中市教育委員会



海竜寺遺跡遠景（南から）

序

安中市は群馬県の西南部に位置し、上毛三山に囲まれた田園都市です。

海竜寺遺跡は碓氷川と九十九川の合流点より約１キロ下流の秋間丘陵から伸びる北岸の細長い台地上に位置します。発掘調査は県営畑地帯総合整備事業（担い手育成型）里見板鼻地区の事業実施に先立ち、平成15年度に発掘調査が行われました。

発掘調査によって、縄文時代の敷石住居１軒、古墳時代の住居址11軒、平安時代の住居址１軒、土坑十数基が発見されました。今回の調査は、台地の平坦部分を南北に縦断する道路建設に伴うもので、総延長は600mを超えますが、幅は約10m弱と狭く細長い調査区となりました。そのため、当時の村の集落構成などを明確にすることはできませんでしたが、調査区の東西に集落が広がっていることは確認することが出来ました。また、『海竜寺』と言う小字名から、寺院跡の発見が期待されましたが、調査区内からは検出することが出来ませんでした。

発掘調査は、この様な貴重な文化財を後世に残すことを目的とし、記録保存の措置を講ずるものです。

こうした埋蔵文化財はかけがえのない郷土の遺産であり、市民のみなさまに郷土の歴史を学習していただけるよう広く活用を図り、文化財愛護の精神を広く普及するよう努めていく所存です。

終わりに、発掘調査に御協力いただいた地元の皆様や、安中市の文化財行政の一端を担い、発掘調査に従事していただいた方々には、この場を借りて感謝の意を表したいと存じます。

平成18年３月

安中市教育委員会

教育長　高　橋　重　治

例　　言

1　本書は、平成16年度に安中市が実施した県営畑地帯総合整備事業（担い手育成型）里見板鼻地区に伴う海竜寺遺跡（Ｅ－６）の埋蔵文化財発掘調査報告書である。

2　発掘調査及び遺物整理は、平成16年度から平成17年度の県営畑地帯総合整備事業（担い手育成型）里見板鼻地区埋蔵文化財委託金により実施した。

3　発掘調査は安中市教育委員会直営で実施し、文化振興課文化財係主査（文化財保護主事）千田茂雄が担当、鬼形敦子が補佐をした。

4　本書の編集・執筆等は千田、鬼形が行った。

5　遺構の写真撮影は千田が行った。航空写真は㈱フジテクノに委託して行った。

6　遺構の版組、写真図版の作成は、千田、鬼形、駒口徹也、廣上良枝、柳沢真由美が行った。

7　土器実測・トレース・属性表作成の一部を㈲前橋文化財研究所に委託して行った。

8　遺物実測用写真・遺物写真の撮影は小川忠博写真事務所・㈲前橋文化財研究所に委託して行った。

9　調査区の国家座標取付及び、測量基準杭の設置は㈱大成測量が実施した。

10　今回の調査における記録、出土遺物は安中市教育委員会が保管している。

11　調査及び遺物整理の期間中多くの方々に有益な指導、助言、協力を行っていただいた。また発掘調査及び遺物整理に従事していただいた方に厚くお礼申し上げます。

（指導・助言　敬称略）

飯田陽一　小川忠博　折舘伸二　長井正欣　日沖剛史　森田秀策　神戸聖語

（調査従事者　敬称略）

赤見　譲　今井保美　岩井英雄　宇佐美璋一　小川敬一　鬼形敦子　鬼形或男　小野　毅
金子綾子　小島友子　駒口徹也　櫻井明子　清水洋一　反町良一　戸塚里子　中島　章
長井トシエ　長井三芳　野口義則　萩原静夫　萩原治枝　半田あい　半田友子　廣上良枝
柳沢真由美　矢野佐一　吉田和雄　吉村度子　横尾千恵子　横山美千代　吉澤栄子

調査組織

平成16年度		平成17年度	
教育委員会事務局		教育委員会事務局	
教育長	高橋重治	教育長	高橋重治
教育部長	佐藤伸太郎	教育部長	佐藤伸太郎
文化振興課長	大野孝一	文化振興課長	大野孝一
文化財係長	赤見義昭	文化財係長	藤巻正勝
主査	橋本眞知子	主査	古立美代子
主任		主査	
文化財保護主事	千田茂雄（調査担当）	文化財保護主事	千田茂雄（調査担当）
主任	深町　真	主任	深町　真
主事	井上慎也	主事	井上慎也

凡　　例

1．海竜寺遺跡全体図の縮尺は１／250である。

2．住居址等遺構の縮尺は１／33・１／50である。

3．遺物の縮尺は次のとおりである。

土器　１／３

石器　１／３・１／６

4．土層説明中での記号、略称は次の通りである。

色調　＜：より明るい方向を示す（例１＜２：１より２の方が明るい）

しまり、粘性　◎：あり、○：ややあり、△：あまりない、×：なし

混入物　◎：大量、○：多量、△：少量、＊：若干、×：なし、

ＷＰ：白色粒子、ＹＰ（As－YP）：板鼻黄色軽石層、ＲＰ：ローム粒子、

ＲＢ：ロームブロック、Ｂ（As－B）：浅間Ｂ軽石、ＢＰ：板鼻褐色軽石層

5．住居址実測図の●はセクション及びエレベーションのポイントを、○は16分割のポイントを示す。

6．柱穴のスクリントーンは

20～39

40～

7．石器石材の凡例

石器実測図中、属性表等における石材の略号は以下の通りである。

Ob：黒曜石　Ch：チャート　Sh：頁岩　HSh：硬質頁岩　BAh：黒色安山岩　An：安山岩

SS：砂岩（牛状）　Sc：結晶片岩　GrR：緑色岩類　Se：蛇紋岩　Ho：ホルンフェルス

HSS：硬質砂岩　Tf：凝灰岩　GTf：緑色凝灰岩　Ja：鉄石英

実測図中において礫石器の磨り面は白抜きで示している。磨り面と自然面の境界線が明瞭であるものは破線、不明瞭であるものは点描で表現している。また、使用痕、研磨痕の顕著なものは、その範囲と方向を細密条線で示した。

石器及び石材分類表

石器種別	器　　種	技術的特徴	石材種別	石　　材	石材の特徴
A類	石鏃 石錐 石匙A類 スクレイパーA類 リタッチドフレイクA類 楔形石器	押圧剥離を多用	Ⅰ類	黒曜石 チャート 硬質頁岩 黒色安山岩 メノウ	硬質で粘度が少ない 剥片剥離に最も適し鋭利
B類	打製石斧 石匙B類 スクレイパーB類 リタッチドフレイクB類	直接打撃を多用	Ⅱ類	頁岩	多少軟質でやや粘度がある 剥離に適するが鋭利さは劣る
C1類	磨石 石皿 凹石	使用痕跡により石器と認識される	Ⅲa類	安山岩	軟質で粘度がある 剥離に不適で剥離面は粗面 耐火性に富む
C2類	台石 敲石 土器磨き石 砥石	使用痕跡により石器と認識される	Ⅲb類	(牛伏)砂岩	軟質で粘度がない 剥離に不適でボロボロと崩れる
D類	石棒 棒状礫 多孔石 丸石	直接打撃・敲打・研磨を複合的に用いる	Ⅳ類	結晶片岩	節理が発達している
E類	磨製石斧	直接打撃・敲打・研磨を複合的に用いる	Ⅴ類	緑色岩類	重量があり比較的軟質で粘度がある 剥離にあまり適さず剥離面は粗面
F類	石製品(耳飾り) (垂飾) (石刀)	直接打撃・敲打・研磨を複合的に用いる	Ⅵ類	その他	多種多様な希少石材

石器器種分類表

種別	器　種	形態	分類基準・特徴
A類	石鏃	Ⅰ	凹基無茎
		Ⅱ	平基無茎
	石錐	Ⅰa	摘み無し・小形
		Ⅰb	摘み無し・大形
		Ⅱa	摘み有り・小形
		Ⅱb	摘み有り・大形
		Ⅱc	先端部作出・大形
	石匙A類	Ⅰa	縦形・押圧剥離による精緻な調整
		Ⅱa	横形・押圧剥離による精緻な調整
	スクレイパーA類	Ⅰa	押圧剥離による精緻な調整
		Ⅰb	押圧剥離・直接打撃による調整
		Ⅱ	直接打撃による粗雑な調整
		Ⅲ	縁辺微細剥離(一辺の1/2以上)
	リタッチドフレイクA類		縁辺微細剥離(一辺の1/2以下)
	楔形石器		両極技法により両端部が潰れている
B類	打製石器	Ⅰ	撥形・急角度調整・断面蒲鉾形・片刃
		Ⅱ	撥形～短冊形・両面調整・断面レンズ状・両刃
		Ⅲ	分銅形
	石匙B類	Ⅰa	縦形・押圧剥離と直接打撃を併用した調整
		Ⅰb	縦形・大形で直接打撃による調整
		Ⅱa	横形・押圧剥離と直接打撃を併用した調整
		Ⅱb	横形・大形で直接打撃による調整
	スクレイパーB類	Ⅰa	押圧剥離を主体とした精緻な調整
		Ⅰb	粗雑な押圧剥離と細かい直接打撃による調整
		Ⅱ	直接打撃による調整
		Ⅲ	縁辺微細剥離(一辺の1/2以上)
	リタッチドフレイクB類		縁辺微細剥離(一辺の1/2以下)
C1類	磨石	Ⅰ	円形
		Ⅱ	楕円形
		Ⅲ	棒状
		Ⅳ	四角形
		Ⅴ	不定形
	石皿	Ⅰa	円形・作業面は凹面
		Ⅰb	円形・作業面は平坦
		Ⅱa	楕円形・作業面は凹面
		Ⅱb	楕円形・作業面は平坦
		Ⅲa	不定形・作業面は凹面
		Ⅲb	不定形・作業面は平坦
		Ⅳa	四角形・作業面は凹面
		Ⅳb	四角形・作業面は平坦
	凹石	Ⅰa	円形・切り合い関係は磨→凹
		Ⅰb	円形・切り合い関係は凹→磨
		Ⅰc	円形・凹のみ
		Ⅱa	楕円形・切り合い関係は磨→凹
		Ⅱb	楕円形・切り合い関係は凹→磨
		Ⅱc	楕円形・凹のみ
		Ⅲa	棒状・切り合い関係は磨→凹
		Ⅲb	棒状・切り合い関係は凹→磨
		Ⅲc	棒状・凹のみ
		Ⅳa	四角形・切り合い関係は磨→凹
		Ⅳb	四角形・切り合い関係は凹→磨
		Ⅳc	四角形・凹のみ
		Ⅴa	不定形・切り合い関係は磨→凹
		Ⅴb	不定形・切り合い関係は凹→磨
		Ⅴc	不定形・凹のみ
C2類	台石		
	敲石	Ⅰ	円形
		Ⅱ	楕円形
		Ⅲ	棒状
		Ⅳ	四角形
		Ⅴ	不定形
	砥石	Ⅰ	荒砥
		Ⅱ	中砥
		Ⅲ	仕上砥
	土器磨き石		
D類	石棒		加工痕有り
	棒状礫		加工痕無し
	多孔石		凹有り
	丸石		凹無し
E類	磨製石斧	Ⅰa	小形・断面楕円形
		Ⅰb	小形・定角式
		Ⅱa	中形・断面楕円形
		Ⅱb	中形・定角式
		Ⅲa	大形・断面楕円形
		Ⅲb	大形・定角式
F類	石製品 (耳飾り) (垂飾) (石刀)		

目　　次

序
例　　言
凡　　例
本文目次
挿図目次
表 目 次
図版目次

Ⅰ　調査に至る経過 …… 1
Ⅱ　調査の方法と経過 …… 1
Ⅲ　遺跡の地理的・歴史的環境 …… 2
Ⅳ　層　　序 …… 9
Ⅴ　遺跡の概要 …… 10
Ⅵ　遺構と遺物 …… 11
Ⅶ　ま と め …… 80

挿図目次

第１図　海竜寺遺跡と周辺遺跡位置図…… 3
第２図　海竜寺遺跡位置図(１:10000)…… 7
第３図　調査区設定図（１:2500)…… 8
第４図　基本層序柱状図…… 9
第５図　Ｊ－１号住居址実測図……14
第６図　Ｊ－１号住居址出土遺物分布図……15
第７図　Ｊ－１号住居址出土の遺物（1)……16
第８図　Ｊ－１号住居址出土の遺物（2)……17
第９図　Ｊ－１号住居址出土の遺物（3)……18
第10図　Ｊ－１号住居址出土の遺物（4)……19
第11図　Ｊ－１号住居址出土の遺物（5)……20
第12図　Ｊ－１号住居址出土の遺物（6)……21
第13図　Ｊ－１号住居址出土の遺物（7)……22
第14図　Ｊ－１号住居址出土の遺物（8)……23
第15図　Ｈ－１号住居址実測図……27
第16図　Ｈ－２号住居址実測図……28
第17図　Ｈ－３号住・Ｈ－12号住・Ｈ－13号住居址実測図（1)……29
第18図　Ｈ－３号住・Ｈ－12号住・Ｈ－13号住居址実測図（2)……30
第19図　Ｈ－４号住居址実測図……31
第20図　Ｈ－５号住居址実測図……32
第21図　Ｈ－６号住居址実測図……33
第22図　Ｈ－７号住居址実測図……34
第23図　Ｈ－８号住居址実測図……35
第24図　Ｈ－９ａ・ｂ号住居址実測図（1)……36
第25図　Ｈ－９ａ・ｂ号住居址実測図（2)……37
第26図　Ｈ－10号住居址実測図……38
第27図　Ｈ－11号住居址実測図……39
第28図　海竜寺遺跡出土遺物重量分布図（1)…41
第29図　海竜寺遺跡出土遺物重量分布図（2)…42
第30図　海竜寺遺跡出土遺物重量分布図（3)…43
第31図　海竜寺遺跡出土遺物重量分布図（4)…44
第32図　海竜寺遺跡出土遺物重量分布図（5)…45
第33図　海竜寺遺跡出土遺物重量分布図（6)…46
第34図　海竜寺遺跡出土遺物重量分布図（7)…47
第35図　土坑実測図（1)……48
第36図　土坑実測図（2)……49
第37図　Ｈ－１号住・Ｈ－２号住居址出土の遺物……50
第38図　Ｈ－２号住・Ｈ－３号住居址出土の遺物……51
第39図　Ｈ－３号住居址出土の遺物……52
第40図　Ｈ－３号住・Ｈ－４住号・Ｈ－５号住居址出土の遺物……53
第41図　Ｈ－６号住居址出土の遺物……54
第42図　Ｈ－６号住居址出土の遺物……55
第43図　Ｈ－７号住・Ｈ－８号住居址出土の遺物……56
第44図　Ｈ－８号住居址出土の遺物……57
第45図　Ｈ－８号住・Ｈ－９ａ・ｂ号住居址出土の遺物……58
第46図　Ｈ－９ａ・ｂ号住居址出土の遺物……59
第47図　Ｈ－10号住・Ｈ－11号住居址出土の遺物……60
第48図　Ｈ－11号住居址出土の遺物……61
第49図　Ｈ－11号住居址出土の遺物……62
第50図　グリッド出土の遺物（1）縄文……71
第51図　グリッド出土の遺物（2）縄文……72
第52図　グリッド出土の遺物（3）土師器・須恵器……73
第53図　グリッド出土の遺物（4）土師器・須恵器……74
第54図　グリッド出土の遺物（5）石器・石製品……75
第55図　グリッド出土の遺物（6）石器・石製品……76
第56図　表採の遺物……76
付図１　海竜寺遺跡全体図
付図２　グリッド出土遺物重量分布図

表 目 次

第１表　周辺遺跡一覧表（1）…… 4
第２表　周辺遺跡一覧表（2）…… 5
第３表　周辺遺跡一覧表（3）…… 6
第４表　Ｊ－１号住出土遺物観察表（1）……24
第５表　Ｊ－１号住出土遺物観察表（2）……25
第６表　Ｊ－１号住出土遺物観察表（3）……26
第７表　住居観察表……40
第８表　Ｈ－１・Ｈ－２・Ｈ－３号住出土遺物観察表……63
第９表　Ｈ－３・Ｈ－４号住出土遺物観察表…64
第10表　Ｈ－４・Ｈ－５・Ｈ－６号住出土遺物観察表……65
第11表　Ｈ－６・Ｈ－７・Ｈ－８号住出土遺物観察表……66
第12表　Ｈ－８・Ｈ－９ａ・ｂ号住出土遺物観察表……67
第13表　Ｈ－９ａ･ｂ号住出土遺物観察表……68
第14表　Ｈ－９ａ・ｂ・Ｈ－10・Ｈ－11号住出土遺物観察表……69
第15表　Ｈ－11号住出土遺物観察表……70
第16表　グリッド出土遺物観察表(縄文)……77
第17表　グリッド出土遺物観察表（土師器・須恵器）……78
第18表　グリッド出土遺物監察表（土師器・須恵器）……79
第19表　グリッド・表採出土遺物観察表……79

図 版 目 次

図版１　海竜寺遺跡全景
図版２　Ｊ－１号住
　　Ｈ－１号住
　　Ｈ－３号住
図版３　Ｈ－２号住
　　Ｈ－２・11号住
　　Ｈ－４号住
図版４　Ｈ－５号住
　　Ｈ－６号住
　　Ｈ－８号住
図版５　Ｈ－９号住
　　Ｈ－10号住
　　Ｈ－11号住
図版６　Ｈ－１号住　No. 1
　　Ｈ－１号住　No. 2
　　Ｈ－１号住　No. 3
　　Ｈ－１号住　No. 5
　　Ｈ－２号住　No. 1
　　Ｈ－２号住　No. 3
　　Ｈ－２号住　No. 6
　　Ｈ－２号住　No. 7
図版７　Ｈ－３号住　No. 1
　　Ｈ－３号住　No. 2
　　Ｈ－３号住　No. 4
　　Ｈ－３号住　No. 5
　　Ｈ－３号住　No. 6
　　Ｈ－３号住　No.10
　　Ｈ－３号住　No.11
　　Ｈ－３号住　No.12
図版８　Ｈ－３号住　No.13
　　Ｈ－３号住　No.16
　　Ｈ－３号住　No.19

Ｈ－４号住　No. 1
Ｈ－４号住　No. 3
Ｈ－５号住　No. 1
Ｈ－６号住　No. 1
Ｈ－６号住　No. 7
図版９　Ｈ－６号住　No.11
Ｈ－６号住　No.12
Ｈ－６号住　No.13
Ｈ－６号住　No.15
Ｈ－６号住　No.16
Ｈ－６号住　No.17
Ｈ－７号住　No. 1
Ｈ－７号住　No. 6
図版10　Ｈ－８号住　No. 1
Ｈ－８号住　No. 3
Ｈ－８号住　No. 4
Ｈ－８号住　No. 9
Ｈ－８号住　No. 9
Ｈ－８号住　No.10
Ｈ－８号住　No.13
Ｈ－８号住　No.15
図版11　Ｈ－８号住　No.17
Ｈ－８号住　No.18
Ｈ－８号住　No.19
Ｈ－８号住　No.20
Ｈ－９号住　No. 2
Ｈ－９号住　No.11
Ｈ－９号住　No.13
Ｈ－９号住　No.17
図版12　Ｈ－９号住　No.21
Ｈ－10号住　No. 2
Ｈ－10号住　No. 4
Ｈ－10号住　No. 5
Ｈ－10号住　No. 6
Ｈ－10号住　No. 7
Ｈ－10号住　No. 8
Ｈ－11号住　No. 1
図版13　Ｈ－11号住　No. 2
Ｈ－11号住　No. 3
Ｈ－11号住　No. 8
Ｈ－11号住　No.10
Ｈ－11号住　No.11
Ｈ－11号住　No.15
Ｈ－11号住　No.16
Ｈ－11号住　No.17
図版14　Ｈ－11号住　No.19
Ｈ－11号住　No.20
Ｈ－11号住　No.23
グリッド　No.17
グリッド　No.21
図版15　Ｊ－１号住出土遺物（1）
図版16　Ｊ－１号住出土遺物（2）
図版17　Ｊ－１号住出土遺物（3）
図版18　Ｊ－１号住出土遺物（4）
図版19　Ｊ－１号住出土遺物（5）
図版20　グリッド出土遺物（1）
図版21　グリッド出土遺物（2）

Ⅰ　調査に至る経過

平成15年４月、西部農業事務所より、県営畑地帯総合整備事業（担い手育成型）里見板鼻地区に係る埋蔵文化財の取り扱いに関しての照会が市教育委員会にあった。該当地区は、市内遺跡詳細分布調査により周知の遺跡地として確認されている場所であるため、その詳細について市教育委員会に於いて試掘調査を実施し、その結果をもって埋蔵文化財の取り扱いに関し協議を行う事とした。

試掘調査の結果、縄文時代・古墳時代・平安時代の遺物と住居跡が確認されたため、その旨西部農業事務所へ報告を行った。

その後、埋蔵文化財に影響が及ぶ部分の取り扱いについて協議を行った。計画変更を含め、埋蔵文化財を保護すべく協議を行ったが、当該事業が担い手の育成、生産性の向上、農業構造の改善の目的のために榛名町里見地区からすでに進行しているものであること、計画を変更しても遺跡地内を回避することが不可能であること、将来の農業振興にとって担い手育成基盤整備に対する地元地権者の要望も大きいこと、などにより、当初の計画どおり事業を実施することとなった。

そのため市教育委員会では、事業実施により埋蔵文化財に影響を受ける部分について発掘調査を実施し、記録保存の措置を講ずることとなった。

Ⅱ　調査の方法と経過

調査はまず、発掘調査区全域をカバーするようにグリッドの設定を行った。グリッドは、１グリッドが４ｍ×４ｍで北西隅を基点とし、北から南へＡ，Ｂ，Ｃ…東から西へ１，２，３…と呼称するようにした。また、グリッドをさらに四分した２ｍ×２ｍの細グリッドを設定し、北西、北東、南西、南東の順にアルファベットの小文字でａ、ｂ、ｃ、ｄと呼称することにした。そして、座標値は国家座標に取り付けた。国家座標値は、Ｃ－38グリッドがＸ＝38252、Ｙ＝－81088、Ｆ－38グリッドがＸ＝38240、Ｙ＝－81088、1Ａ－28グリッドがＸ＝38160、Ｙ＝－81048，2Ａ－15グリッドがＸ＝38056，Ｙ＝－80996である。

調査はバックホーによりⅣ層上面まで掘削し、その後人力により遺構、遺物の確認作業を実施した。確認された遺構は順次精査を行い、調査区全体の航空写真撮影を業者に委託して実施した。遺構及び全体の平面図は航空写真を利用した方法で行った。土層断面図は、それぞれ必要に応じ縮尺１／40を基本として従来の方法で作成した。

遺物の取り上げは基本的に各遺構ごとに行った。住居址についてはセクションのラインを基準に16に分割し、各層位ごとに分層して取り上げる16分割分層方式にて行った。しかし今回は調査区が道路幅の10m弱と狭く、住居址の１部が調査区外に出てしまうものが多いため、その遺構状態に沿うように設定した。遺構以外の部分については、従来どおりグリッドを四分した２ｍ×２ｍの細グリッドで層位毎に取り上げた。また、必要に応じて、遺構・遺物の写真撮影を行った。

遺物整理は、発掘調査の終了後から平成17年度までの間断続的に実施した。

作業は、遺物の水洗・注記→接合・復元→実測・拓本→トレース・写真撮影の順で行い、並行して遺

構図面の整理・素図作成、トレース、写真整理を行った。整理作業の省力化を行うため、遺物の水洗・注記の１部を第一合成株式会社に委託して行った。遺物の実測・トレース・属性分析等の一部も整理作業の省力化を行うため、小川忠博写真事務所、有限会社前橋文化財研究所に業務委託した。遺物は客観的に時期や特徴を示すものを優先し掲載した。

Ⅲ　遺跡の地理的・歴史的環境

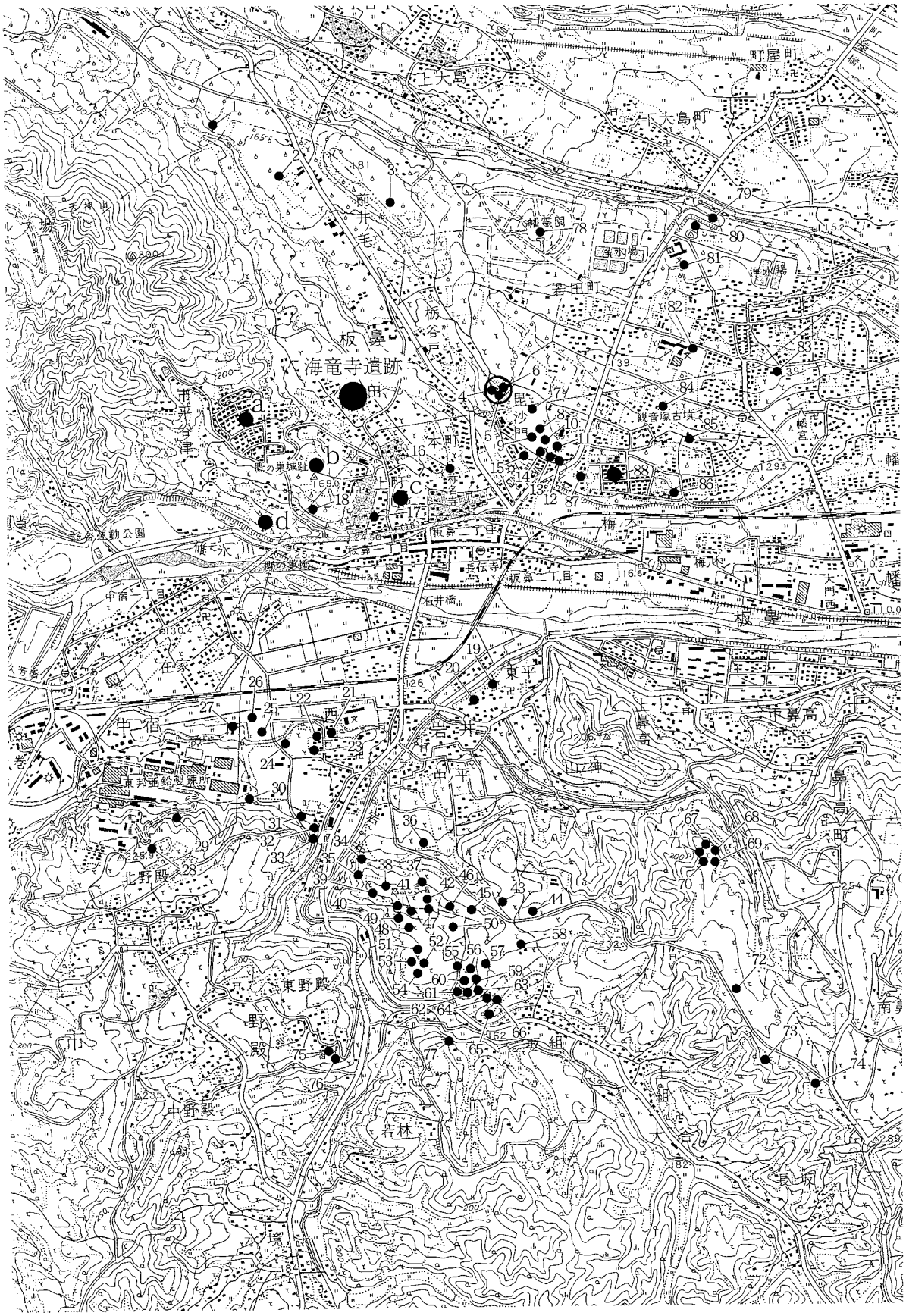
安中市は関東平野の周縁部である群馬県西部（西毛地域）に位置する。碓氷峠付近を水源とする碓氷川が西から東へ流れ、市域を南北に分断する。また、碓氷川の北側にはこれと並行して九十九川が流れ、安中市東部で碓氷川に合流する。これらの河川流域には河岸段丘が発達し、下位段丘（磯部地区）、中位段丘（原市・安中地区）、上位段丘（東横野地区）が存在する。また、市の北部や南東部等には丘陵（秋間丘陵・岩野谷丘陵・松井田丘陵）が分布する。

海竜寺遺跡は群馬県安中市板鼻に存在し、碓氷川と九十九川の合流点より約１キロ下流の秋間丘陵から伸びる北岸の細長い台地上に位置する。遺跡のある海竜寺周辺は、標高144ｍ前後で緩やかに南に傾斜している。遺跡の東には大谷津川が谷を刻み、比高差約24ｍを計り、南の碓氷川との段丘比高差は約36ｍを計る。

板鼻地区は古くは東山道が通り、鎌倉時代以降は鎌倉街道との分岐点で、江戸時代には中山道の宿場町として栄えていたため、歴史的建造物や旧蹟等が多く残っている。

本遺跡の周辺には、遺跡の西、天神山の麓に後期旧石器時代と中世城館址が確認された古城遺跡（ａ）がある。古城遺跡の南東には、戦国期の城郭で「螺郭式」と呼ばれる珍しい構造の板鼻城（ｂ）がある。そしてこの城に付随し、東に小丸田曲輪（ｃ）、南西の鷹の巣の崖上には鷹の巣出丸（ｄ）がある。遺跡から目を東に転じれば、大谷津川の谷の向こうに７世紀中葉から後葉の古墳が確認された屏風岩遺跡（4・5・6）がある。屏風岩遺跡周辺は、板鼻古墳群として多くの古墳（４～15）が確認されている。また隣接する高崎市にも、国指定史跡の観音塚古墳（84）をはじめ、平塚古墳（87）、二子塚古墳（86）など多くの古墳が存在している。この他にもこの丘陵上には、縄文時代の敷石住居・稲荷塚・峯林・大塚古墳を保存整備した若田遺跡（78）、弥生時代から古代の集落遺跡である八幡遺跡（88）、八幡遺跡に含まれると考えられている四ノ市遺跡（85）、弥生時代後期の集落遺跡である剣崎遺跡（79）、古墳時代から平安時代の集落遺跡である八幡中原遺跡（82）など多くの遺跡が存在する。

この様に、本遺跡の存在する丘陵上には、数多くの遺跡が存在し、後期旧石器時代から連綿とした人々の生活の場として利用されていたことがわかる。



第１図　海竜寺遺跡と周辺遺跡位置図

NO	市NO	大字	小字	地　番	備　　考
1	1135	板鼻	大谷津	1026	
2	1134	板鼻	上井ノ毛	951	板鼻２号墳 前方後円　（井ノ毛塚）『安中市誌』
3	1133	板鼻	銚子塚	850	板鼻３号墳 前方後円　（銚子塚）　『安中市誌』
4	1132	板鼻	屏風岩	464-2	（板鼻古墳群）　屏風岩遺跡
5	1130	板鼻	屏風岩	464-1	（板鼻古墳群）　屏風岩遺跡
6	1131	板鼻	屏風岩	467	（板鼻古墳群）　屏風岩遺跡
7	1129	板鼻	屏風岩	427-2	（板鼻古墳群）　市台帳NO１
8	1128	板鼻	毘沙門	391	（板鼻古墳群）　市台帳NO１
9	1127	板鼻	毘沙門	390-1	（板鼻古墳群）　市台帳NO１
10	1125	板鼻	毘沙門	390-1	（板鼻古墳群）　市台帳NO２
11	1124	板鼻	毘沙門	380	
12	1122	板鼻	毘沙門	372	
13	1121	板鼻	毘沙門	387	板鼻１号墳　市台帳NO１　『安中市誌』 前方後円　（荒木塚立的塚） 陪家あり　後円部宮あり
14	1123	板鼻	毘沙門	371	
15	1126	板鼻	毘沙門	367-2	（板鼻古墳群）　市台帳NO１
16	1136	板鼻	稲荷木	1318-1	（稲荷木遺跡）市台帳NO４ 『安中市誌』
17	1137	板鼻	本町	2049-1 2049-2	板鼻４号墳　市台帳NO３　『安中市誌』 円墳　（道場塚）屋敷神を祠る 直刀　鏡　金環
18	1138	板鼻	上町	1867	（遠見石）
19	1190	岩井	東	543-2	岩野谷５７号墳　市台帳NO１３ 円墳　玉　刀　鏡
20	1189	岩井	東	524	岩野谷５７号墳　市台帳NO１３ 円墳　玉　刀　鏡　花柳界に信仰あり 『安中市誌』
21	1192	岩井	西	638-2	岩野谷２号墳　円墳　石槨あり
22	1193	岩井	西	638	岩野谷１号墳　円墳　石槨の一部あり
23	1194	岩井	西	643	岩野谷３号墳　円墳　石槨あり　玉類
24	1191	岩井	西	775-1	岩野谷４号墳　市台帳NO１４ 円墳　埴輪破片
25	1195	岩井	西ノ平	870	岩野谷７号墳　市台帳NO１６ 円墳　（岩井古墳群）
26	1201	岩井	西ノ平	850	岩野谷５号墳　市台帳NO１５ 円墳　石槨露出
27	1200	岩井	西ノ平	862-2	岩野谷６号墳　市台帳NO１６ 円墳　金環　直刀　（岩井古墳群）
28	1214	野殿	峯	569	岩野谷５６号墳　市台帳NO１８ 安中市指定文化財 円墳　石槨露出　（野殿天王塚） 『安中市誌』

第１表　周辺遺跡一覧表（1）

NO	市NO	大字	小字	地　番	備　　考
29	1196	岩井	西ノ平	984	岩野谷１７号墳　円墳　金環
30	1197	岩井	西ノ平	938	岩野谷１０号墳　円墳
31	1198	岩井	西ノ平	962-1 965-1	岩野谷１８号墳　前方後円 石槨一部露出　（瓢塚）『安中市誌』
32	1199	岩井	西ノ平	752-1	岩野谷２０号墳　円墳　石槨一部露出
33	1254	岩井	西ノ平	752-1	岩野谷２１号墳　円墳　石槨一部開口
34	1202	岩井	向平	1050	
35	1203	岩井	西原	1045	岩野谷２５号墳　市台帳NO１１ 円墳　石槨開口
36	1207	岩井	上ノ原	1670-3	市台帳NO１２
37	1205	岩井	西原	1314	
38	1204	岩井	西原	1295	
39	1217	野殿	原貝戸	4055	岩野谷２６号墳　円墳
40	1220	野殿	原貝戸	4016	
41	1221	野殿	原貝戸	4014	岩野谷２９号墳　円墳
42	1218	野殿	原貝戸	4038	岩野谷３１号墳　円墳
43	1240	大谷	後道東	391-1	岩野谷４９号墳　市台帳NO７ 円墳　石槨開口
44	1239	大谷	後道東	443	岩野谷５１号墳　市台帳NO８ 円墳　石槨開口
45	1235	大谷	後谷津	124	岩野谷４７号墳　円墳　石槨開口
46	1206	岩井	西原	1359	
47	1219	野殿	原貝戸	4035	岩野谷３３号墳　円墳
48	1223	野殿	原貝戸	4009	岩野谷２７号墳　円墳　石槨開口
49	1222	野殿	原貝戸	4010	岩野谷３０号墳　円墳
50	1232	大谷	西原	44	岩野谷３８号墳　円墳　石槨一部あり
51	1224	野殿	原貝戸	3976	岩野谷８号墳　円墳
52	1227	野殿	原貝戸	3973	岩野谷３７号墳　円墳　石槨一部あり
53	1226	野殿	原貝戸	3974	岩野谷３６号墳　円墳
54	1225	野殿	原貝戸	3973	岩野谷３５号墳　円墳
55	1250	野殿	原貝戸	4035	岩野谷３４号墳　円墳
56	1229	大谷	西原	53	岩野谷５８号墳　円墳
57	1228	大谷	西原	50	岩野谷３９号墳　円墳　石槨一部あり
58	1238	大谷	道坂	184-1	岩野谷５２号墳　市台帳NO９ 円墳　石槨開口
59	1230	大谷	西原	54	岩野谷４１号墳　円墳　石槨開口
60	1231	大谷	西原	54	岩野谷４０号墳　円墳
61	1253	大谷	西原	67	岩野谷４４号墳　円墳　石槨一部開口
62	1234	大谷	西原	67	岩野谷４２号墳　円墳　石槨開口

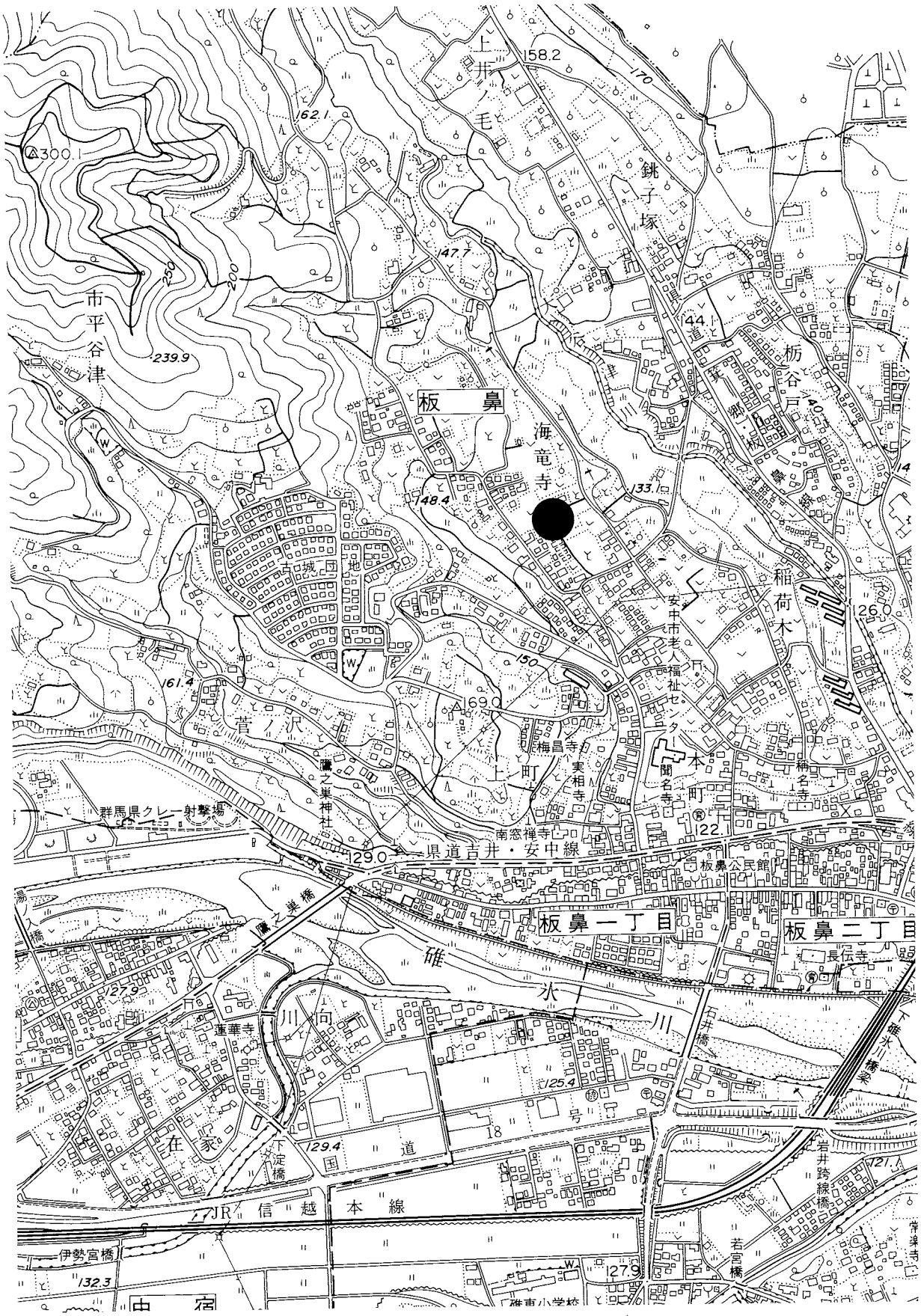
第２表　周辺遺跡一覧表（2）

NO	市NO	大字	小字	地　番	備　　考
63	1252	大谷	西原	67	岩野谷４３号墳　円墳　石槨一部開口
64	1233	大谷	西原	69	岩野谷４５号墳　円墳　石槨開口
65	1237	大谷	道坂	165	岩野谷５３号墳　市台帳NO１０ 円墳　石槨開口
66	1251	大谷	西原	69	岩野谷４６号墳　円墳　石槨一部開口
67	1212	岩井	丙根岸	2157	根岸古墳群　市台帳NO６
68	1211	岩井	丙根岸	2157	根岸古墳群　市台帳NO６
69	1210	岩井	丙根岸	2155-1	根岸古墳群　市台帳NO６
70	1209	岩井	丙根岸	2113	根岸古墳群　市台帳NO６
71	1208	岩井	丙根岸	2111	根岸古墳群　市台帳NO６
72	1213	岩井	甲倉品	2286	
73	1241	大谷	長谷津	847-1	
74	1242	大谷	桑原	895-2	
75	1215	野殿	屋敷前	2267	
76	1216	野殿	屋敷前	2266	
77	1236	大谷	下田	159	岩野谷５９号墳　円墳

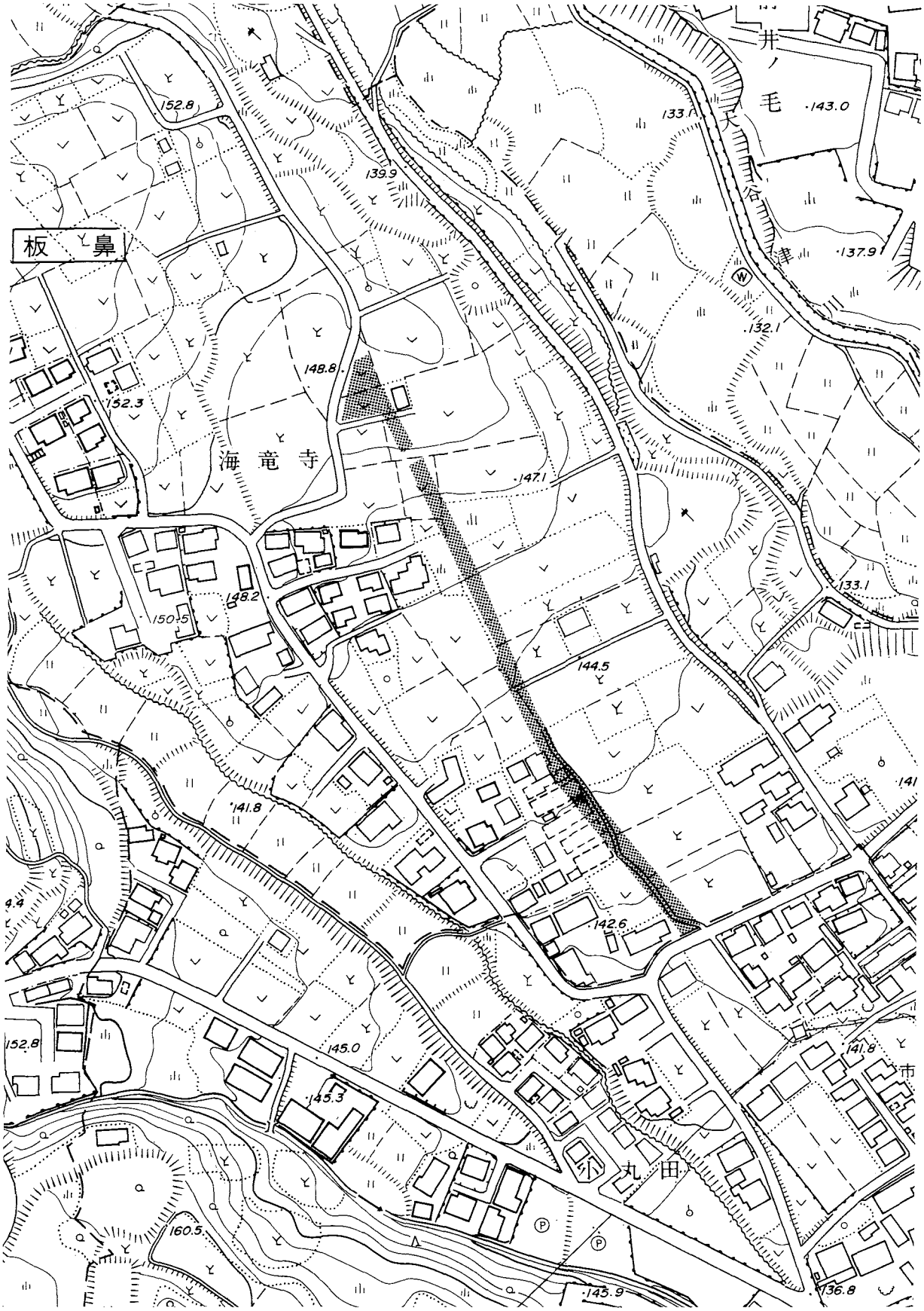
高崎市

NO	遺跡名	備　考
78	若田遺跡	縄文時代　古墳　奈良・平安時代住居
79	剣崎遺跡	弥生時代住居（樽式期）
80	長瀞西古墳	円墳　自然石積み竪穴式石室
81	大島原遺跡	縄文時代敷石住居他　古墳時代住居、祭祀跡、古墳
82	八幡中原遺跡	旧石器数点　古墳時代住居　奈良・平安時代住居
83	七五三引遺跡	古墳時代住居（鬼高）
84	観音塚古墳	古墳（国指定史跡）
85	四ノ市遺跡	弥生時代住居（樽式期）　古墳時代住居（和泉～鬼高）
86	二子塚古墳	古墳（前方後円墳）
87	平塚古墳	古墳（前方後円墳）
88	八幡遺跡	弥生時代住居（樽式期）　古墳時代住居（石田川） 古墳（前方後円墳）（円墳）

第３表　周辺遺跡一覧表（3）



第２図　海竜寺遺跡位置図（１：10000）



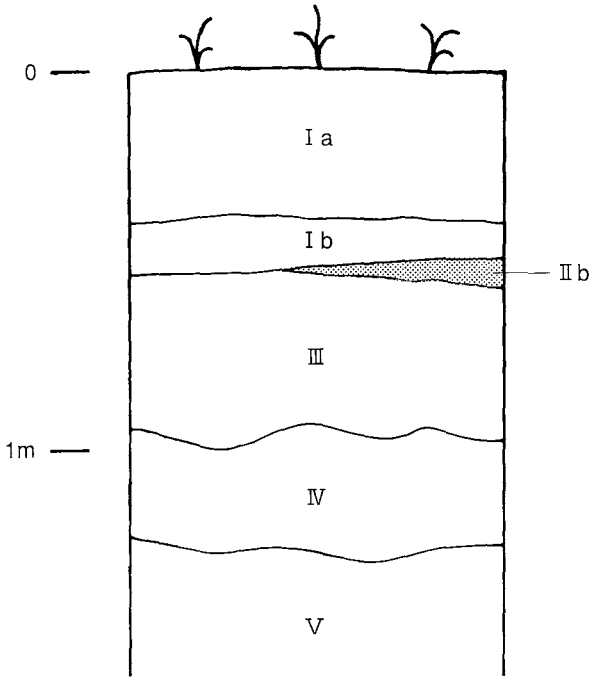
第３図　調査区設定図（１：2500）

Ⅳ　層　　序

海竜寺遺跡の基本層序は第４図のとおりである。

Ⅰ層からⅢ層の間には指標テフラである浅間Ｂ軽石（Ａｓ－Ｂ：1108年降下）が確認される。しかし、後世の耕作などにより除去されており、調査区内に部分的に確認されるにとどまる。浅間Ａ軽石（As－Ａ：1783年降下）は、後世の耕作などにより除去されたらしく、純層での確認は出来なかった。

Ⅰａ層	黒褐色土層	浅間Ａ軽石を多量に混入する。現在の耕作土で、しまり、粘性共にあまりない。
Ⅰｂ層	黒色土層	粘性はややあるが、しまりはあまりない。Ａｓ－Ｂ軽石を多量に混入する。
Ⅱｂ層	灰褐色軽石層	浅間Ｂ軽石純層。全域で５～15cm前後堆積している。
Ⅲ層	黒色土層	Ａｓ－Ｂ軽石はまったく混入しない。古墳時代から奈良・平安時代の遺構の覆土の主体を成す層である。粘性はややあるが、しまりはあまりない。
Ⅳ層	灰色泥流層	しまり粘性共に有り、拳大の礫を多く含む。
Ⅴ層	黒褐色土層	しまり粘性共に有り、横灰色軽石を含む。



第４図　基本層序柱状図

Ⅴ　遺跡の概要

海竜寺遺跡からは、縄文時代中期後半の敷石住居跡１軒、４世紀前半の住居跡１軒、４世紀後半の住居跡２軒、５世紀後半から６世紀前半にかけての住居跡２軒、６世紀前半の住居跡３軒、６世紀後半の住居跡３軒、９世紀後半の住居跡１軒が検出された。

本遺跡の調査区は道路幅のために狭く、検出された全ての住居跡は縄文時代の住居跡を除いてその１部が調査区外となってしまい、１軒全てを調査できるものはなかった。しかし、遺構の遺存状態は良好で、確認面からの堀込みも深いものが多く（第４表）、Ｈ－６号住居跡のようにカマドに土器が掛かった状態で検出される例もあった（第21図）。

調査区設定図（第３図）でわかるとおり、南北に延びる台地平坦部分の中央を縦断するように調査区が存在するため、遺跡の面的な広がりはわからないが、各遺構の検出状況を見れば、この台地全面に遺跡の広がりがあるものと考える事が出来る。実際に調査区外の畑を踏査すると、本遺跡から出土している遺物と同時期のものが採取される。地形を観ると、本遺跡の西側には、天神山から南東方向に延びる丘陵が壁のようにあり、東は大谷津川が谷を刻み、約24ｍの比高差を持っている。その両方に挟まれた南傾斜の平坦地であり、集落を営むには好条件と考えられる。

Ⅵ　遺構と遺物（第５図～第49図）

縄文時代（第５～14図）

縄文時代の住居跡は１軒検出された。円形の平面形態を持つ柄鏡型敷石住居跡で、全体的な遺存状態は良くなかったが、住居跡北東側の周礫の残りは比較的良好であった。円形部分の規模は直径約４ｍを計り、住居跡中央部分には石囲炉が設置されている。石囲炉もその北端部にあたると思われる縦長の角礫が残っているだけで、堀込み、焼土や埋設土器などは確認できなかった。石囲炉を中心としてその周辺に敷石の残骸と思われる扁平礫が幾つか確認されたが、いずれも斜めに傾斜していたり明らかに確認面から浮いているものであった。比較的良好に残存している周礫を北から南に追うと、東南の部分で約１ｍほど間隔が開く部分があり、その両端に大きめな礫が設置されていて、この部分が柄部との連結部分となると考えられる。そのまま南東方向をみると、約70cmの間隔を持って30cm台の扁平礫が２つ置かれているため、この部分が柄の末端部になると思われる。この末端部から長軸方向を観るとＮ－42°－Ｗ、5.64ｍを計る。

遺物は住居跡に伴って出土したものは少なかった。土器が中心に検出されたが、周礫の構成材に礫石器が幾つか使われていた。出土した土器を観ると、加曾利Ｅ４式期に属する住居跡と考えられる。

４世紀前半（第20・40図）

Ｈ－５号住居跡：住居跡東側の１部分以外ほとんどが調査区外となる。平面形態は縦長の長方形になると推測される。堀込みはしっかりとしていて、住居跡の遺存状態としては良好であった。遺物の出土は「坩」１点のみであったが、ほぼ完形で床面に接して検出された。

４世紀後半（第24・25・26・45～47図）

Ｈ－９ａ・ｂ号住居跡：遺存状態良好な住居跡で、確認面からの堀込みも深くＨ－９ｂ号住は最大の部分で77cmを計った。カマドの残りも良く、天井部は崩落していたものの、煙道部分もしっかりとしていた。柱穴は確認できたが貯蔵穴の確認は出来なかった。住居跡南東部分が攪乱と調査区外に出てしまっているが、縦長方形の平面形態を持つ長軸で８ｍ規模の住居跡と推測される。

遺物は比較的多く出土した。Ｈ－９ａ号住からは、Ｓ字口縁台付甕が２点検出された。

Ｈ－10号住居跡：住居南西部分が１部調査区外に出ているだけで、ほぼ全体像を確認することが出来た住居跡である。確認面からの堀込みも深く、遺存状態は良好であった。堀込みは２段に掘り込まれているが、覆土の堆積状態等を確認すると、住居跡の拡張などに伴うものではなく、当初段階からの形態と考えられる。住居跡の平面形態は縦長方形で、長軸５ｍ×短軸４ｍを計る。

遺物の出土は多くなかったが、Ｓ字口縁台付甕が４点検出された。

５世紀後半から６世紀前半（第17・18・27・38～40・47～49図）

Ｈ－３号住居跡：Ｈ－12・13号住居跡と重複関係を持ち、住居跡東角が調査区外となるが、遺存状態は良好で確認面からの堀込みも70cm弱を計る。平面形態は正方形で、西壁北寄りにカマドが設けられ、柱穴４本、床下土坑、貯蔵穴が確認された。カマドは袖石が１対確認され、天井を構成していたと思わ

れる礫が手前に崩落しているのが確認された。

遺物は比較的多く出土し、ほぼ完形の坏や遺存状態の良好な土器が多く検出された。

Ｈ－11号住居跡：住居跡北と西の角が１部調査区外となるが遺存状態は良好な住居跡であった。平面形態は正方形で、確認面からの堀込みは深いところで74cmを計る。柱穴は４本確認され、いずれもしっかりと堀込まれている。東側と南側から西側にかけて、柱穴の間に住居内の区画に関係すると思われる溝が確認された。カマドは北壁の中央に確認されたが、他の遺存状態の良好な住居跡のものと比べると残存状態は良くない。

遺物は比較的多く出土し、坏は完形の個体が多く、甕なども残存率が高く良好な資料を得ることが出来た。

６世紀前半（第21・22・23・41～45図）

Ｈ－６号住居跡：遺存状態は良好であるが、住居跡西側が大きく調査区外となる。住居跡東壁南寄りにカマドが設置され、袖石と天井石が確認された。土器もカマドに掛かった状態で検出されたが、柱穴や貯蔵穴の確認は出来なかった。

遺物はカマド及びその付近を中心に、残存率の高い良好な土器が出土している。

Ｈ－７号住居跡：住居跡北東側の約半分ほどが調査区外に出ていると推測される。確認面からの堀込みも深く遺存状態は良好である。柱穴は２本確認された。柱穴の間隔や調査区内の住居跡の平面形から推測すると、柱穴は４本、東壁にカマドを持つものと思われる。

遺物の出土は少なかった。甕などの器種も出土したが、図示できるのは坏のみであった。

Ｈ－８号住居跡：本住居跡もＨ－７号住居跡同様住居跡北東側が調査区外となる。遺構の遺存状態は良好で、確認面からの堀込みは最大の部分で85cmを計る。柱穴は２本確認されたが、これもＨ－７号住居跡同様４本柱穴の住居跡と考えられる。この他、東壁及び南壁から西壁にかけて周溝が確認された。

遺物は比較的多く検出され、残存率も高く良好な資料が多い。中でも甕と甑の良好な固体が出土した。

６世紀後半（第15・16・24・37・38・45・46図）

Ｈ－１号住居跡：住居跡東壁部分が調査区外となる。遺存状態は良好で、住居跡平面形態は縦長方形である。カマドは東壁南よりに設置され、袖の部分が調査区内で煙道部が調査区外に出てしまっているが遺存状態は良好で、袖石と転落した天井石が確認された。柱穴や貯蔵穴は、明確なものは確認できなかった。

遺物の出土は少なかったが、完形の坏が数点検出された。

Ｈ－２号住居跡：住居跡南西部分が調査区外に出るとともに、Ｈ－11号住居跡と重複関係を持つ。遺構の遺存状態は良好であったが、柱穴の確認は出来なかった。カマドは東壁中央に設置され、１部天井の残存が確認された。

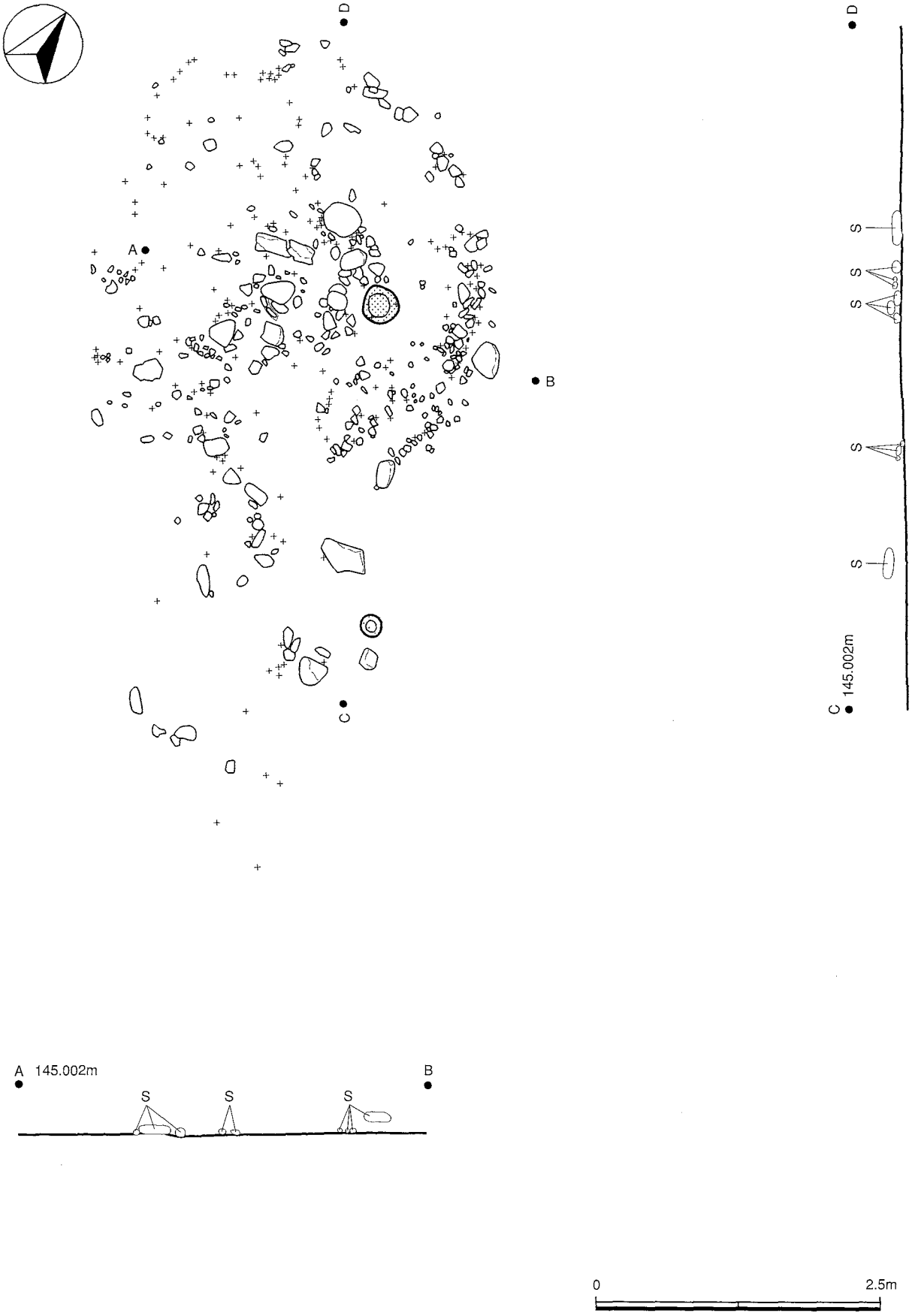
遺物の出土は少なかったが、カマド付近から残存率の高い良好な資料が検出された。

Ｈ－９ｂ号住居跡：住居跡の詳細は前記参照。遺物は比較的多く出土し、遺存状態も良好であった。

9世紀後半（第19・40図）

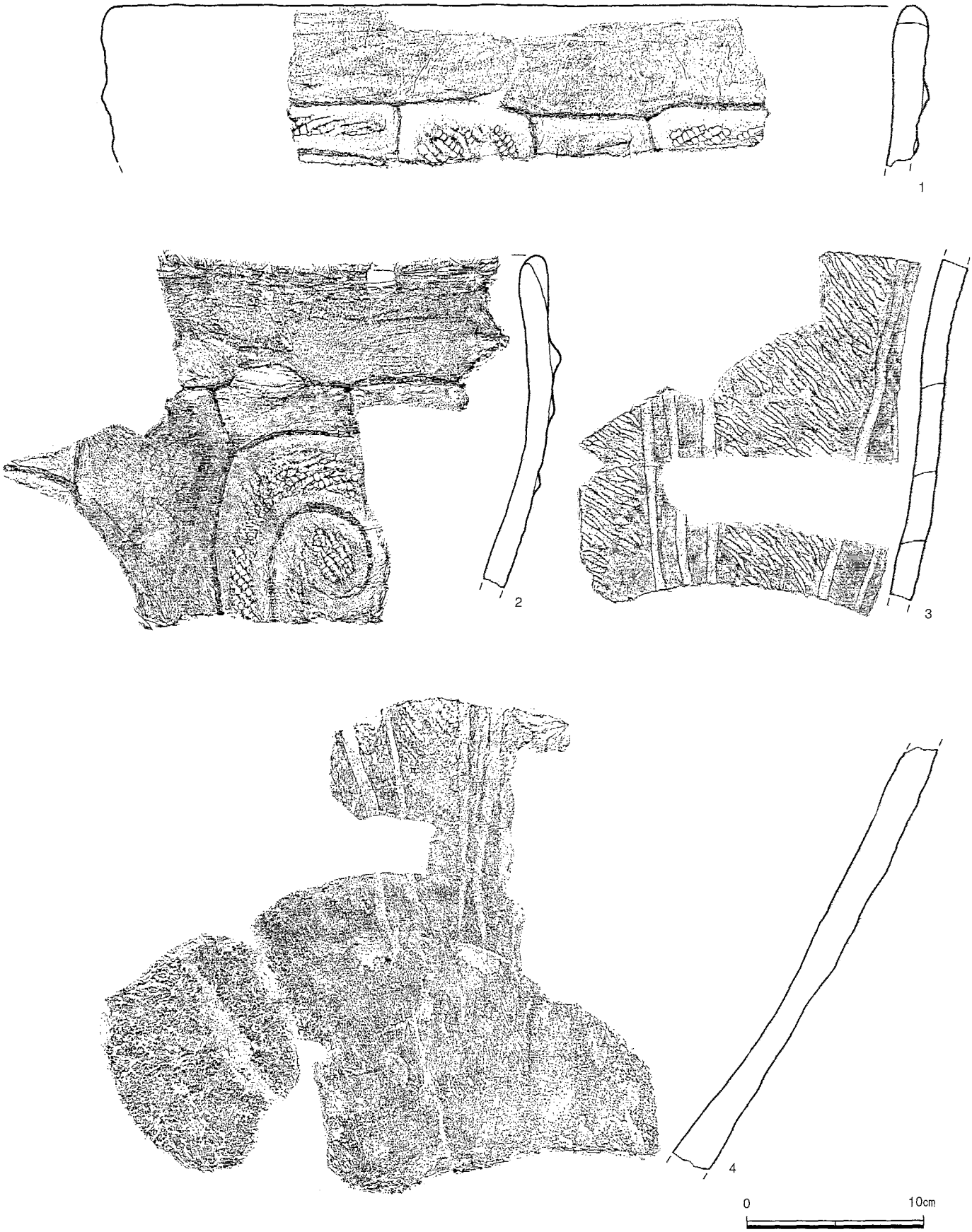
Ｈ－４号住居跡：住居跡東角と南東角が調査区外となるが、ほぼ全体が検出された状態である。確認面からの堀込みも深く遺存状態は良好であるが、南東壁の立ち上がり部分を明確に確認することが出来なかった。住居跡東壁から、北壁、西壁に掛けて周溝が確認された。また、住居内の区画に関係すると考えられる溝が、住居跡東よりの床面に東西方向に確認された。この他、柱穴と床下土坑が検出されたが、規則的な柱穴配置を確認することは出来なかった。

遺物の出土は少なく、遺存状態の良好な個体も少なかった。

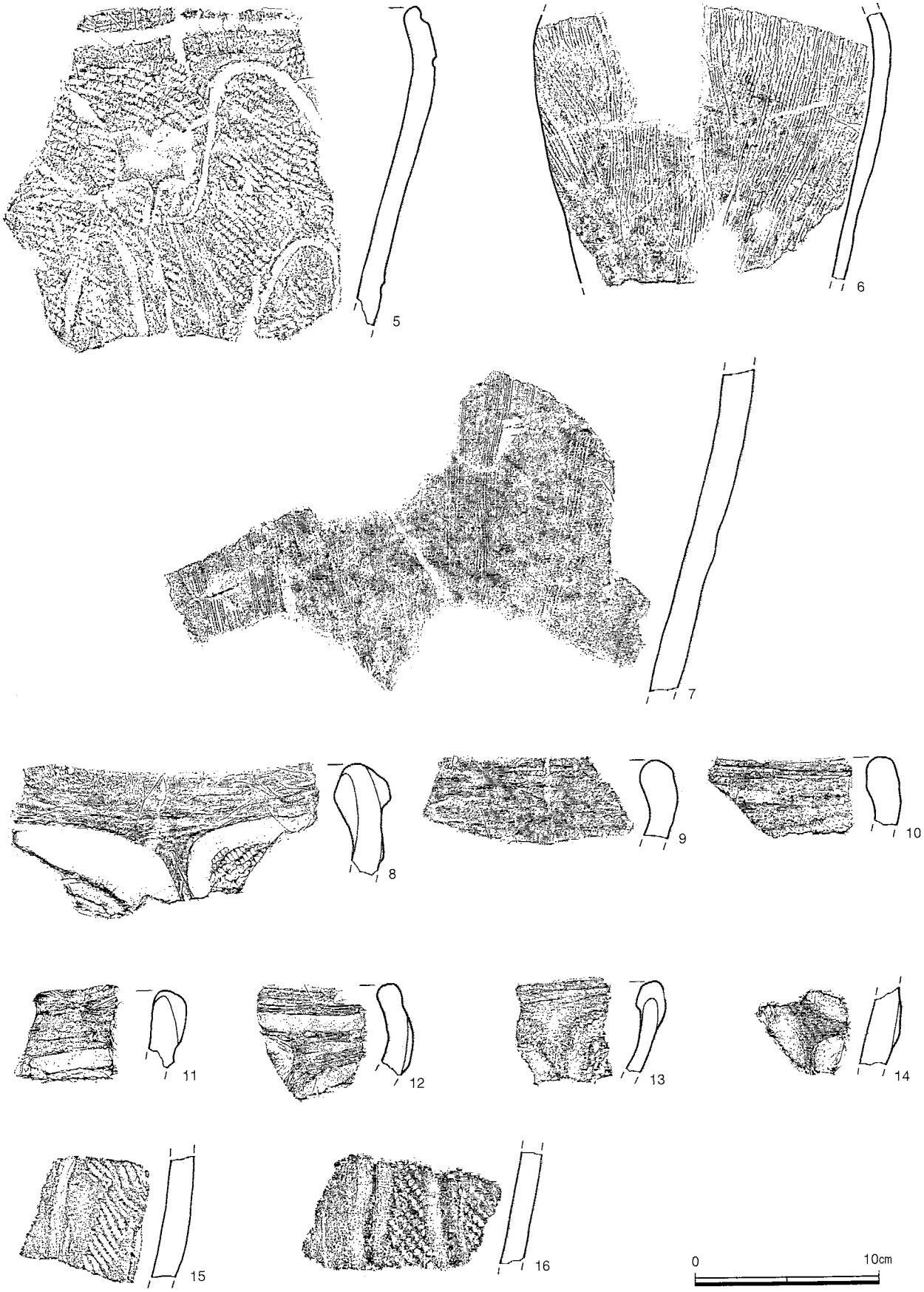


第５図　Ｊ－１号住居址実測図

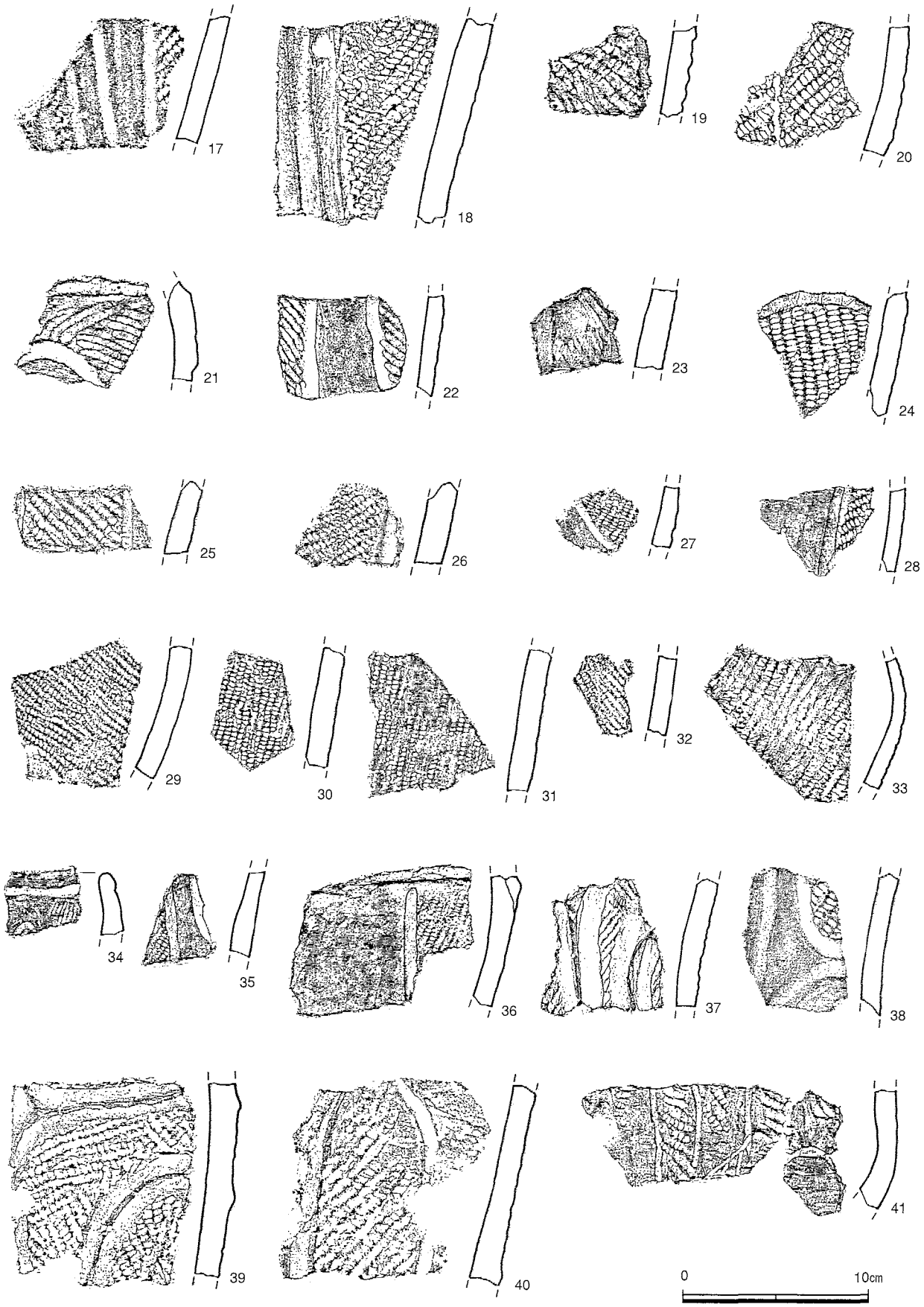
第６図　Ｊ－１号住居址出土遺物分布図



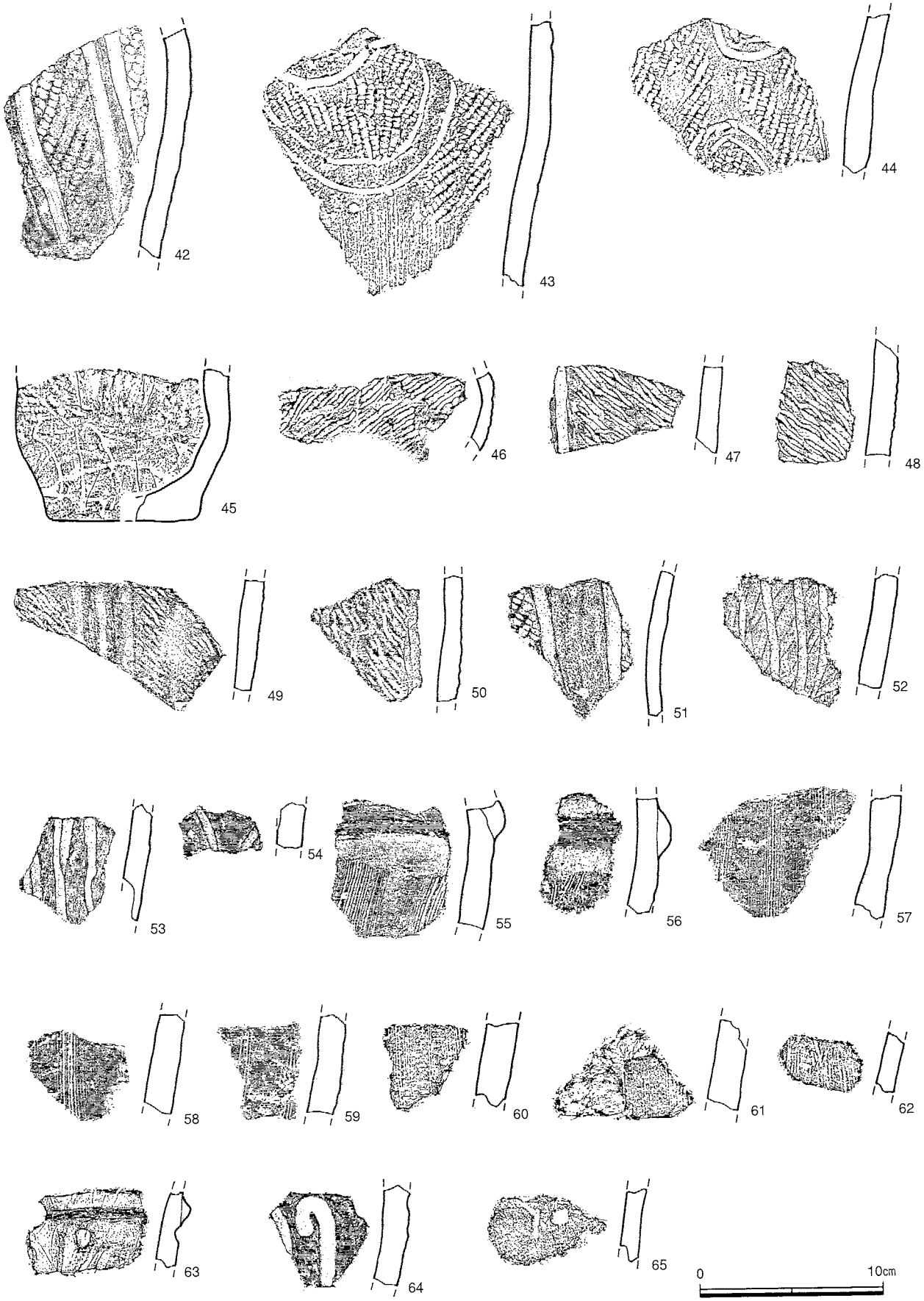
第７図　Ｊ－１号住居址出土の遺物（1）



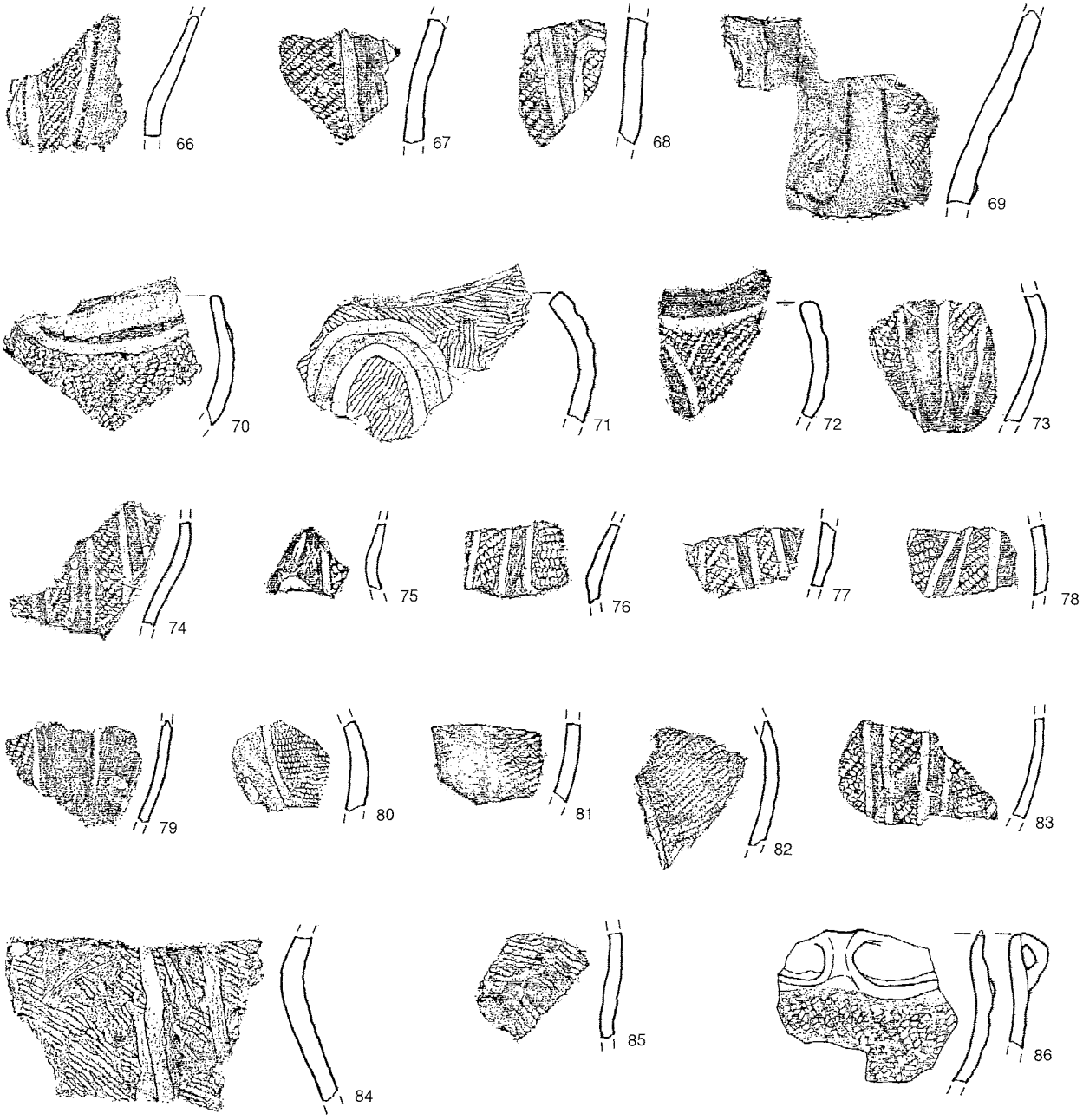
第８図　Ｊ－１号住居址出土の遺物（2）



第９図　Ｊ－１号住居址出土の遺物（3）

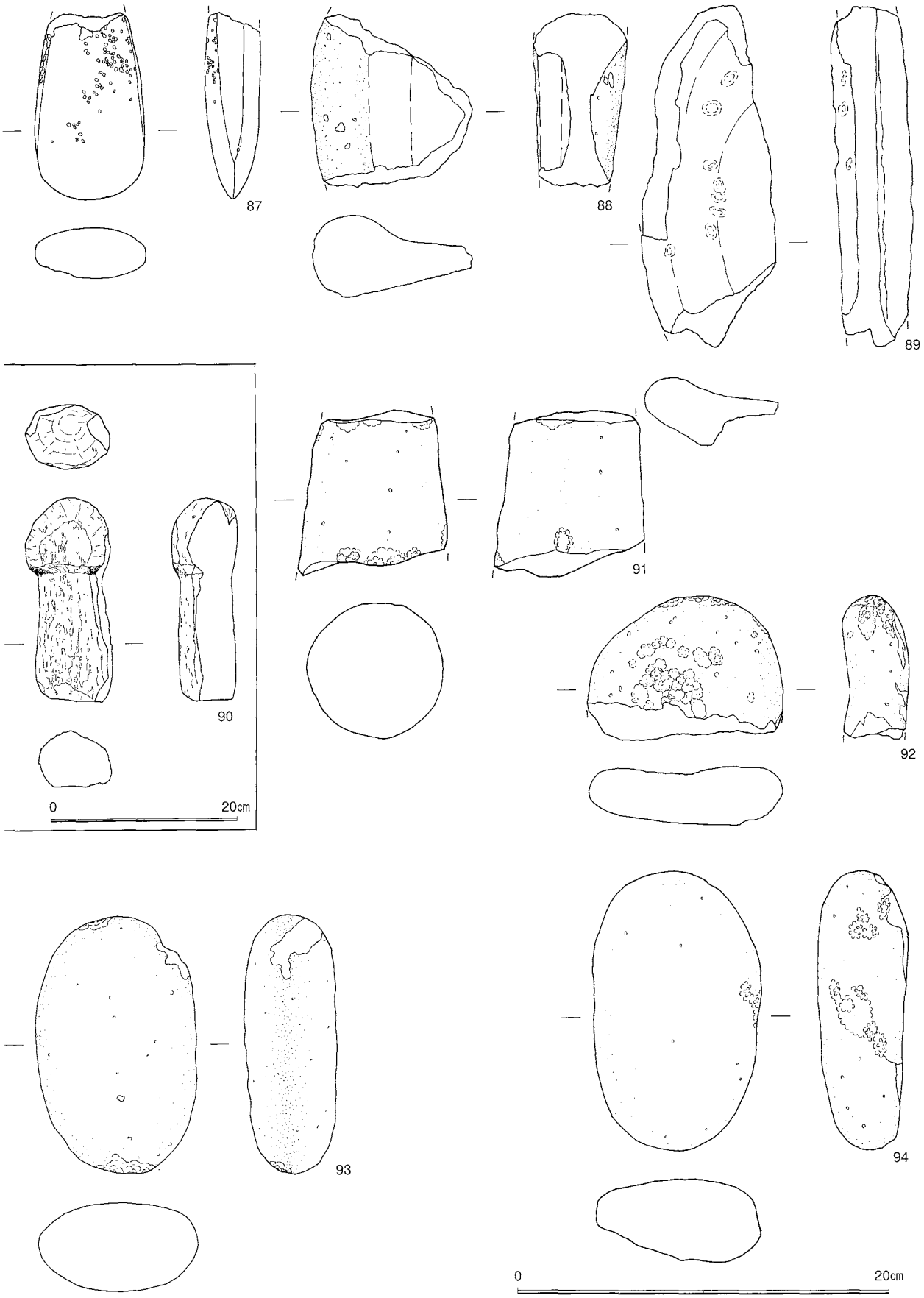


第10図　Ｊ－１号住居址出土の遺物（4）

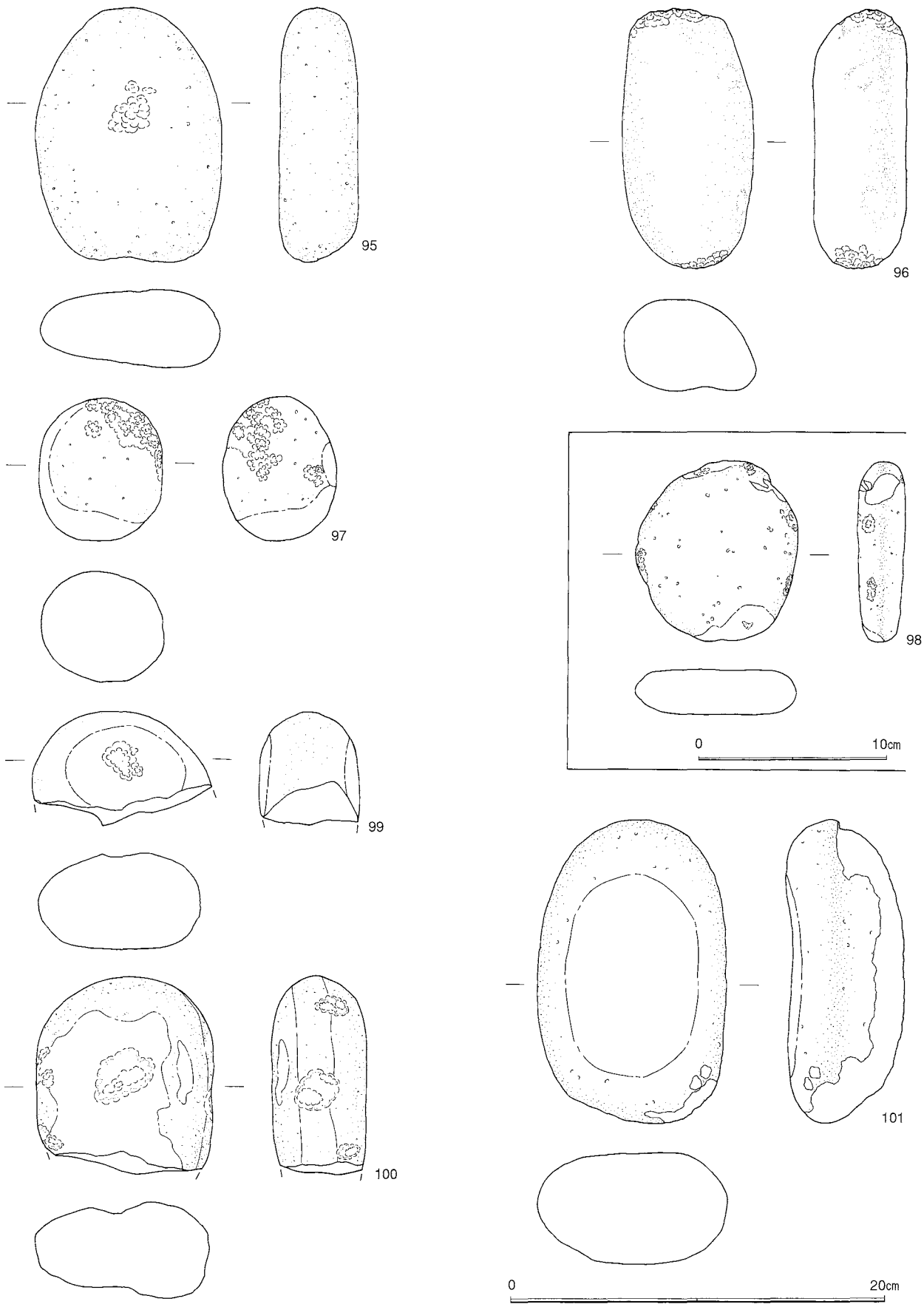


0　10cm

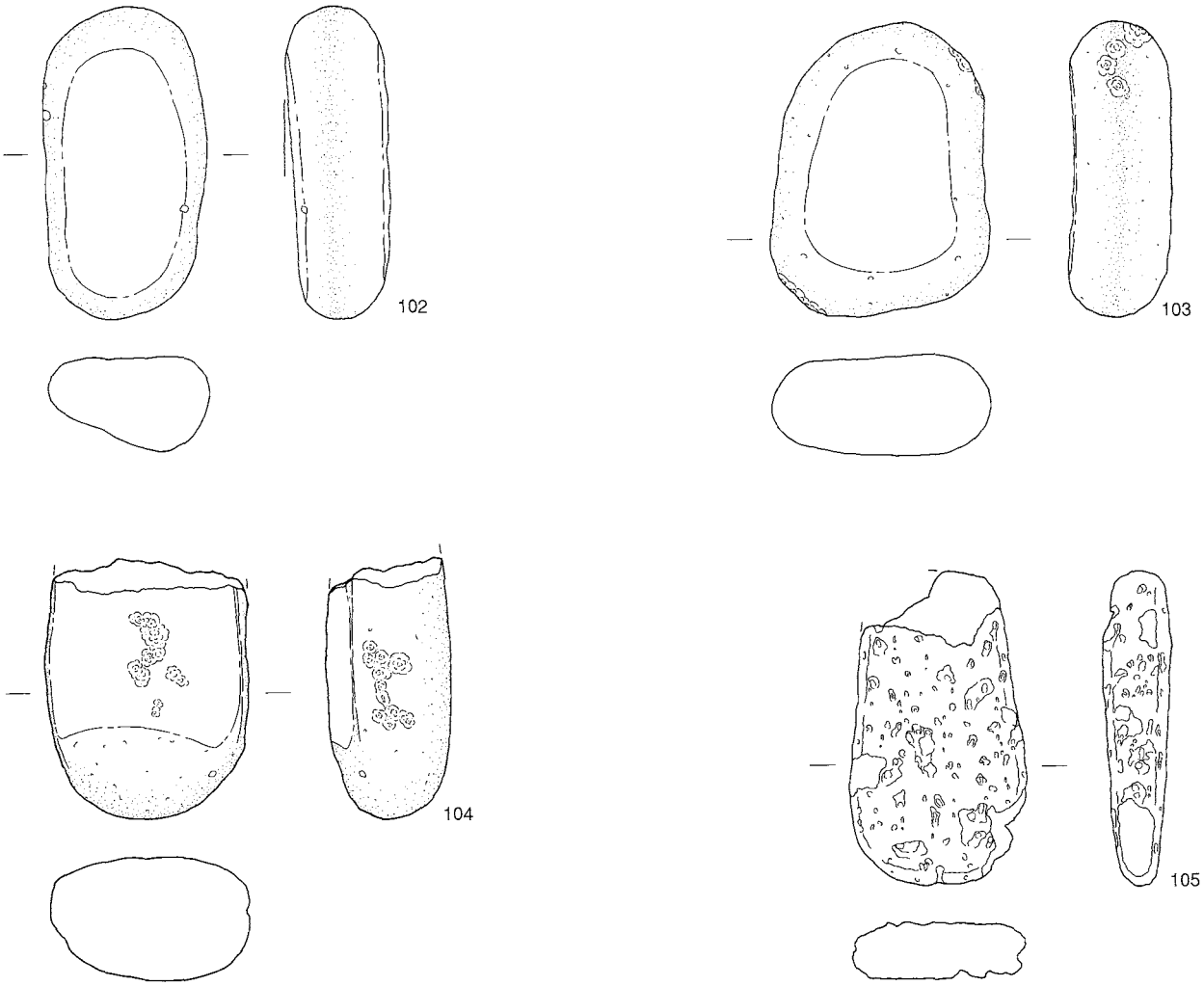
第11図　Ｊ－１号住居址出土の遺物（5）



第12図　Ｊ－１号住居址出土の遺物（6）



第13図　Ｊ－１号住居址出土の遺物（7）



0　20cm

第14図　Ｊ－１号住居址出土の遺物（8）

No	文　　様	法量 口径×底径×器高	焼　成 色　調	残　　存	備　　考
1	口縁部無文帯を有す。隆帯で楕円形区画文を配し、区画文内には単節ＬＲを横位施文する。隆帯を垂下して縦位区画し、無文帯と単節ＬＲを縦位施文した縄文帯とを交互に施す。	－ × － × (9.2)	良 にぶい黄橙色	口縁部の破片	加曽利Ｅ３
2	口縁部無文帯を区画する隆帯が巡り、その隆帯より垂下した隆帯と単節ＬＲを縦位・横位施文後隆帯で施された渦巻文が連結する。	－ × － × (18.9)	良 橙色	口縁部～胴中央部の破片	加曽利Ｅ４
3	３条の沈線を垂下して縦位区画後、直前段反撚（ＬＬ）を縦位施文する。	－ × － × (19.4)	良 にぶい黄橙色	胴部の破片	加曽利Ｅ３～Ｅ４ No47・48・49・50と同一個体
4	単節ＬＲを縦位施文後、２条の沈線を垂下して縦位区画する。	－ × － × (23.0)	良 にぶい赤褐色	胴部の破片	加曽利Ｅ３～Ｅ４
5	口縁部に沿って沈線を巡らす。沈線で２段に波状文を描き、単節ＬＲを縦位施文する。	－ × － × (17.2)	良 橙色	口縁部～胴上部の破片	加曽利Ｅ４
6	櫛歯状工具による条線を縦位施文する。	－ × － × (14.5)	良 にぶい黄褐色	胴中央部～胴下部の１／３	加曽利Ｅ３～Ｅ４
7	櫛歯状工具による条線を縦位施文する。	－ × － × (17.5)	良 橙色	胴部の破片	加曽利Ｅ３～Ｅ４
8	隆帯で楕円形区画文を配すと推定される。区画文内には単節ＬＲを横位施文する。	－ × － × (6.0)	良 にぶい黄橙色	口縁部の破片	加曽利Ｅ３
9	無文。	－ × － × (4.3)	良 にぶい黄橙色	口縁部の破片	加曽利Ｅ３～Ｅ４
10	無文。	－ × － × (3.7)	良 にぶい黄橙色	口縁部の破片	加曽利Ｅ３～Ｅ４
11	口縁に沿って沈線を巡らす。	－ × － × (4.2)	良 赤褐色	口縁部の破片	加曽利Ｅ４
12	隆帯で楕円形区画文を配すと推定される。	－ × － × (5.0)	良 褐灰色	口縁部の破片	加曽利Ｅ３
13	隆帯で楕円形区画文を配すと推定される。	－ × － × (4.9)	良 にぶい黄褐色	口縁部の破片	加曽利Ｅ３
14	隆帯で文様を描く。	－ × － × (4.2)	良 橙色	胴部の破片	加曽利Ｅ３～Ｅ４
15	沈線を垂下して縦位区画し、単節ＬＲを縦位施文する。	－ × － × (6.5)	良 にぶい黄橙色	胴部の破片	加曽利Ｅ３～Ｅ４
16	隆帯を垂下して縦位区画し、単節ＬＲを縦位施文する。	－ × － × (6.1)	良 にぶい黄橙色	胴部の破片	加曽利Ｅ３～Ｅ４
17	単節ＲＬを縦位施文後、３条の沈線を垂下して縦位区画する。	－ × － × (6.9)	良 橙色	胴部の破片	加曽利Ｅ３～Ｅ４
18	３条の沈線を垂下して縦位区画後、単節ＲＬを縦位施文する。	－ × － × (11.0)	良 灰黄褐色	胴部の破片	加曽利Ｅ３～Ｅ４
19	単節ＬＲを縦位施文後、沈線を垂下して縦位区画する。	－ × － × (5.0)	良 にぶい黄褐色	胴部の破片	加曽利Ｅ３～Ｅ４
20	沈線を垂下して縦位区画後、単節ＲＬを縦位施文する。	－ × － × (7.2)	良 にぶい赤褐色	胴部の破片	加曽利Ｅ３～Ｅ４
21	口縁部に沿って沈線を巡らすと推定される。沈線で文様施文後、単節ＬＲを縦位・横位施文する。	－ × － × (5.4)	良 明赤褐色	口辺部の破片	加曽利Ｅ４
22	沈線を垂下して縦位区画後、無節Ｌｒを縦位施文する。	－ × － × (5.5)	良 にぶい黄橙色	胴部の破片	加曽利Ｅ３～Ｅ４
23	単節ＬＲを縦位施文後、沈線を垂下して縦位区画する。	－ × － × (4.4)	良 にぶい黄橙色	胴部の破片	加曽利Ｅ３～Ｅ４
24	単節ＲＬを横位施文後、沈線を弧状に施す。	－ × － × (6.8)	良 にぶい黄褐色	胴部の破片	加曽利Ｅ４
25	単節ＬＲを縦位施文後、沈線を垂下して縦位区画する。	－ × － × (3.9)	良 にぶい黄橙色	胴部の破片	加曽利Ｅ３～Ｅ４
26	単節ＲＬを縦位施文後、沈線を垂下して縦位区画する。	－ × － × (4.4)	良 明赤褐色	胴部の破片	加曽利Ｅ３～Ｅ４
27	単節ＲＬを縦位施文後、沈線で曲線文を描く。	－ × － × (3.4)	良 橙色	胴部の破片	加曽利Ｅ３～Ｅ４
28	沈線を垂下して縦位区画し、単節ＲＬを縦位施文する。	－ × － × (4.6)	良 黒褐色	胴部の破片	加曽利Ｅ３～Ｅ４
29	単節ＲＬを横位施文する。	－ × － × (7.2)	良 にぶい黄橙色	胴部の破片	加曽利Ｅ３～Ｅ４
30	単節ＲＬを縦位施文する。	－ × － × (6.6)	良 にぶい黄橙色	胴部の破片	加曽利Ｅ３～Ｅ４
31	単節ＲＬを縦位施文する。	－ × － × (7.7)	良 にぶい黄褐色	胴部の破片	加曽利Ｅ３～Ｅ４
32	単節ＬＲを縦位施文する。	－ × － × (4.3)	良 にぶい黄橙色	胴部の破片	加曽利Ｅ３～Ｅ４

第４表　Ｊ－１号住出土遺物観察表（1）

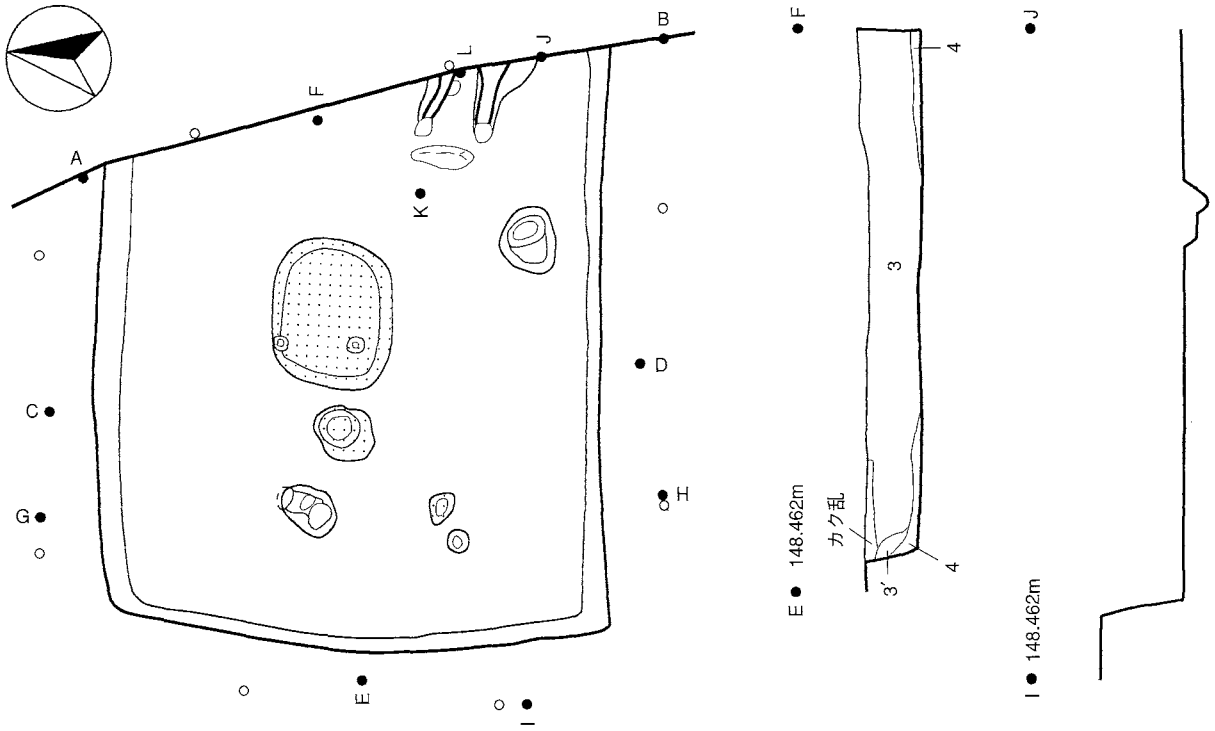
No	文　　様	法量 口径×底径×器高	焼　成 色　調	残　　存	備　　考
33	単節ＲＬを縦位施文する。	－ × － ×（7.2）	良 にぶい黄褐色	胴部の破片	加曽利Ｅ３～Ｅ４
34	幅狭の口縁部無文帯を区画する沈線を巡らし、無節Ｌｒを横位施文する。沈線で文様を描く。	－ × － ×（3.4）	良 にぶい黄色	口縁部の破片	加曽利Ｅ４
35	単節ＲＬを縦位施文後、沈線を垂下して縦位区画する。	－ × － ×（4.6）	良 黄褐色	胴部の破片	加曽利Ｅ３～Ｅ４
36	微隆起線を横位に巡らす。単節ＲＬを縦位施文後、沈線を垂下して縦位区画する。	－ × － ×（7.1）	良 にぶい黄色	胴部の破片	加曽利Ｅ３～Ｅ４
37	０段多条ＲＬを縦位・横位施文後、隆帯で文様を描く。	－ × － ×（6.9）	良 にぶい黄褐色	胴部の破片	加曽利Ｅ３～Ｅ４
38	単節ＲＬを縦位施文後、沈線で文様を描く。	－ × － ×（7.5）	良 にぶい黄橙色	胴部の破片	加曽利Ｅ４
39	単節ＬＲを縦位・横位施文後、隆帯で文様を描く。	－ × － ×（10.5）	良 にぶい黄橙色	胴部の破片	加曽利Ｅ４
40	単節ＲＬを縦位施文後、沈線で「∩」状区画文を配す。	－ × － ×（10.8）	良 にぶい黄橙色	胴部の破片	加曽利Ｅ４
41	沈線を垂下して縦位区画後、単節ＬＲを縦位施文する。	－ × － ×（6.6）	良 にぶい褐色	胴部の破片	加曽利Ｅ３～Ｅ４
42	単節ＲＬを縦位施文後、２条の沈線を垂下して縦位区画する。	－ × － ×（12.5）	良 にぶい黄色	胴部の破片	加曽利Ｅ３～Ｅ４
43	沈線による帯状無文帯で文様施文後、単節ＲＬを縦位・横位施文する。櫛歯状工具による条線を縦位施文する。	－ × － ×（14.4）	良 灰黄褐色	胴部の破片	加曽利Ｅ４ No44と同一個体
44	沈線による帯状無文帯で文様施文後、単節ＲＬを縦位施文する。	－ × － ×（8.7）	良 灰黄褐色	胴部の破片	加曽利Ｅ４ No43と同一個体
45	胴中央部が括れ、胴下部で膨らむ器形。胴中央部に単節ＬＲを縦位施文後、胴下部に沈線で波状文を描く。	－ × 8.3 ×（8.2）	良 橙色	胴中央部～底部の一部	加曽利Ｅ４
46	無節Ｌｒを横位施文する。	－ × － ×（4.4）	良 灰黄褐色	胴部の破片	加曽利Ｅ３～Ｅ４
47	沈線を垂下して縦位区画し、直前段反撚（ＬＬ）を縦位施文する。	－ × － ×（4.8）	良 暗灰黄色	胴部の破片	加曽利Ｅ３～Ｅ４ No３・48・49・50と同一個体
48	直前段反撚（ＬＬ）を縦位施文する。	－ × － ×（6.5）	良 黄褐色	胴部の破片	加曽利Ｅ３～Ｅ４ No３・47・49・50と同一個体
49	直前段反撚（ＬＬ）を縦位施文後、３条の沈線を垂下して縦位区画する。	－ × － ×（6.1）	良 明黄褐色	胴部の破片	加曽利Ｅ３～Ｅ４ No３・47・48・50とと同一個体
50	直前段反撚（ＬＬ）を縦位施文後、沈線を垂下して縦位区画する。	－ × － ×（6.9）	良 橙色	胴部の破片	加曽利Ｅ３～Ｅ４ No３・47・48・49と同一個体
51	単節ＲＬを縦位施文後、沈線を垂下して縦位区画する。	－ × － ×（7.9）	良 橙色	胴部の破片	加曽利Ｅ３～Ｅ４
52	沈線を縦位・斜位に施す。	－ × － ×（6.2）	良 橙色	胴部の破片	加曽利Ｅ３～Ｅ４
53	数条の沈線を垂下して縦位区画する。	－ × － ×（6.4）	良 明赤褐色	胴部の破片	加曽利Ｅ３～Ｅ４
54	沈線で文様を描く。	－ × － ×（2.5）	良 明黄褐色	胴部の破片	加曽利Ｅ４ 内面磨滅著しい。
55	隆帯を横位に巡らし、櫛歯状工具による条線を縦位施文する。	－ × － ×（7.0）	良 にぶい黄橙色	胴部の破片	加曽利Ｅ４
56	隆帯を横位に巡らし、櫛歯状工具による条線を縦位施文する。	－ × － ×（6.5）	良 にぶい黄橙色	胴部の破片	加曽利Ｅ４
57	櫛歯状工具による条線を縦位施文する。	－ × － ×（6.8）	良 橙色	胴部の破片	加曽利Ｅ３～Ｅ４
58	櫛歯状工具による条線を縦位施文する。	－ × － ×（5.5）	良 にぶい黄橙色	胴部の破片	加曽利Ｅ３～Ｅ４
59	櫛歯状工具による条線を縦位施文する。	－ × － ×（5.5）	良 明黄褐色	胴部の破片	加曽利Ｅ３～Ｅ４
60	櫛歯状工具による条線を縦位施文する。	－ × － ×（4.5）	良 にぶい黄褐色	胴部の破片	加曽利Ｅ３～Ｅ４
61	櫛歯状工具による条線を縦位施文する。	－ × － ×（4.5）	良 灰黄褐色	胴部の破片	加曽利Ｅ３～Ｅ４
62	櫛歯状工具による条線を縦位・斜位施文する。	－ × － ×（3.3）	良 にぶい黄橙色	胴部の破片	加曽利Ｅ３～Ｅ４
63	横位に巡らした隆帯より隆帯を垂下して縦位区画し、接点部分に押捺を施す。２条の沈線で「∩」状区画文を施文後、単節ＲＬを縦位施文する。	－ × － ×（4.2）	良 灰黄褐色	口辺部の破片	加曽利Ｅ３～Ｅ４
64	蕨手状沈線を垂下する。	－ × － ×（5.6）	良 にぶい赤褐色	胴部の破片	加曽利Ｅ３～Ｅ４

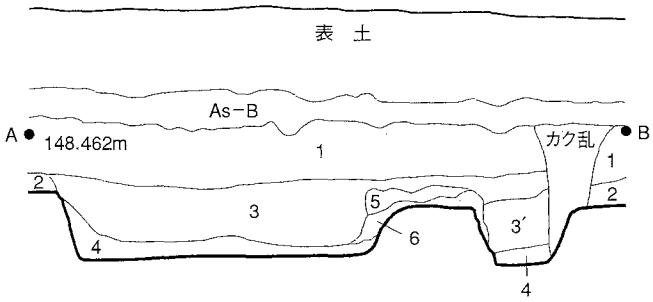
第５表　Ｊ－１号住出土遺物観察表（2）

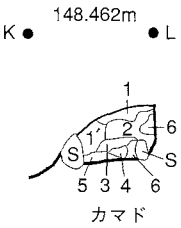
No	文　　様	法量 口径×底径×器高	焼　成 色　調	残　　存	備　　考
65	沈線で「Π」状区画文を配すと推定される。「Π」状区画文と「Π」状区画文間に押捺を施す。区画文内には、縄文施文されるが縄文原体不明。	－ × － ×（3.9）	やや不良 明黄褐色	胴部の破片	加曽利Ｅ４
66	微隆起線で「Ｕ」状区画文を配すと推定される。区画文内には単節ＲＬを縦位施文する。	－ × － ×（5.6）	良 にぶい黄橙色	胴部の破片	加曽利Ｅ４
67	単節ＲＬを縦位施文後、沈線を垂下して縦位区画する。	－ × － ×（5.8）	良 明褐色	胴部の破片	加曽利Ｅ３～Ｅ４
68	単節ＲＬを縦位施文後、沈線を垂下して縦位区画する。沈線を「∩」状に施す。	－ × － ×（5.9）	良 にぶい黄褐色	胴部の破片	加曽利Ｅ３～Ｅ４
69	微隆起線で「Ｕ」状区画文を配し、区画文内には単節ＲＬを縦位施文する。	－ × － ×（9.0）	良 橙色	胴部の破片	加曽利Ｅ４
70	波状口縁を呈す。口縁部に沿って隆帯を巡らし、複節ＬＲＬを縦位・横位施文する。	－ × － ×（6.1）	良 にぶい黄橙色	口縁部の破片	加曽利Ｅ４
71	波状口縁を呈す。０段多条ＲＬを縦位・横位施文後、２条の沈線で曲線文を描く。	－ × － ×（6.1）	良 にぶい黄橙色	口縁部の破片	加曽利Ｅ４
72	波状口縁を呈す。幅狭の口縁部無文帯を区画する沈線を巡らし、沈線で曲線文施文後、単節ＲＬを縦位・横位施文する。	－ × － ×（5.3）	良 にぶい黄褐色	口縁部の破片	加曽利Ｅ４
73	単節ＲＬを縦位施文後、沈線を垂下して縦位区画する。	－ × － ×（5.9）	良 橙色	胴部の破片	加曽利Ｅ３～Ｅ４
74	単節ＲＬを縦位施文後、２条の沈線を垂下して縦位区画し、「Ｕ」状区画文を配す。	－ × － ×（4.9）	良 橙色	胴部の破片	加曽利Ｅ４
75	単節ＲＬを縦位施文後、沈線を垂下して縦位区画し、「Ｕ」状・「∩」状区画文を配すと推定される。	－ × － ×（3.0）	良 にぶい黄橙色	胴部の破片	加曽利Ｅ４
76	単節ＲＬを縦位施文後、沈線を垂下して縦位区画し、沈線で「Ｕ」状区画文を配すと推定される。	－ × － ×（3.7）	良 にぶい黄橙色	胴部の破片	加曽利Ｅ４
77	単節ＲＬを縦位施文後、２条の沈線を垂下して縦位区画する。	－ × － ×（3.0）	良 にぶい黄褐色	胴部の破片	加曽利Ｅ３～Ｅ４
78	単節ＲＬを縦位施文後、２条の沈線を垂下して縦位区画する。	－ × － ×（3.3）	良 にぶい黄橙色	胴部の破片	加曽利Ｅ３～Ｅ４
79	沈線を垂下して縦位区画し、単節ＲＬを縦位施文する。	－ × － ×（4.7）	良 灰褐色	胴部の破片	加曽利Ｅ３～Ｅ４
80	単節ＬＲを縦位・横位施文後、沈線で文様を描く。	－ × － ×（4.2）	良 にぶい黄褐色	胴部の破片	加曽利Ｅ４
81	０段多条ＬＲを横位施文後、沈線を垂下して縦位区画する。	－ × － ×（3.7）	良 にぶい黄褐色	胴部の破片	加曽利Ｅ３～Ｅ４
82	単節ＬＲを横位施文後、沈線を垂下して縦位区画する。	－ × － ×（5.8）	良 にぶい黄褐色	胴部の破片	加曽利Ｅ３～Ｅ４
83	単節ＲＬを縦位施文後、２条の沈線を垂下して縦位区画する。	－ × － ×（4.6）	良 にぶい黄褐色	胴部の破片	加曽利Ｅ３～Ｅ４
84	数条の沈線を垂下して縦位区画後、無節Ｌｒを縦位施文する。	－ × － ×（7.6）	良 にぶい黄色	胴部の破片	加曽利Ｅ３～Ｅ４
85	無節Ｌｒを縦位施文する。	－ × － ×（4.9）	良 暗灰黄色	胴部の破片	加曽利Ｅ３～Ｅ４
86	口唇部より口縁部無文帯を区画する隆帯に橋状把手が付く。胴上部に複節ＬＲＬを縦位・横位施文する。	－ × － ×（7.0）	良 にぶい黄橙色	口縁部～胴上部の破片	加曽利Ｅ４

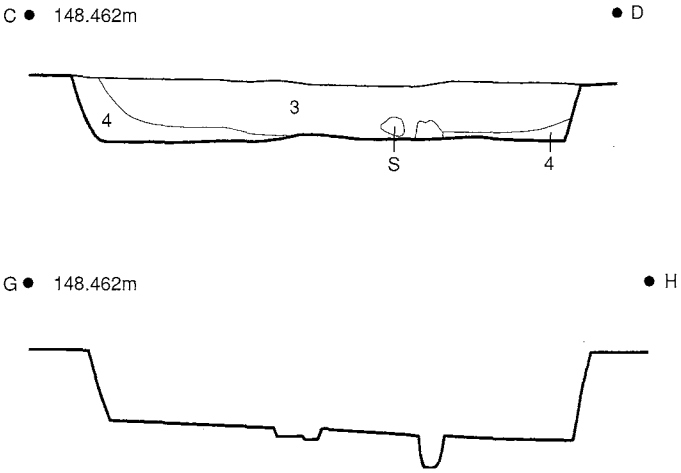
No	器　　種	石　　材	長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重量（g）	備　　考
87	磨製石斧Ｉｂ	緑色岩類	10.1	5.9	3	282	
88	石皿	安山岩	9.3	8.2	5.1	331.7	
89	石皿	結晶片岩	18.3	7.2	4.2	528	
90	石棒	結晶片岩	22.1	9.1	7.1	1866.4	
91	石棒	結晶片岩	8.9	8.1	8.1	667	
92	凹石ＶＣ	安山岩	7.2	10.5	3.1	414.9	
93	敲石Ⅱ	安山岩	13.9	8.7	4.8	881.5	
94	凹石ＶＣ	安山岩	15.1	9	4.9	887.5	
95	凹石ⅡＣ	安山岩	13.6	10	4.1	792.7	
96	敲石Ⅱ	安山岩	13.9	7	4.9	782	
97	磨石Ⅰ	安山岩	7.6	6.6	6	415	敲打痕有り
98	多孔石	安山岩	19.2	17.4	4.8	2786.4	
99	磨石Ⅴ	安山岩	6.1	9.6	5.5	408.8	
100	凹石Ｖｂ	安山岩	10.6	9.5	5.2	828.4	
101	磨石Ⅱ	安山岩	16.3	10.1	6.3	1435.9	
102	磨石Ⅱ	安山岩	12.8	6.7	3.9	552.5	
103	磨石Ⅴ	安山岩	12.1	9	4.3	78.1	敲打痕有り
104	凹石Ⅱｂ	安山岩	10.7	8.3	5.2	742.6	
105	石製品		13	7.2	5.4	71.2	軽石により削りだし整形されている

第６表　Ｊ－１号住出土遺物観察表（3）









H－1号住

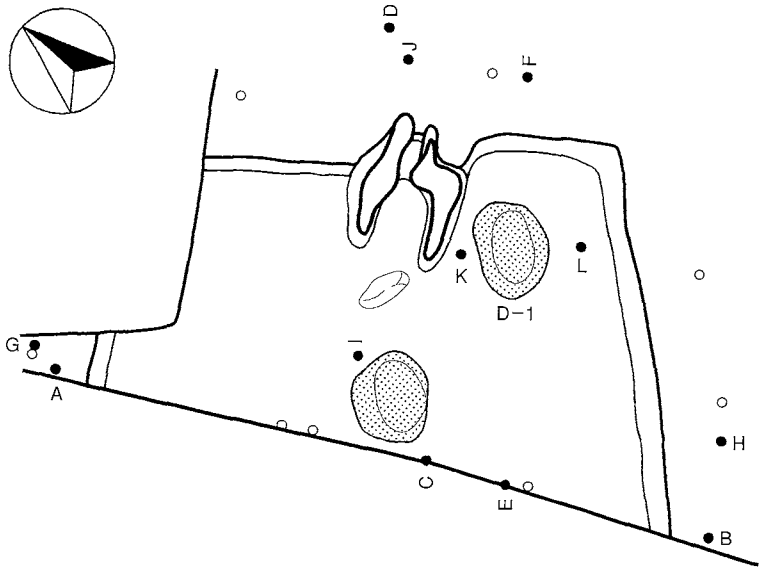
層番	層名	層名	色調	しまり	粘性	混入物 WP	YP	RP	焼土
1	10YR3/1	黒褐色土層		△	△	※	※		
2	10YR3/2	黒褐色土層		△	△	※	※		
3	10YR3/1	黒褐色土層	1<3	△	△	△	△	△	
3′	10YR3/1	黒褐色土層	3<3′	△	△	△	△	△	
4	10YR4/2	灰黄褐色土層		△	○	△	△	○	
5	10YR3/2	黒褐色土層		△	△	※	※	○	△
6	10YR5/4	にぶい黄褐色土層		○	○	△	△	◎	○

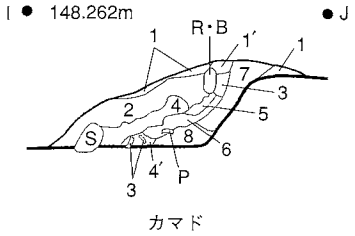
H－1号住　カマド

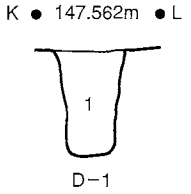
層番	層名	層名	色調	しまり	粘性	混入物 WP	YP	RP	RB	焼土
1	10YR4/1	褐灰色土層		△	△		※	△		※
1′	10YR4/1	褐灰色土層	1>1′	△	△	※	※	△		※
2	10YR6/3	にぶい黄橙色土層		○	○	△	△	○		△
3	10YR5/2	灰黄褐色土層		△	△	※	※	△		△
4	5YR4/3	にぶい赤褐色土層		△	△			○		◎
5	10YR4/1	褐灰色土層		△	△	※	※	△		△
6	10YR4/1	褐灰色土層		△	△	※	※	※		

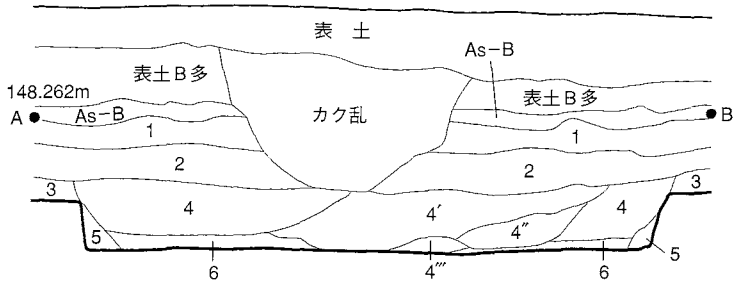
0　2.5m

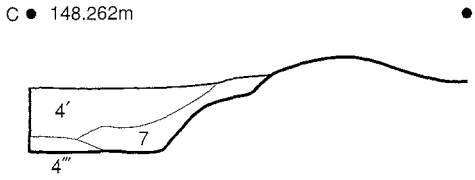
第15図　H－1号住居址実測図

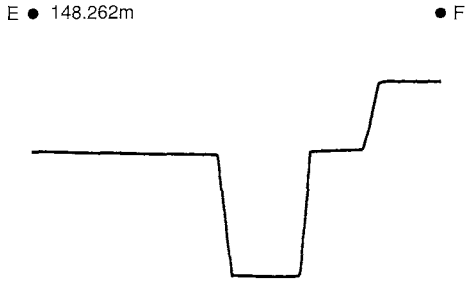


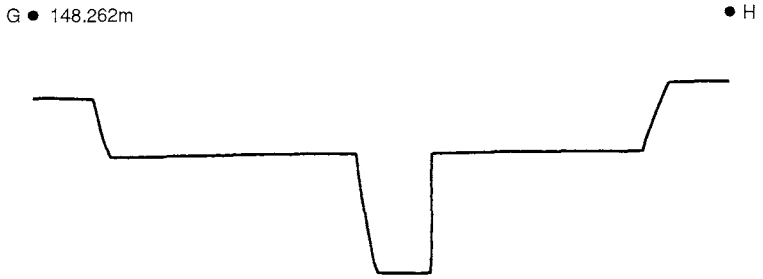












H−2号住

層番	層名	層名	色調	しまり	粘性	混入物			
						WP	YP	RP	焼土
1	10YR2/1	黒色土層		△	△	※	※		
2	10YR2/2	黒褐色土層		△	△	△	△	※	
3	10YR3/2	黒褐色土層		△	△	※	※		
4	10YR3/2	黒褐色土層		△	△	※	△	△	
4′	10YR3/2	黒褐色土層	4≦4′	△	△	△	△	△	
4″	10YR3/3	暗褐色土層		△	△	△	△	○	
4‴	10YR3/2	黒褐色土層		△	△	※	※	※	
5	10YR4/2	灰黄褐色土層		△	△		※	※	
6	10YR6/6	明黄褐色土層		◎	○			◎	
7	10YR3/3	暗褐色土層		△	△	△	△	○	○

H−2号住　カマド

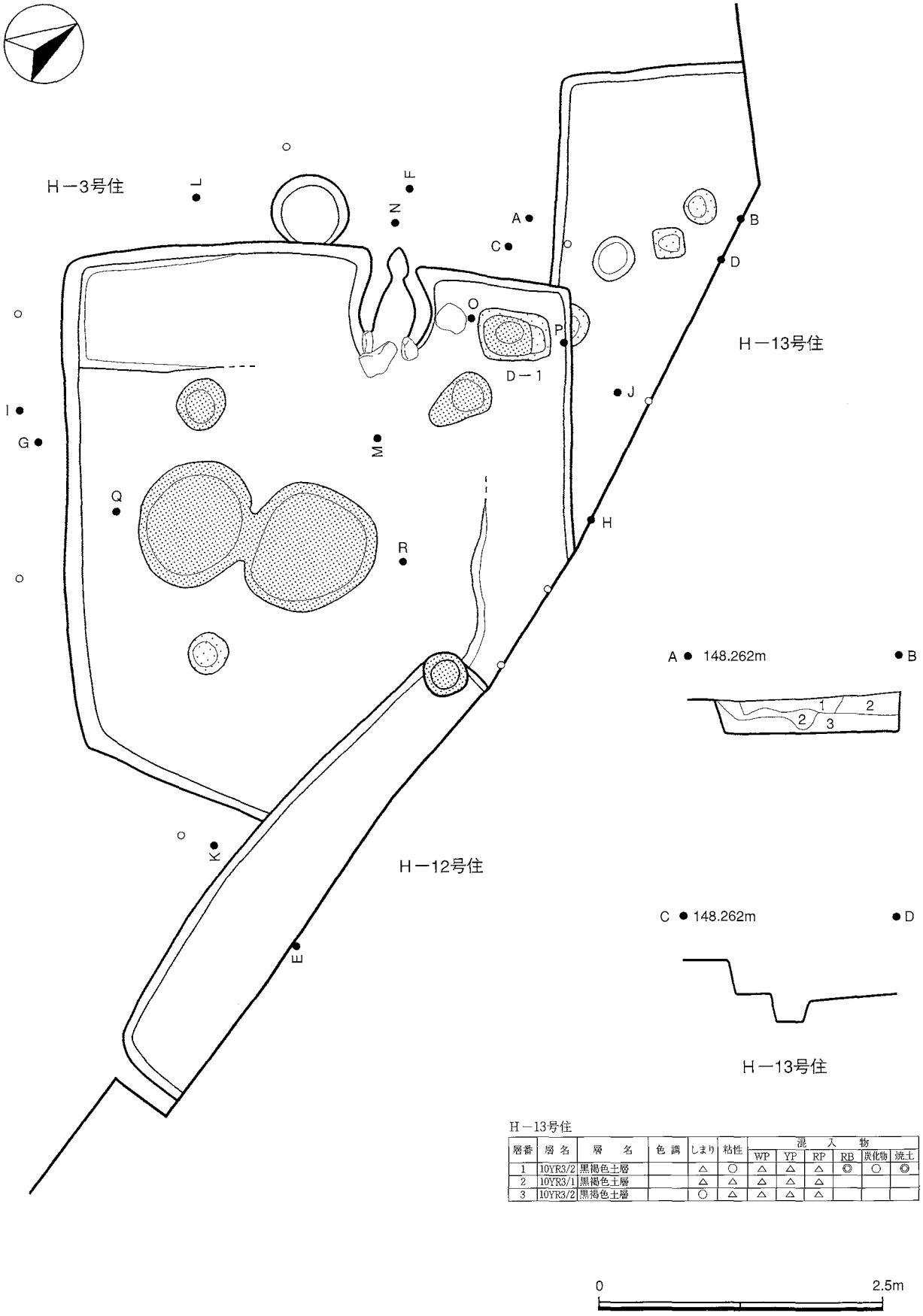
層番	層名	層名	色調	しまり	粘性	混入物			
						WP	YP	RP	焼土
1	10YR3/1	黒褐色土層		△	△	※	※	※	
1′	10YR3/2	黒褐色土層		△	△	※	※	△	
2	10YR7/4	にぶい黄橙色土層		△	○	※	△	○	
3	10YR6/3	にぶい黄橙色土層		△	○	※	△	◎	
4	10YR3/1	黒褐色土層		△	△	※	※	△	
4′	10YR3/1	黒褐色土層		△	△	※	※	△	△
5	10YR7/6	明黄褐色土層		△	○	※	※	◎	△
6	5YR4/8	赤褐色土層		△	△			○	◎
7	5YR4/6	赤褐色土層		△	△	※	△	○	○
8	5YR6/4	にぶい橙色土層		△	△		△	○	△

H−2号住　D−1

層番	層名	層名	色調	しまり	粘性	混入物			
						WP	YP	RP	炭化物
1	10YR3/1	黒褐色土層		△	△	※	△	△	△

0　2.5m

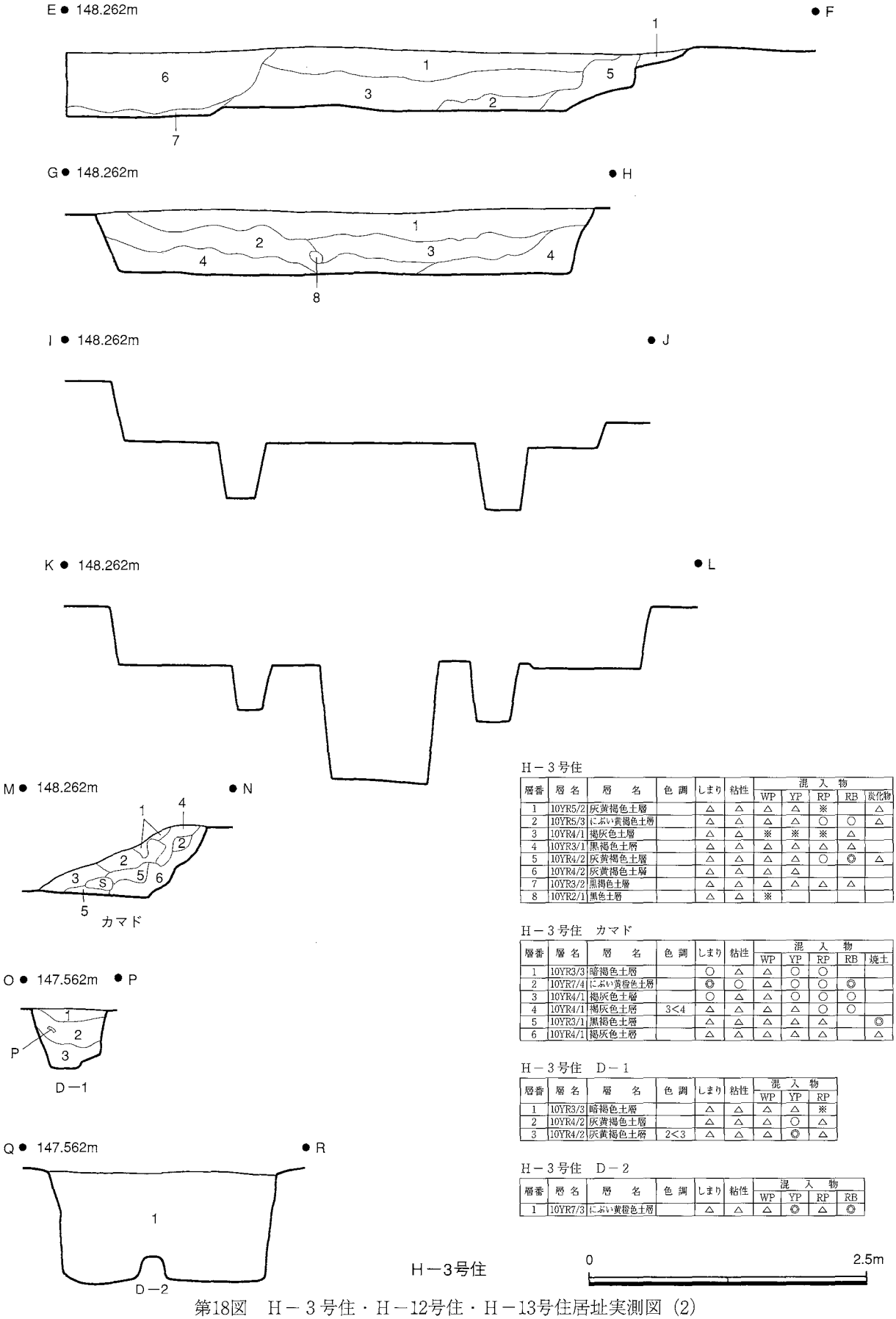
第16図　H−2号住居址実測図



H－13号住

層番	層名	層名	色調	しまり	粘性	混入物					
						WP	YP	RP	RB	炭化物	焼土
1	10YR3/2	黒褐色土層		△	○	△	△	△	◎	○	◎
2	10YR3/1	黒褐色土層		△	△	△	△	△			
3	10YR3/2	黒褐色土層		○	△	△	△	△			

第17図　H－3号住・H－12号住・H－13号住居址実測図（1）



H－3号住

層番	層名	層名	色調	しまり	粘性	混入物				
						WP	YP	RP	RB	炭化物
1	10YR5/2	灰黄褐色土層		△	△	△	△	※		△
2	10YR5/3	にぶい黄褐色土層		△	△	△	△	○	○	△
3	10YR4/1	褐灰色土層		△	△	※	※	※	△	
4	10YR3/1	黒褐色土層		△	△	△	△	△	△	
5	10YR4/2	灰黄褐色土層		△	△	△	△	○	◎	△
6	10YR4/2	灰黄褐色土層		△	△	△	△			
7	10YR3/2	黒褐色土層		△	△	△	△	△	△	
8	10YR2/1	黒色土層		△	△	※				

H－3号住　カマド

層番	層名	層名	色調	しまり	粘性	混入物				
						WP	YP	RP	RB	焼土
1	10YR3/3	暗褐色土層		○	△	△	○	○		
2	10YR7/4	にぶい黄橙色土層		◎	○	△	○	○	◎	
3	10YR4/1	褐灰色土層		○	△	△	○	○	○	
4	10YR4/1	褐灰色土層	3<4	△	△	△	△	○	○	
5	10YR3/1	黒褐色土層		△	△	△	△	△		◎
6	10YR4/1	褐灰色土層		△	△	△	△	△		△

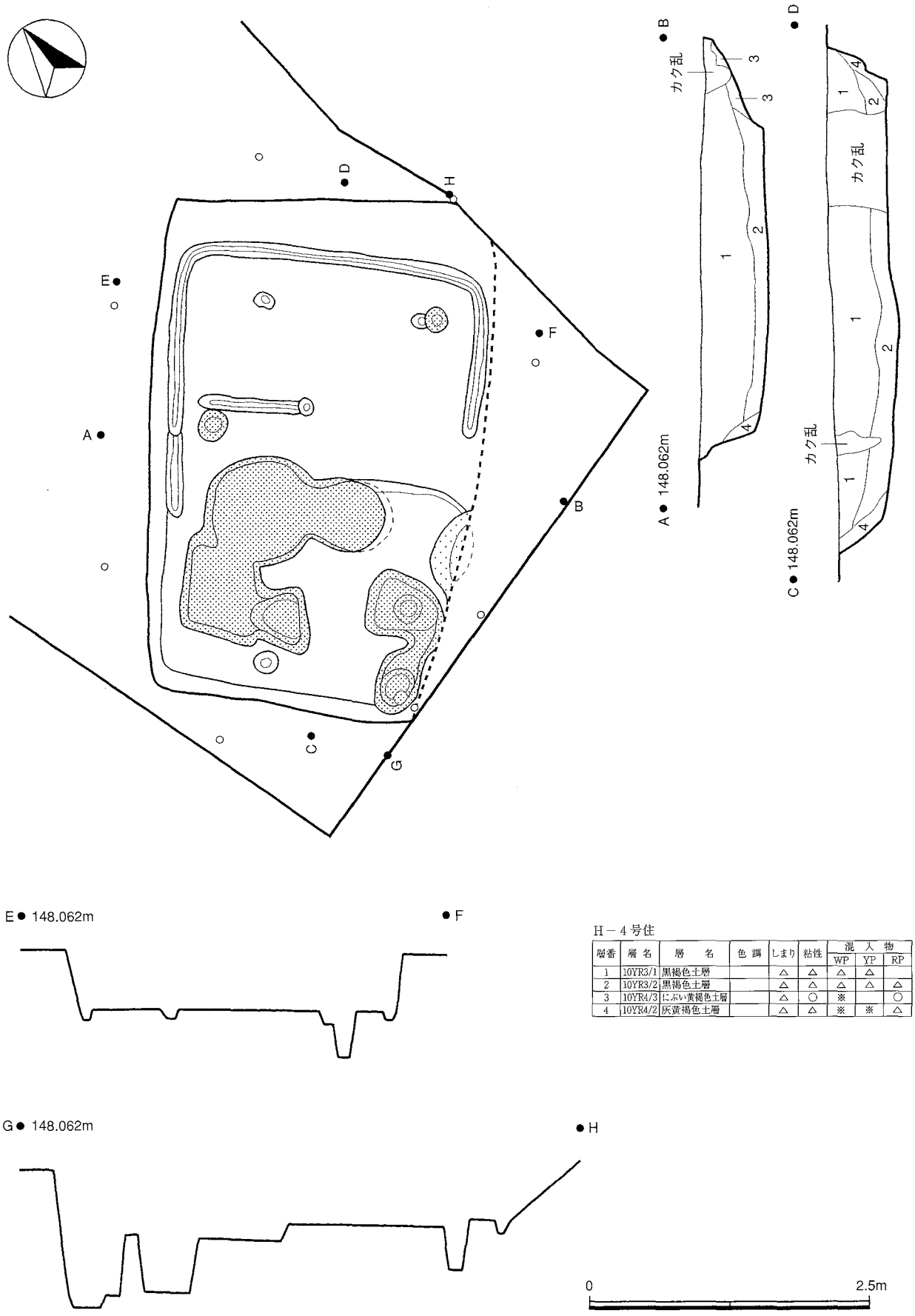
H－3号住　D－1

層番	層名	層名	色調	しまり	粘性	混入物		
						WP	YP	RP
1	10YR3/3	暗褐色土層		△	△	△	△	※
2	10YR4/2	灰黄褐色土層		△	△	△	○	△
3	10YR4/2	灰黄褐色土層	2<3	△	△	△	◎	△

H－3号住　D－2

層番	層名	層名	色調	しまり	粘性	混入物			
						WP	YP	RP	RB
1	10YR7/3	にぶい黄橙色土層		△	△	△	◎	△	◎

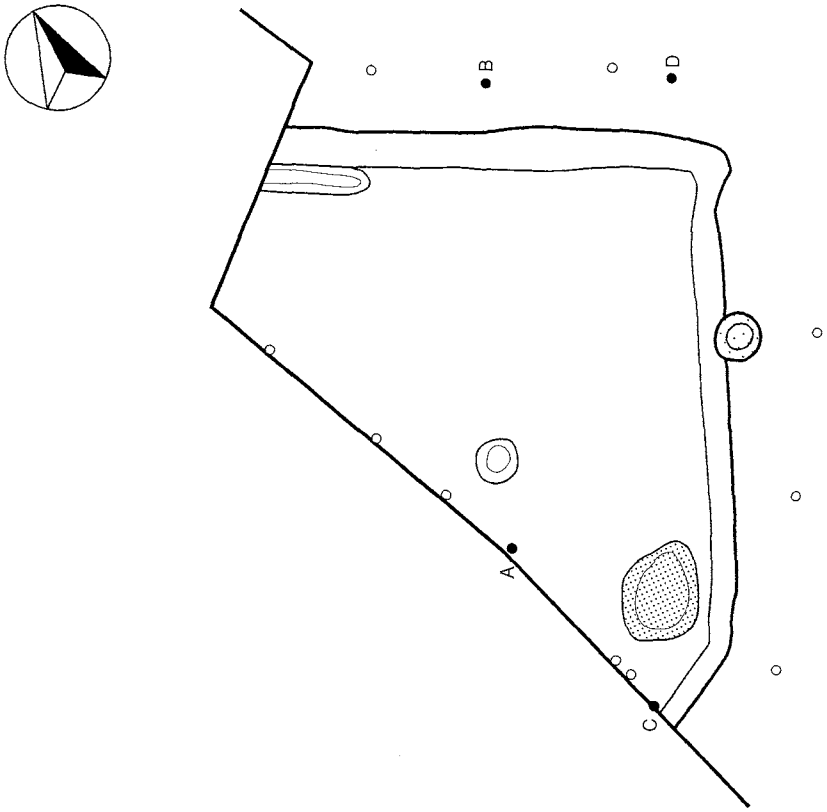
第18図　H－3号住・H－12号住・H－13号住居址実測図（2）

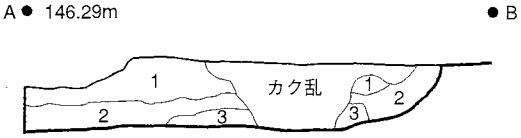


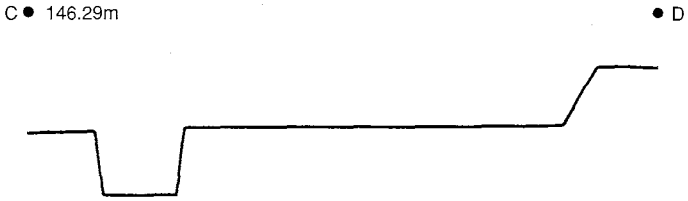
H－4号住

層番	層名	層名	色調	しまり	粘性	混入物		
						WP	YP	RP
1	10YR3/1	黒褐色土層		△	△	△	△	
2	10YR3/2	黒褐色土層		△	△	△	△	△
3	10YR4/3	にぶい黄褐色土層		△	○	※		○
4	10YR4/2	灰黄褐色土層		△	△	※	※	△

第19図　H－4号住居址実測図



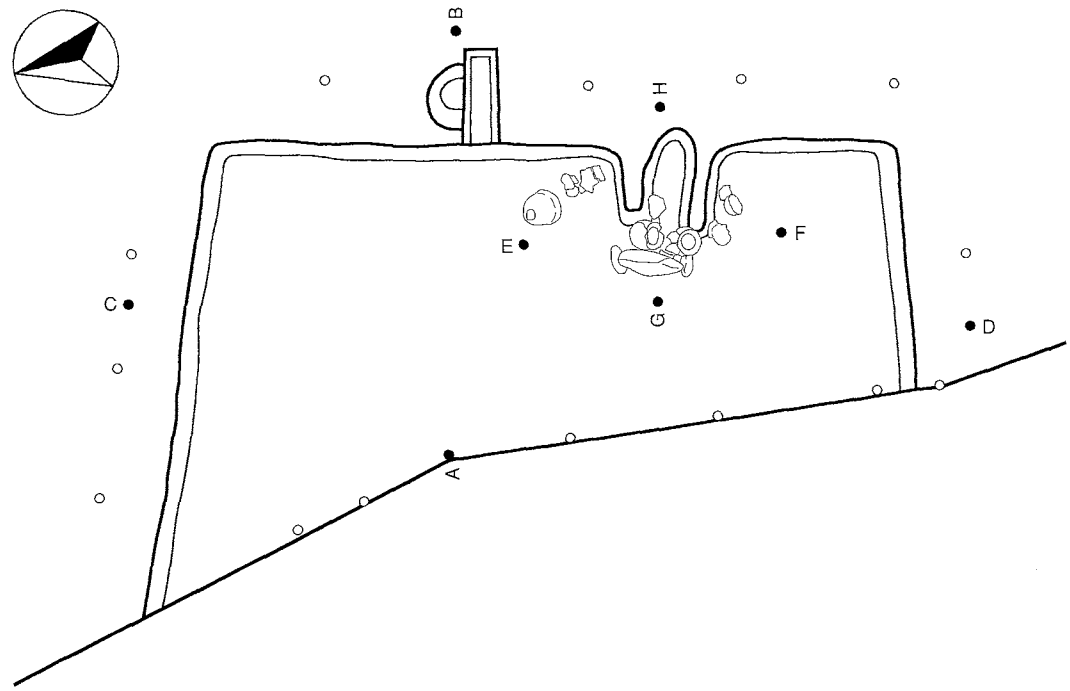


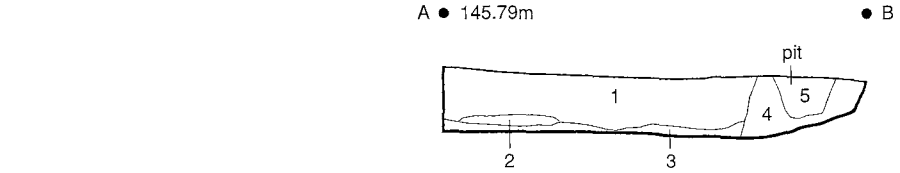


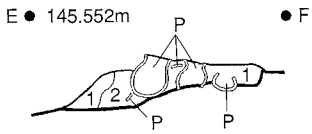
H－5号住

層番	層名	層名	色調	しまり	粘性	混入物		
						WP	YP	RP
1	10YR2/2	黒褐色土層		△	△	○	※	
2	10YR3/1	黒褐色土層		△	△	△	※	※
3	10YR4/2	灰黄褐色土層		○	○	※		○

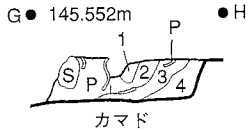
第20図　H－5号住居址実測図







カマド



カマド

H－6号住

層番	層名	層名	色調	しまり	粘性	混入物				
						WP	YP	RP	炭化物	焼土
1	10YR3/1	黒褐色土層		△	△	△	△	※		
2	10YR3/1	黒褐色土層		△	△	△	△	※	◎	
3	10YR2/1	黒色土層		△	△	※	※	○		△
4	10YR3/4	暗褐色土層		○	○	※	※	○		
5	10YR1.7/1	黒色土層		△	△	○	※			

H－6号住　カマド

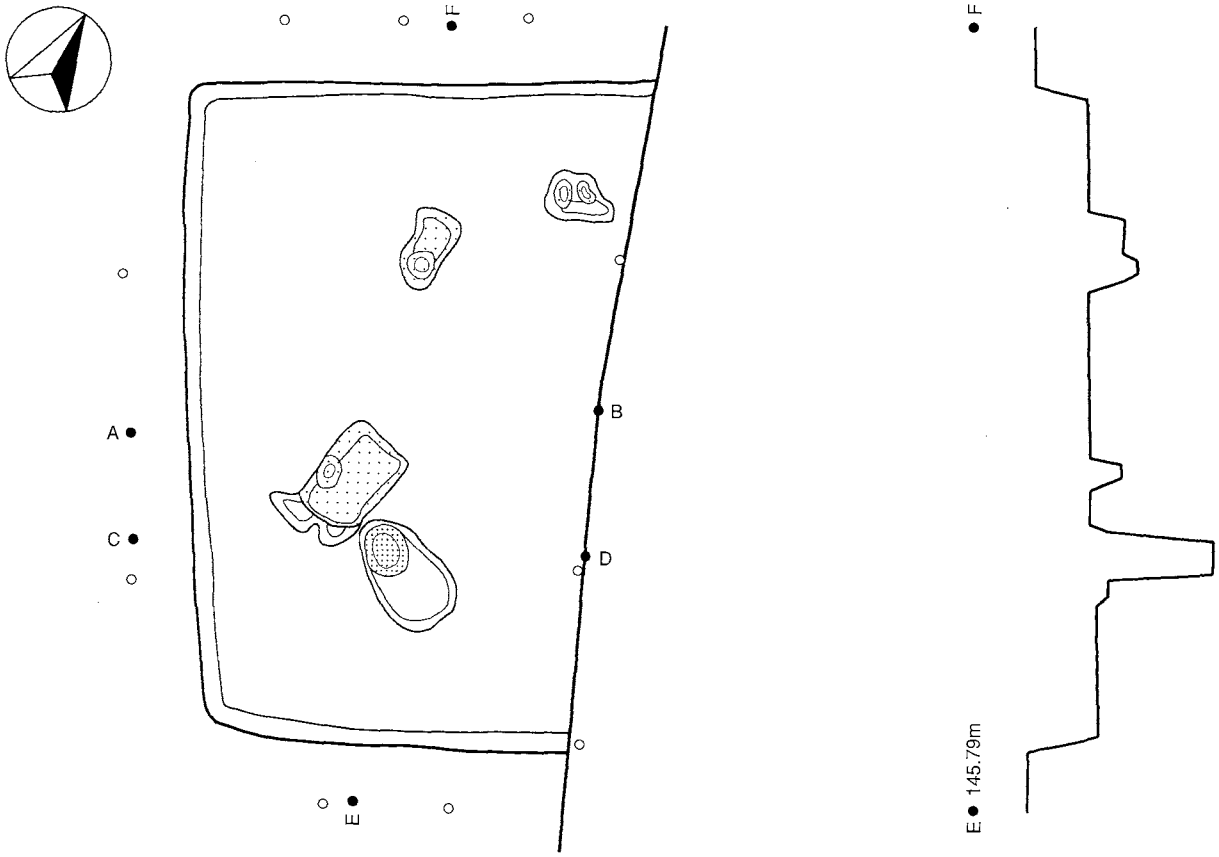
層番	層名	層名	色調	しまり	粘性	混入物			
						WP	YP	RP	焼土
1	10YR3/2	黒褐色土層		△	△	※	※	△	
2	10YR5/2	灰黄褐色土層		△	△	△	△	○	△

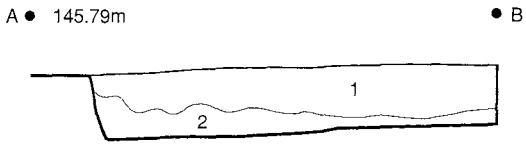
H－6号住　カマド

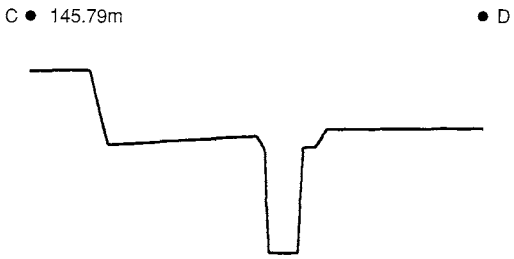
層番	層名	層名	色調	しまり	粘性	混入物					
						WP	YP	RP	RB	炭化物	焼土
1	10YR3/1	黒褐色土層		△	△	※	※	※	※		
2	10YR5/4	にぶい黄褐色土層		△	△	※	○	◎	○	△	△
3	5YR4/4	にぶい赤褐色土層		※	△	※	△	◎	○	△	○
4	10YR2/1	黒色土層		△	△	※	※	※			

0　2.5m

第21図　H－6号住居址実測図





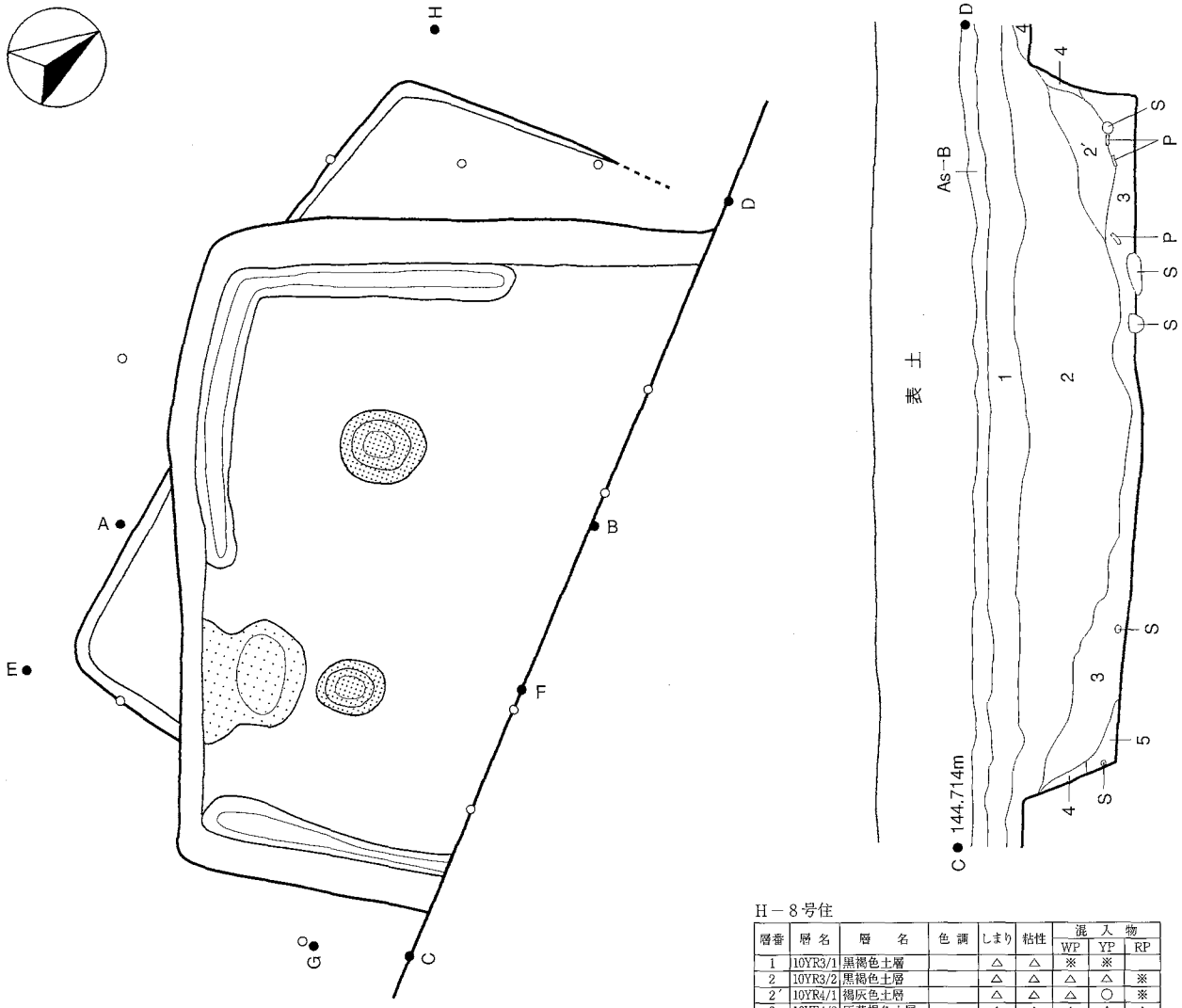


H－7号住

層番	層名	層名	色調	しまり	粘性	混入物		
						WP	YP	RP
1	10YR3/2	黒褐色土層		△	△	※	※	※
2	10YR3/3	暗褐色土層		△	△	△	△	△

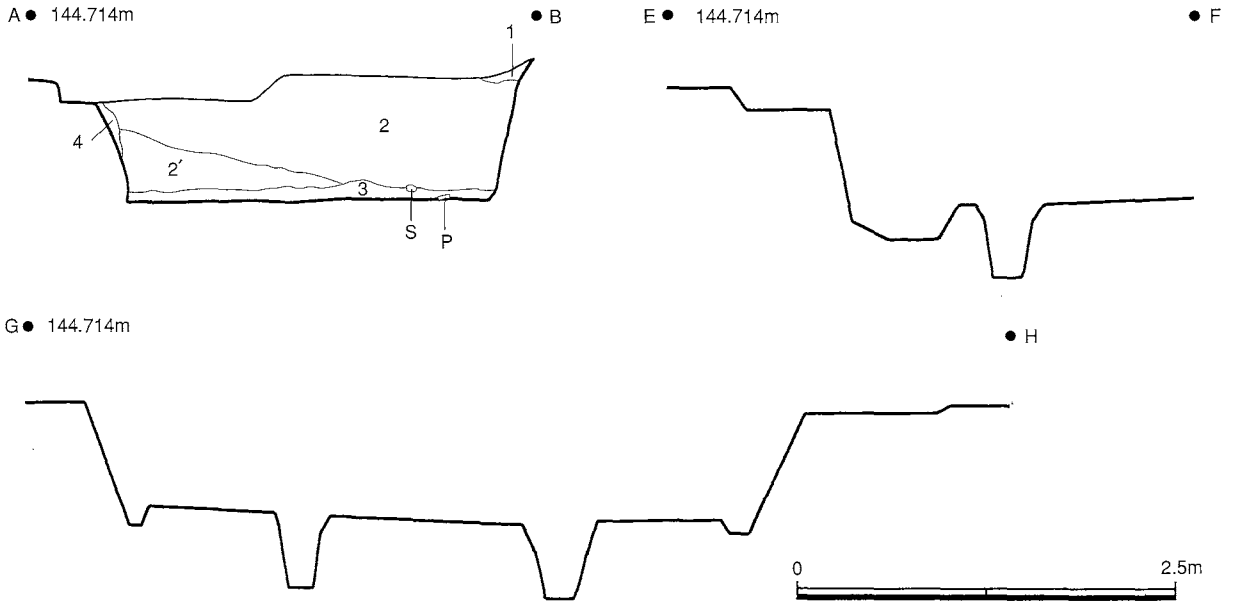
0 2.5m

第22図　H－7号住居址実測図

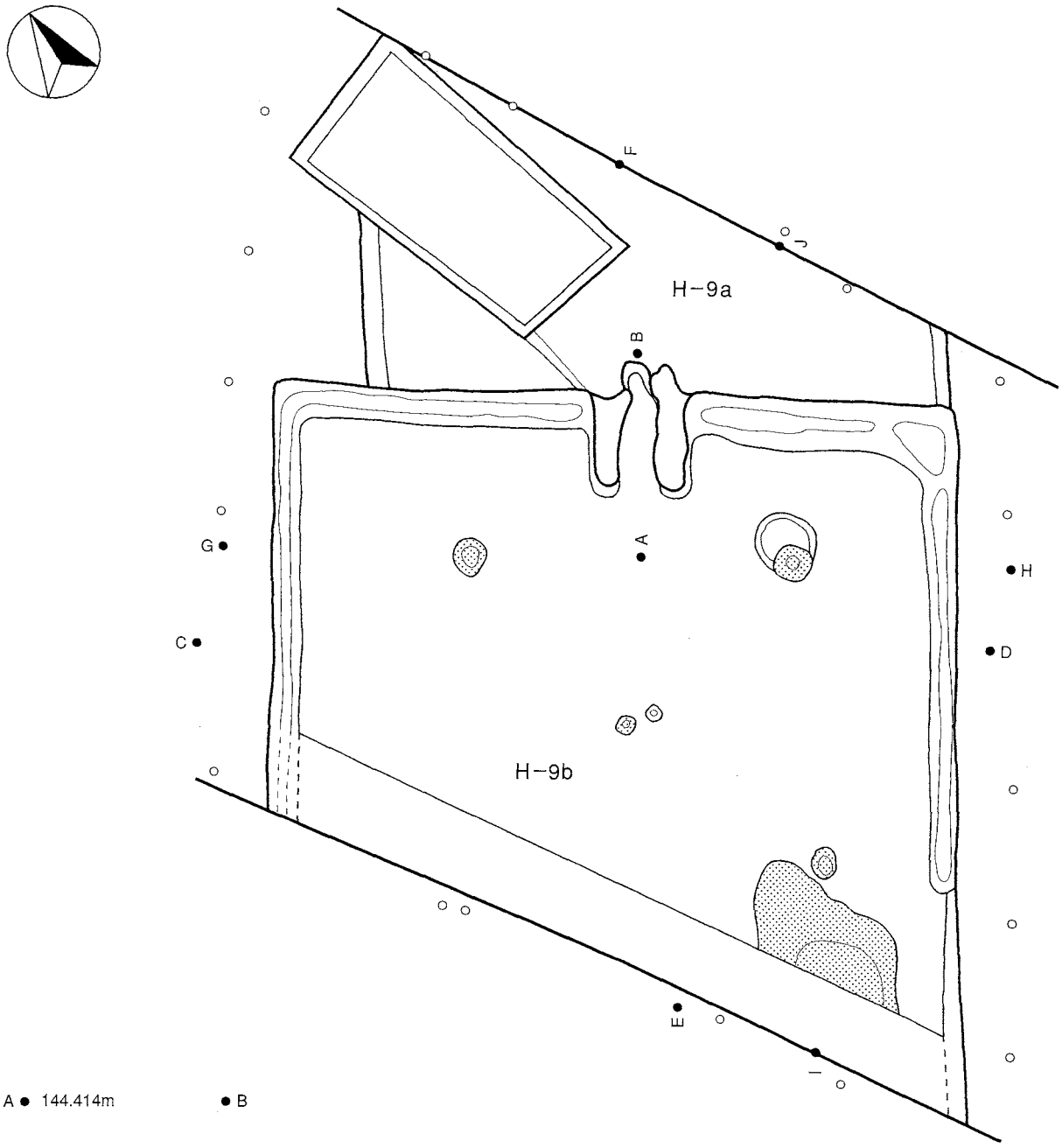


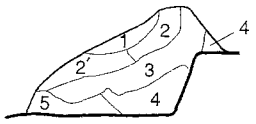
H－8号住

層番	層名	層名	色調	しまり	粘性	混入物		
						WP	YP	RP
1	10YR3/1	黒褐色土層		△	△	※	※	
2	10YR3/2	黒褐色土層		△	△	△	△	※
2′	10YR4/1	褐灰色土層		△	△	△	○	※
3	10YR4/2	灰黄褐色土層		△	△	△	△	△
4	10YR4/2	灰黄褐色土層		△	△	※	※	△
5	10YR2/1	黒色土層		△	△	※	※	△



第23図　H－8号住居址実測図





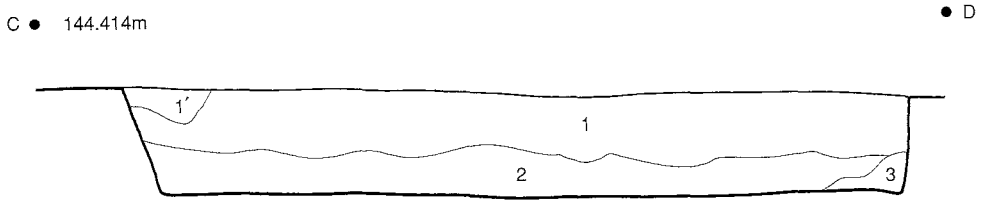
カマド

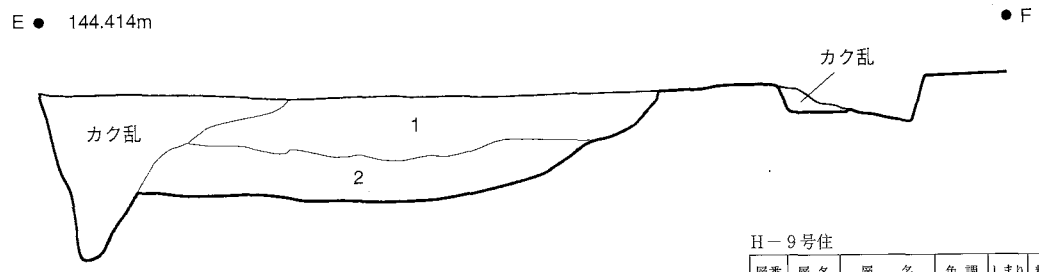
H−9号住　カマド

層番	層名	層名	色調	しまり	粘性	混入物				
						WP	YP	RP	RB	焼土
1	10YR4/2	灰黄褐色土層		△	△	※	△	△	△	※
2	10YR7/6	明黄褐色土層		○	○	※	△	○	○	△
2′	10YR7/6	明黄褐色土層	2<2′	○	◎	※	△	◎	◎	△
3	10YR3/3	暗褐色土層		△	△	△	△	△	△	△
4	10YR7/4	にぶい黄橙色土層		○	◎	※	△	◎	◎	○
5	10YR3/2	黒褐色土層		△	△	※	△	△	△	△

0　2.5m

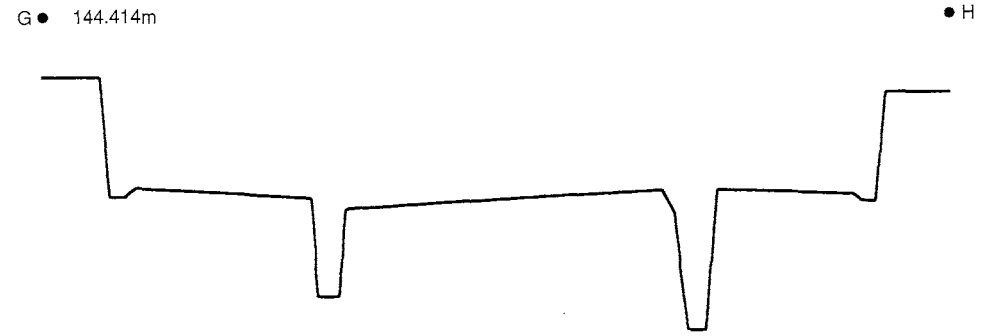
第24図　H−9 a・b号住居址実測図（1）

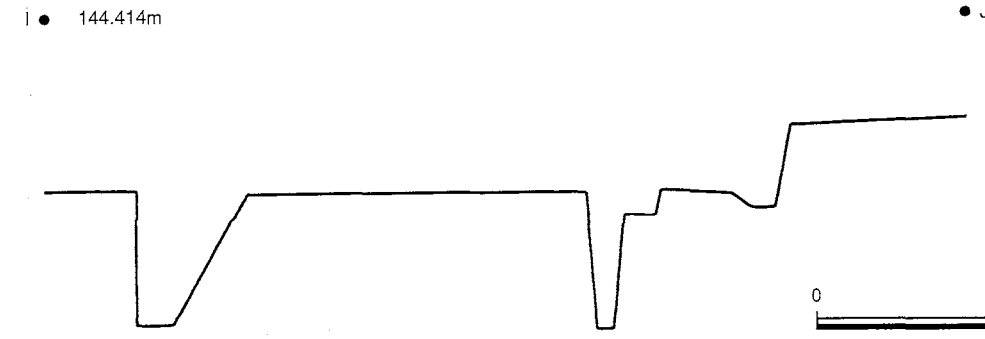




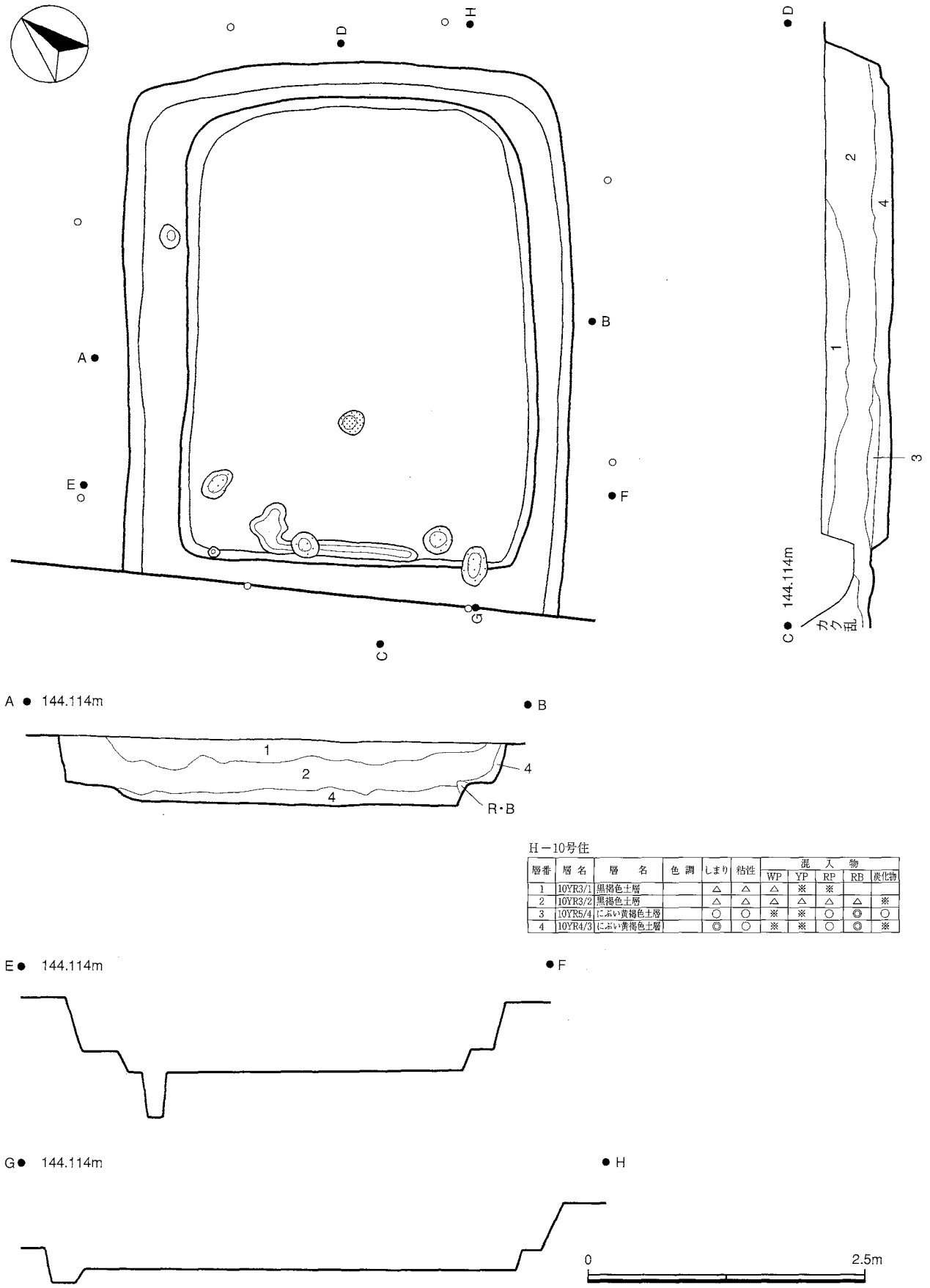
H－9号住

層番	層名	層名	色調	しまり	粘性	混入物			
						WP	YP	RP	RB
1	10YR4/2	灰黄褐色土層		○	△	△	○	○	○
1′	10YR3/2	黒褐色土層		△	△	※	△	△	△
2	10YR4/2	灰黄褐色土層		○	△	○	◎	○	△
3	10YR4/1	褐灰色土層		△	△	※	※	※	





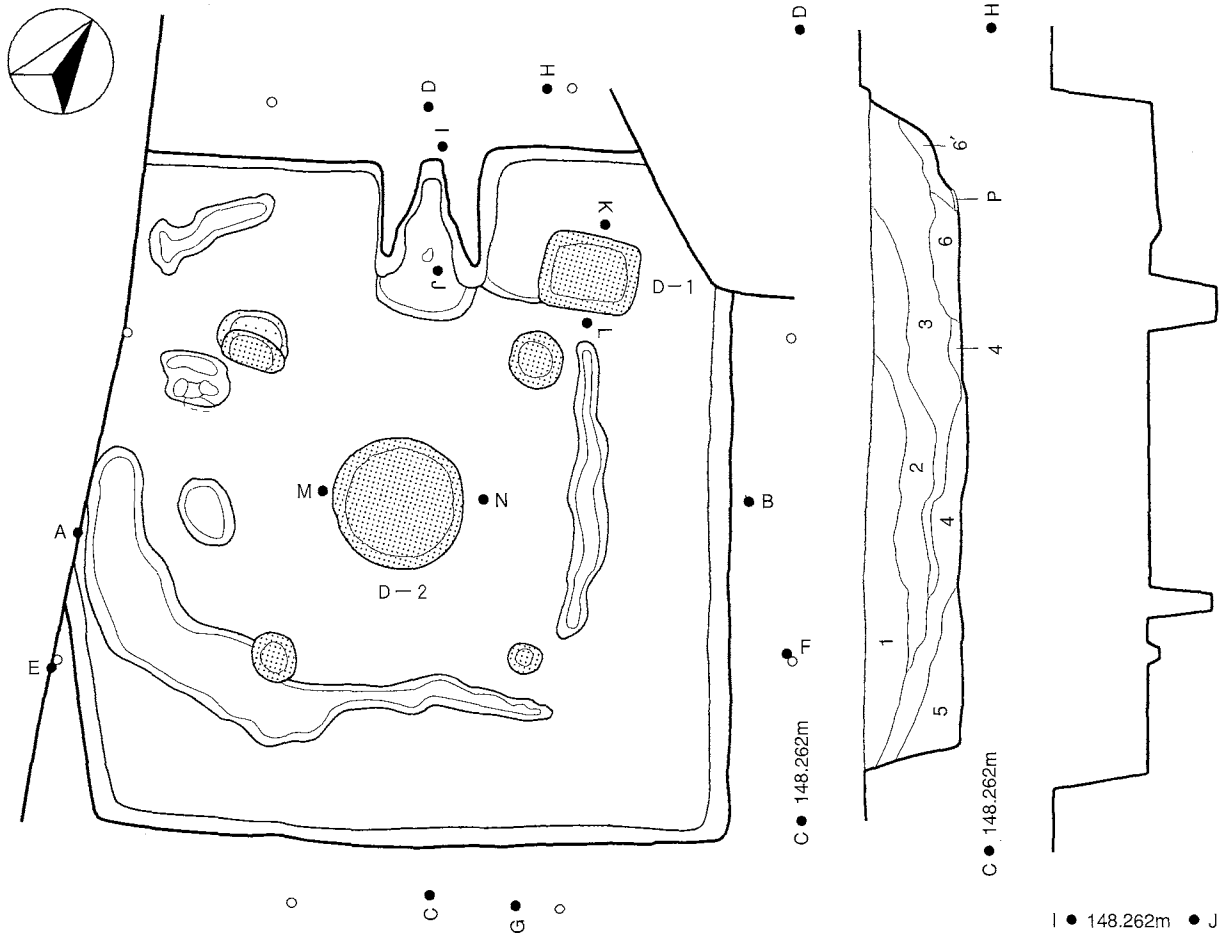
第25図　H－9 a・b 号住居址実測図 (2)

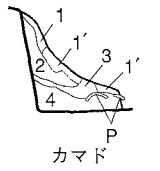


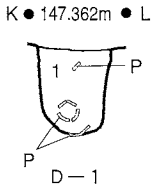
H－10号住

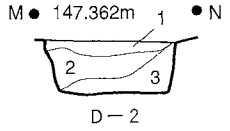
層番	層名	層名	色調	しまり	粘性	混入物				
						WP	YP	RP	RB	炭化物
1	10YR3/1	黒褐色土層		△	△	△	※	※		
2	10YR3/2	黒褐色土層		△	△	△	△	△	△	※
3	10YR5/4	にぶい黄褐色土層		○	○	※	※	○	◎	○
4	10YR4/3	にぶい黄褐色土層		◎	○	※	※	○	◎	※

第26図　H－10号住居址実測図









H－11号住

層番	層名	層名	色調	しまり	粘性	混入物 WP	YP	RP	RB
1	10YR4/2	灰黄褐色土層		△	△	△	△	△	
2	10YR5/3	にぶい黄褐色土層		△	△	※	※	△	○
3	10YR4/3	にぶい黄褐色土層		△	△	△	△	△	○
4	10YR5/3	にぶい黄褐色土層		△	△	※	※	△	○
5	10YR3/3	暗褐色土層		△	△	※	△	△	
6	10YR5/3	にぶい黄褐色土層		○	△	※	○	△	○
6′	10YR5/3	にぶい黄褐色土層	6<6′	△	△	※	△	△	△

H－11号住　カマド

層番	層名	層名	色調	しまり	粘性	混入物 WP	YP	RP	RB	焼土
1	10YR3/2	黒褐色土層		△	△		△	△	△	※
1′	10YR3/2	黒褐色土層	1<1′	△	△		△	△	△	※
2	10YR8/6	黄橙色土層		◎	◎			◎	◎	※
3	5YR5/6	明赤褐色土層		※	△		△	△	△	○
4	10YR3/2	黒褐色土層		△	△		△	△	△	△

H－11号住　D－1

層番	層名	層名	色調	しまり	粘性	混入物 WP	YP	RP
1	10YR3/2	黒褐色土層		△	△	△	○	△

H－11号住　D－2

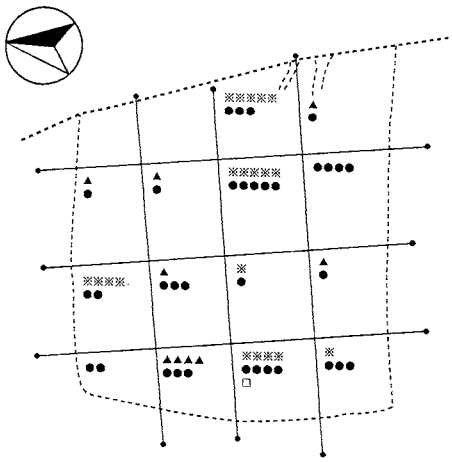
層番	層名	層名	色調	しまり	粘性	混入物 WP	YP	RP
1	10YR3/2	黒褐色土層		△	△	※	○	△
2	10YR6/6	明黄褐色土層		△	○		◎	△
3	10YR7/8	黄橙色土層		△	○		◎	

0　2.5m

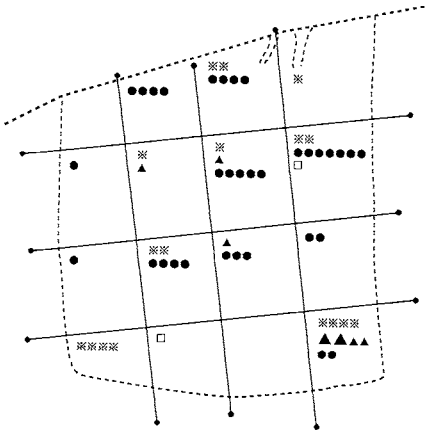
第27図　H－11号住居址実測図

住居名	平面形態	規模					主軸方向	主柱穴	炉・竈位置	周溝
		長軸m	短軸m	深さ最大cm	深さ最小cm	面積 m²				
J－1	柄鏡形	5.64	3.88	—	—	14.08（柄を含む）	N－42°－W	—	石囲い炉	—
H－1	縦長方形	3.84(現存)	3.32	58	47	(13.28)	N－86°－E	—	東壁南寄り	—
H－2	縦長方形	2.4(現存)	3.72	53	36	6.67（現存）	N－54°－E	—	東壁中央	—
H－3	正方形	4.8	4.4	58	47	(20.94)	N－59°－W	4	西壁北寄り	—
H－4	縦長方形	4.6	3.0	60	52	(12.70)	N－40°－E		—	最大深さ15cm 北壁中央～東壁～南壁中央
H－5	縦長方形	3.4(現存)	3.88(現存)	44	36	8.89（現存）	N－63°－W		—	最大深さ7cm 北壁西寄り
H－6	縦長方形	2.8(現存)	4.6	52	13	10.26（現存）	N－104°－E	—	東壁南寄り	—
H－7	縦長方形	3.0(現存)	4.32	50	32	12.01（現存）	N－60°－E		—	—
H－8	縦長方形	3.4(現存)	4.6	85	74	12.81（現存）	N－34°－E	2	—	最大深さ11cm 北壁西寄り～西壁中央及南壁
H－9a・b	縦長方形	4.6(現存)	5.2	77	61	18.83（現存）	N－30°－E	2	北壁中央	最大深さ1cm 西壁～北壁～東壁
H－10	縦長方形	5.0	4.0	64	59	(19.68)	N－48°－E	—	—	最大深さ8cm 西壁中央
H－11	正方形	4.6	4.2	74	11	(19.70)	N－35°－W	4	北壁中央	—
H－12	—	—	—	59	55	3.68（現存）	—	—	—	—
H－13	—	—	—	29	25	4.60（現存）	—	—	—	—

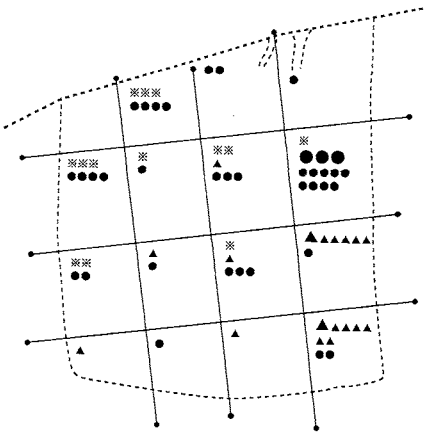
第7表　住居観察表



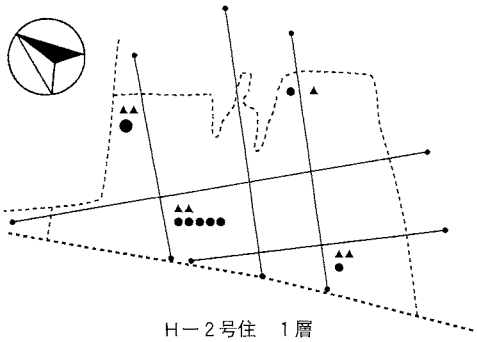
H－1号住　1層



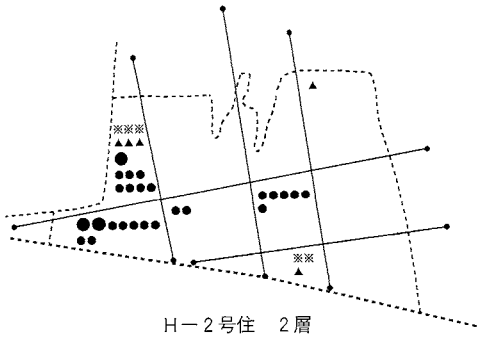
H－1号住　2層



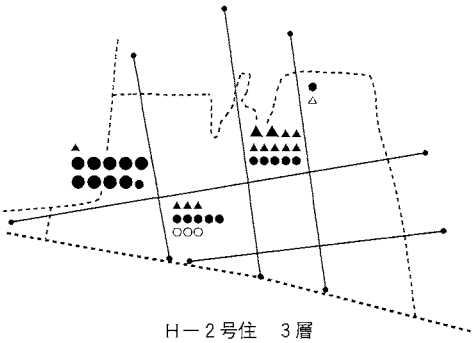
H－1号住　3層



H－2号住　1層



H－2号住　2層



H－2号住　3層

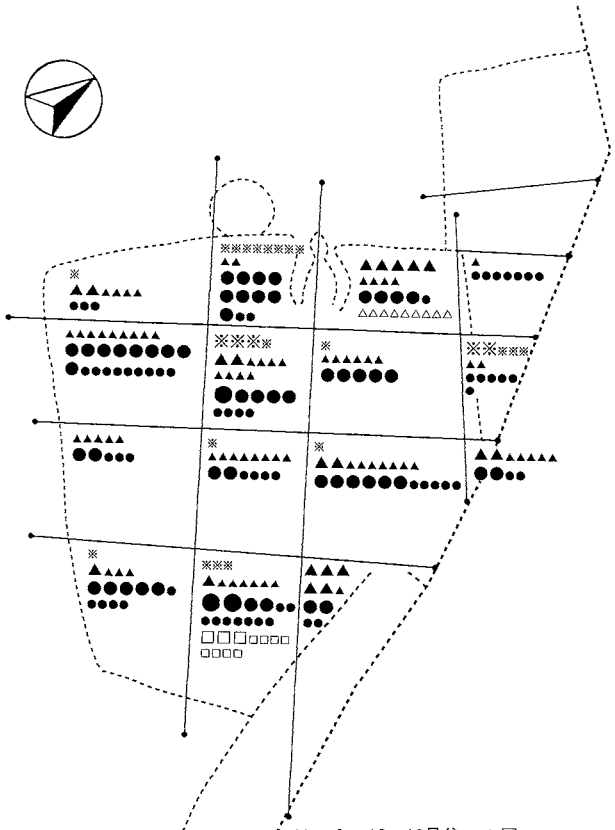
D－1

カマド

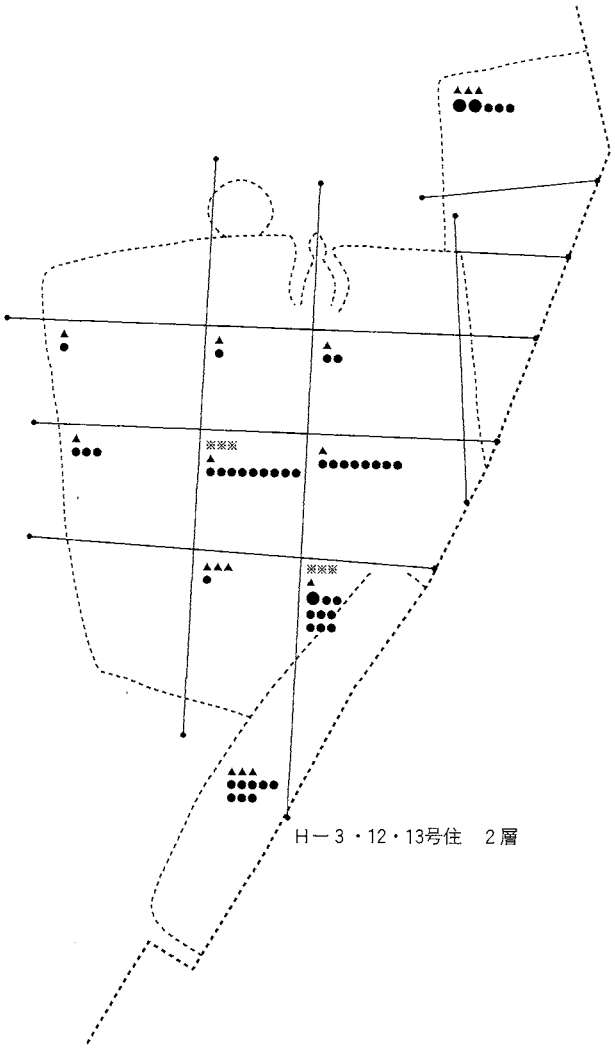
一括

		1g~10g	~100g	~1000g
縄文	前期	＊	＊	＊
	中期	※	※	※
	後記	＋	＋	＋
土師	ツキ	▲	▲	▲
	カメ（S字）	▼	▼	▼
	カメ	●	●	●
	カン	■	■	■
須恵	ツキ	△	△	△
	ハガマ	▽	▽	▽
	カメ	○	○	○
	フタ	□	□	□

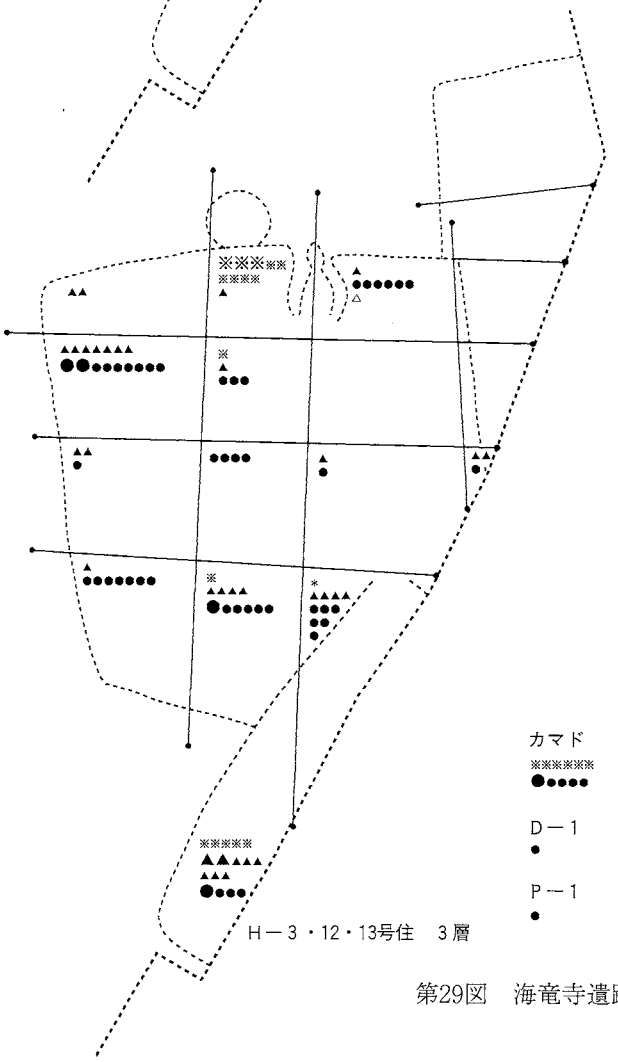
第28図　海竜寺遺跡出土遺物重量分布図（1）



H－3・12・13号住　1層

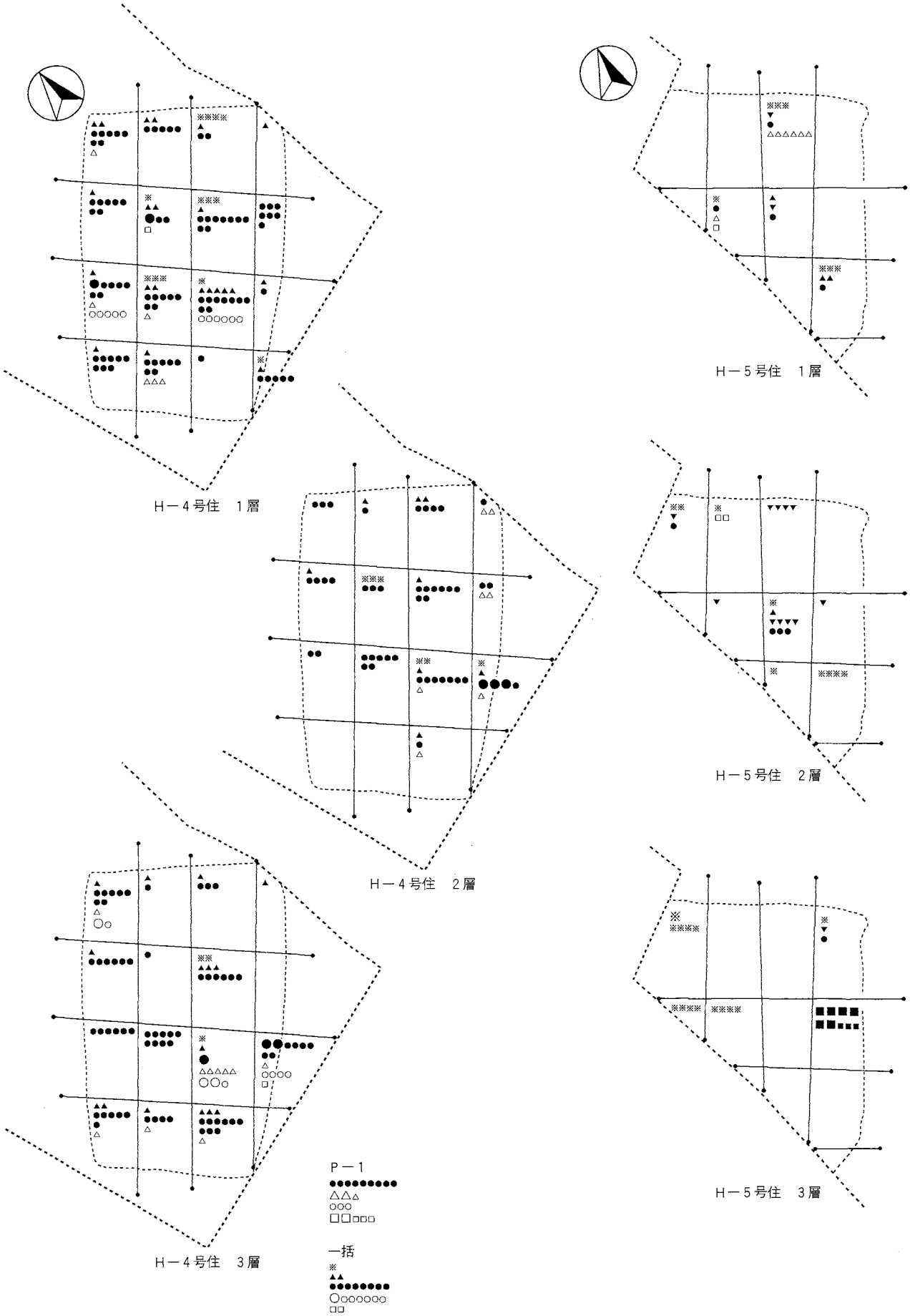


H－3・12・13号住　2層

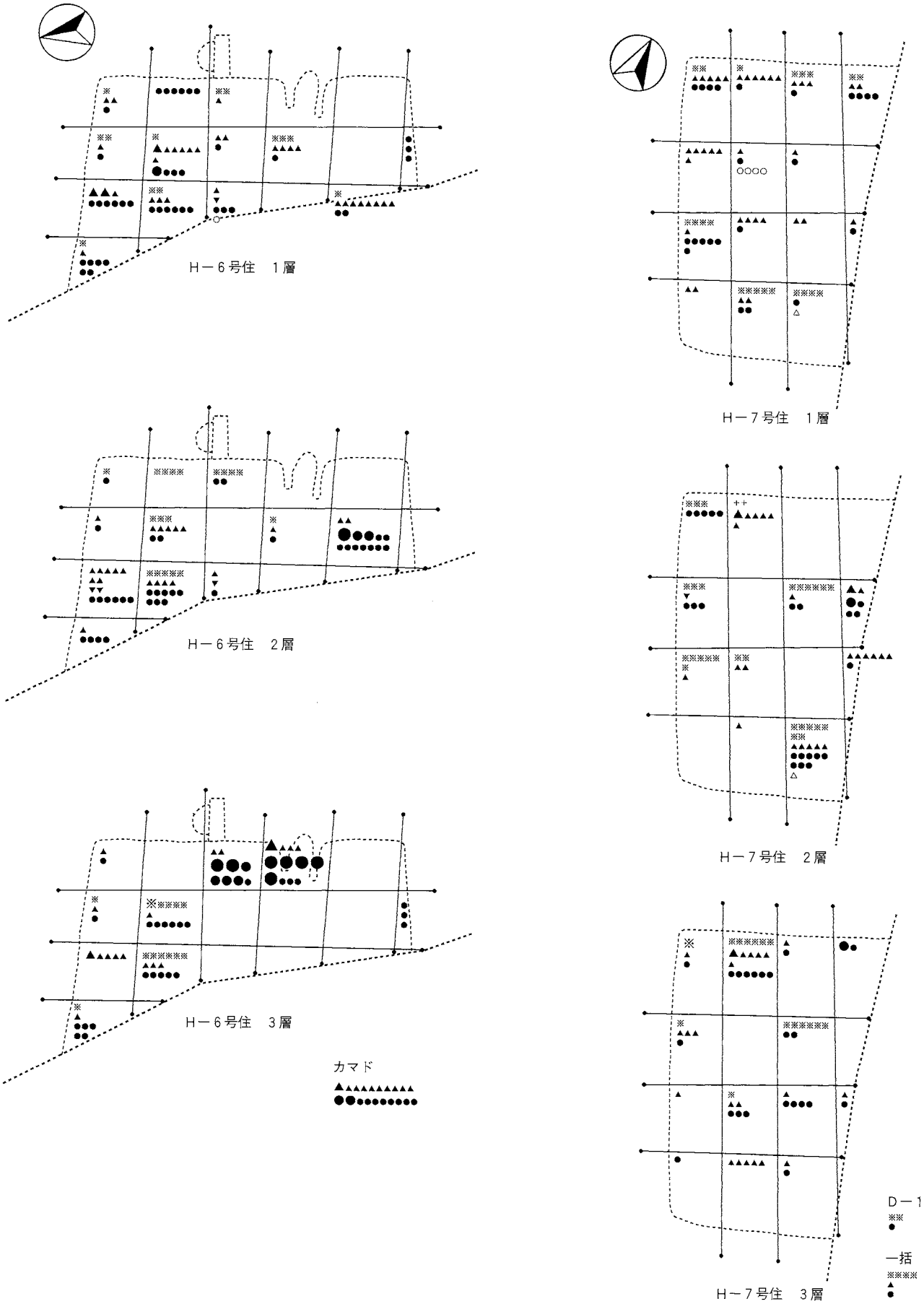


H－3・12・13号住　3層

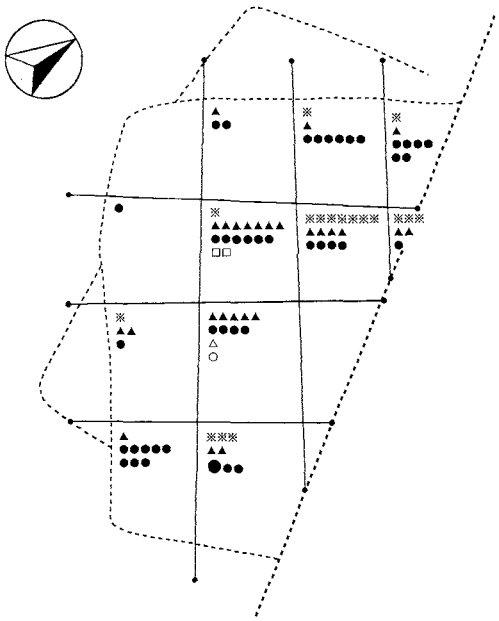
第29図　海竜寺遺跡出土遺物重量分布図（2）



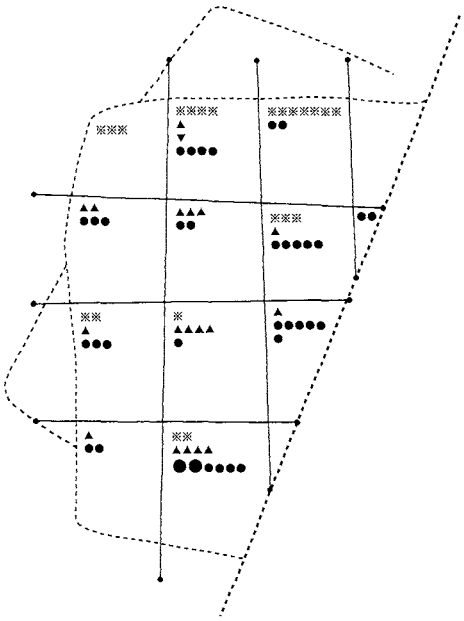
第30図　海竜寺遺跡出土遺物重量分布図（3）



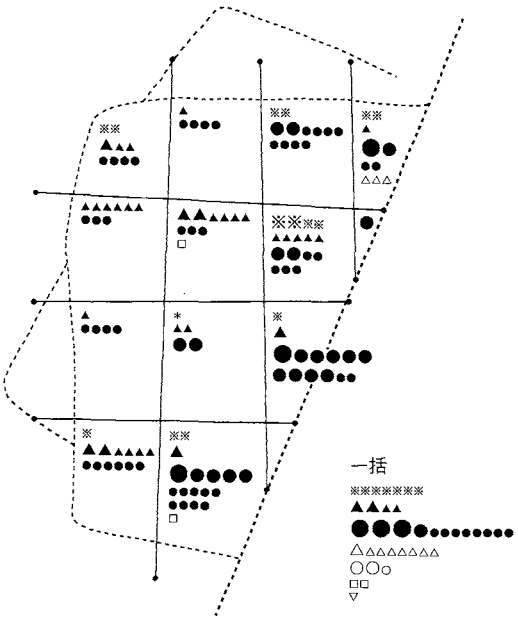
第31図　海竜寺遺跡出土遺物重量分布図（4）



H－8号住　1層

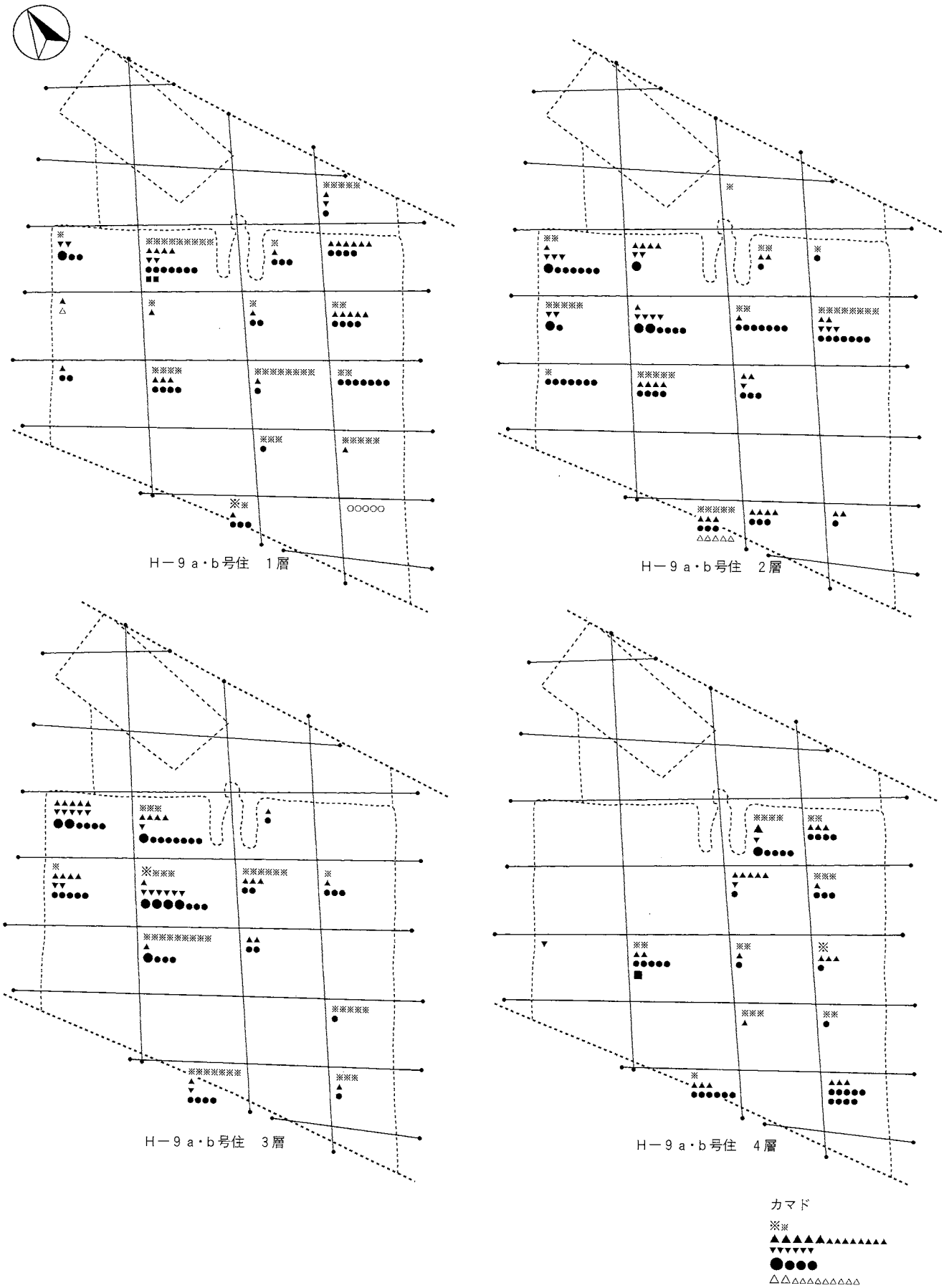


H－8号住　2層

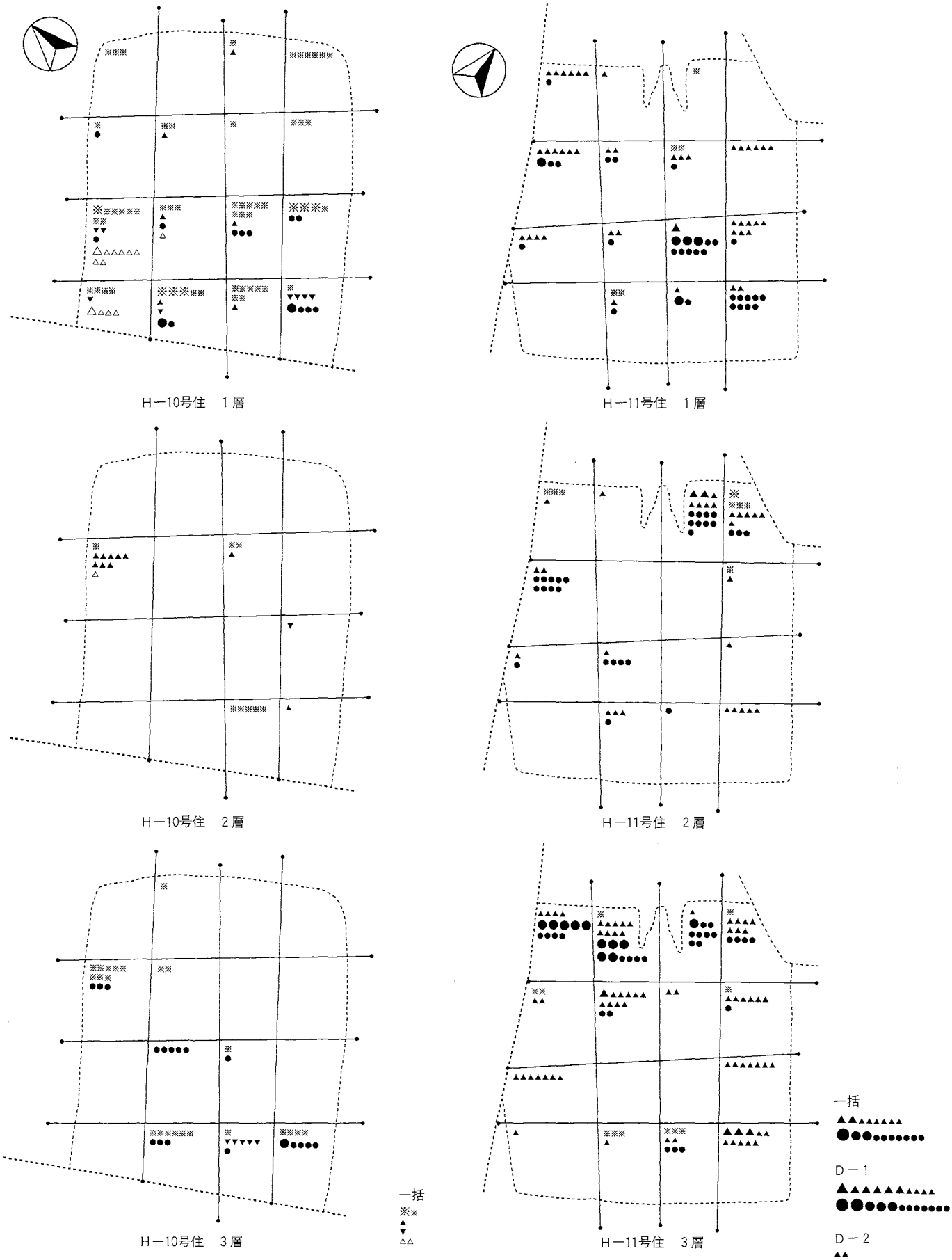


H－8号住　3層

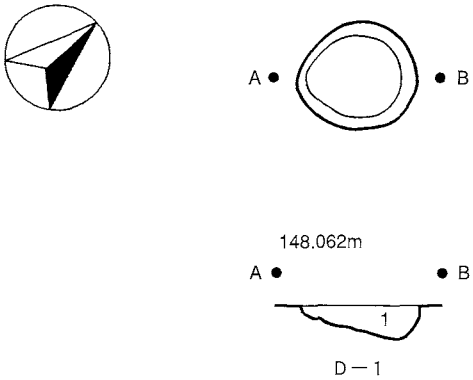
第32図　海竜寺遺跡出土遺物重量分布図（5）



第33図　海竜寺遺跡出土遺物重量分布図 (6)

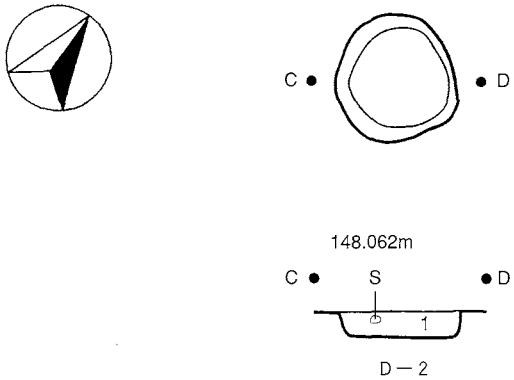


第34図　海竜寺遺跡出土遺物重量分布図（7）



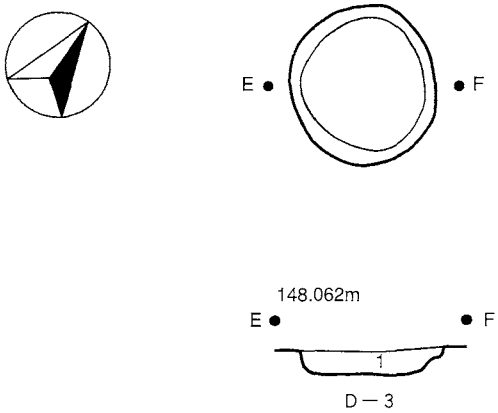
D－1

層番	層名	層　名	色調	しまり	粘性	混入物		
						WP	YP	RP
1	10YR3/1	黒褐色土層		△	△	△	△	※



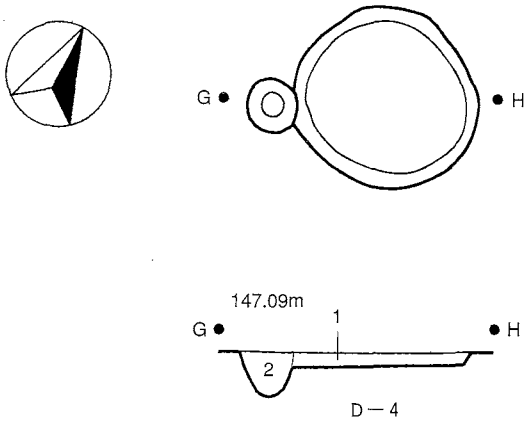
D－2

層番	層名	層　名	色調	しまり	粘性	混入物		
						WP	YP	RP
1	10YR3/1	黒褐色土層		△	△	△	△	※



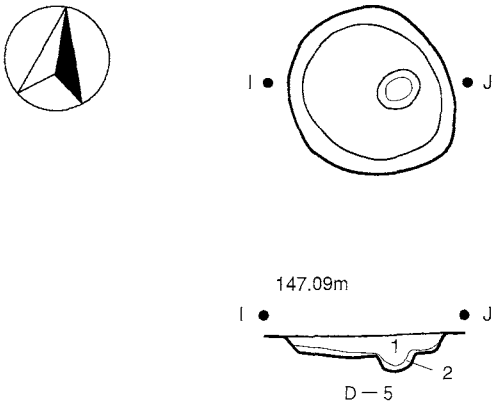
D－3

層番	層名	層　名	色調	しまり	粘性	混入物		
						WP	YP	RP
1	10YR3/1	黒褐色土層		△	△	△	△	※



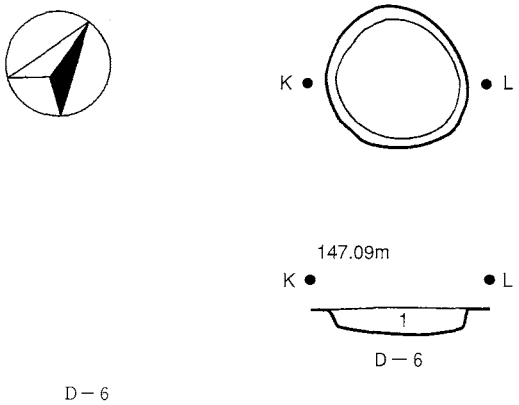
D－4

層番	層名	層　名	色調	しまり	粘性	混入物		
						WP	YP	RP
1	10YR3/1	黒褐色土層		※	※	※	※	
2	10YR3/2	黒褐色土層		※	※			



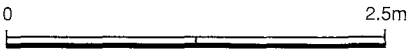
D－5

層番	層名	層　名	色調	しまり	粘性	混入物		
						WP	YP	RP
1	10YR3/1	黒褐色土層		※	※	※	※	
2	10YR4/2	灰黄褐色土層		○	○			◎

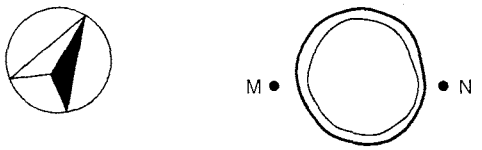


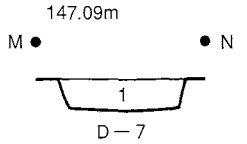
D－6

層番	層名	層　名	色調	しまり	粘性	混入物		
						WP	YP	RP
1	10YR3/1	黒褐色土層		※	※	※	※	



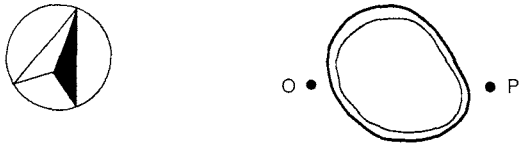
第35図　土坑実測図（1）

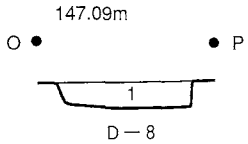




D－7

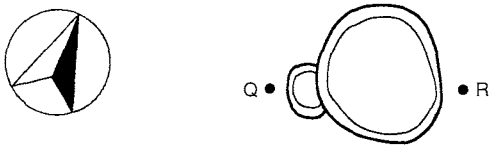
層番	層名	層　名	色調	しまり	粘性	混入物			
						WP	YP	RP	As-B
1	10YR2/2	黒褐色土層		※	※				○

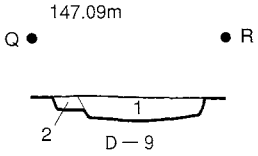




D－8

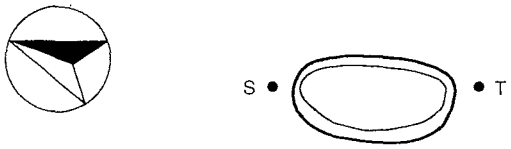
層番	層名	層　名	色調	しまり	粘性	混入物			
						WP	YP	RP	As-B
1	10YR2/2	黒褐色土層		※	※				○

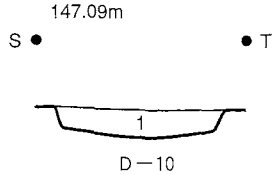




D－9

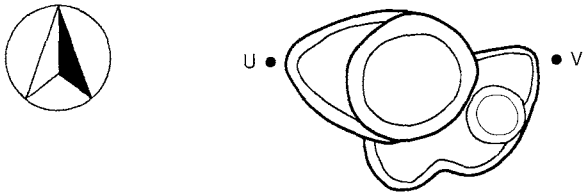
層番	層名	層　名	色調	しまり	粘性	混入物			
						WP	YP	RP	As-B
1	10YR2/2	黒褐色土層		※	※				○
2	10YR3/1	黒褐色土層		△	△	※	※		

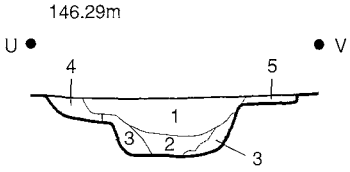




D－10

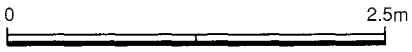
層番	層名	層　名	色調	しまり	粘性	混入物			
						WP	YP	RP	As-B
1	10YR2/2	黒褐色土層		※	※				○



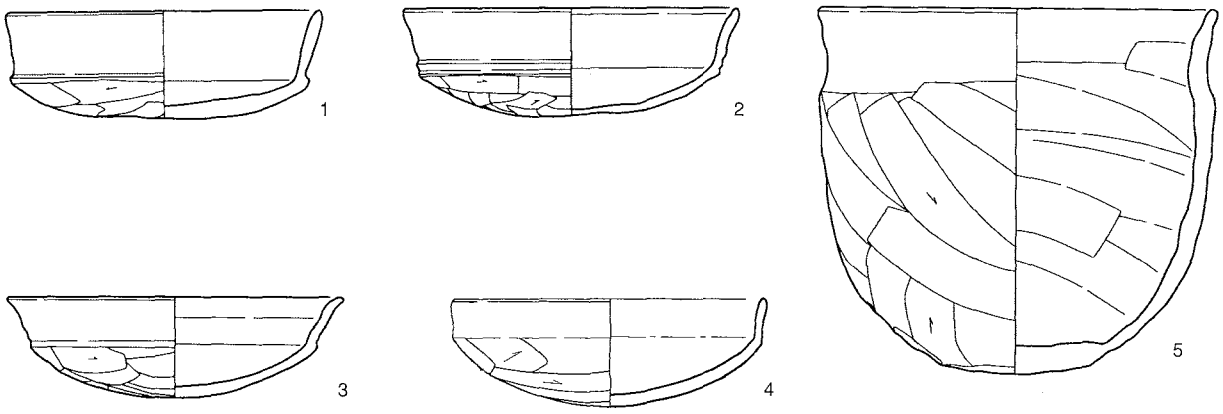


D－11

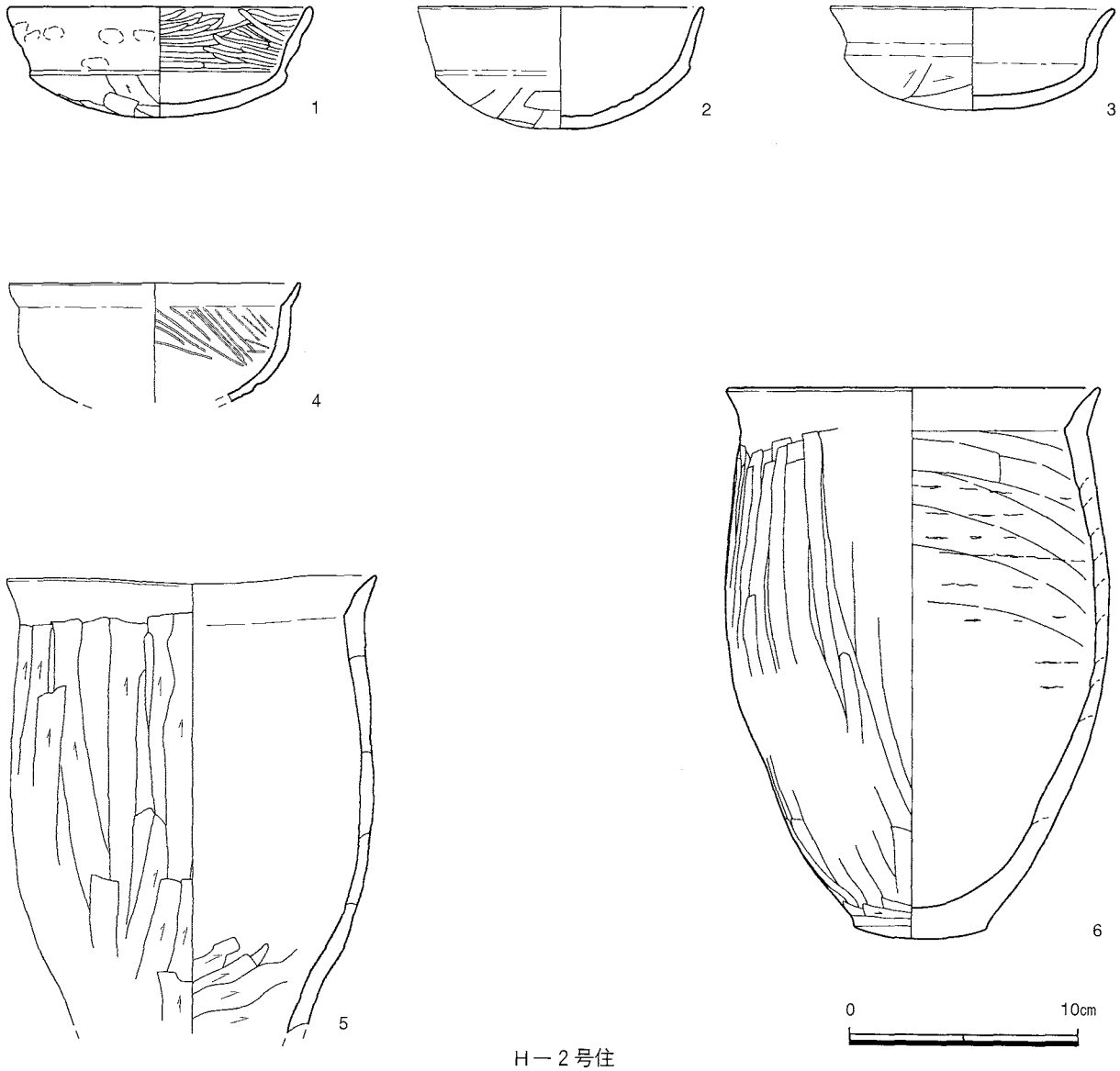
層番	層名	層　名	色調	しまり	粘性	混入物		
						WP	YP	RP
1	10YR2/1	黒色土層		△	△	△	※	※
2	10YR2/2	黒褐色土層		△	△	※	※	※
3	10YR3/1	黒褐色土層		△	△			△
4	10YR2/1	黒色土層		△	△	※	※	
5	10YR3/1	黒褐色土層		△	△			



第36図　土坑実測図（2）

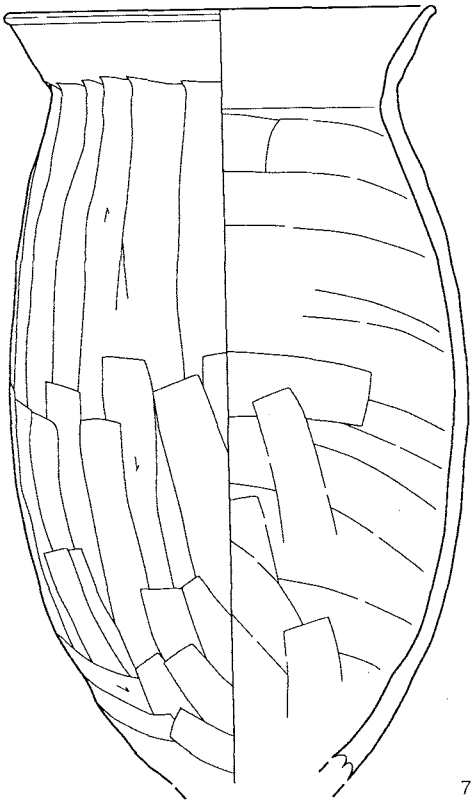


H－1号住

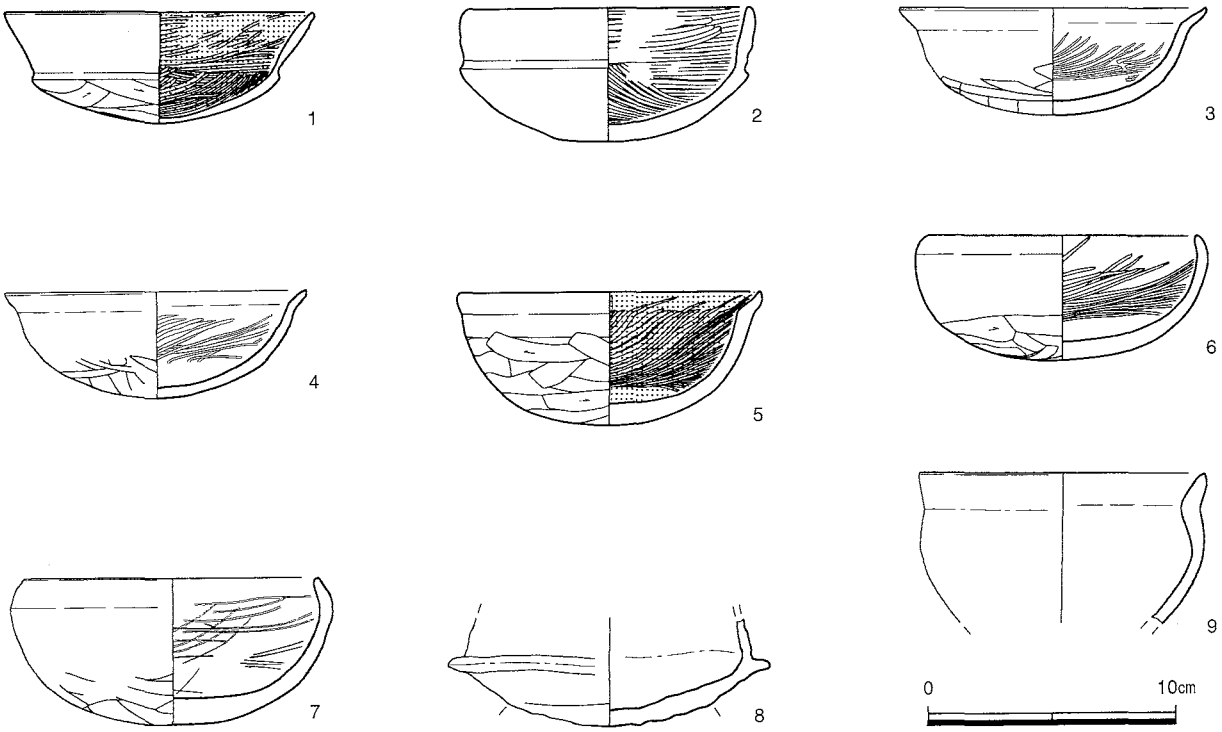


H－2号住

第37図　H－1号住・H－2号住居址出土の遺物

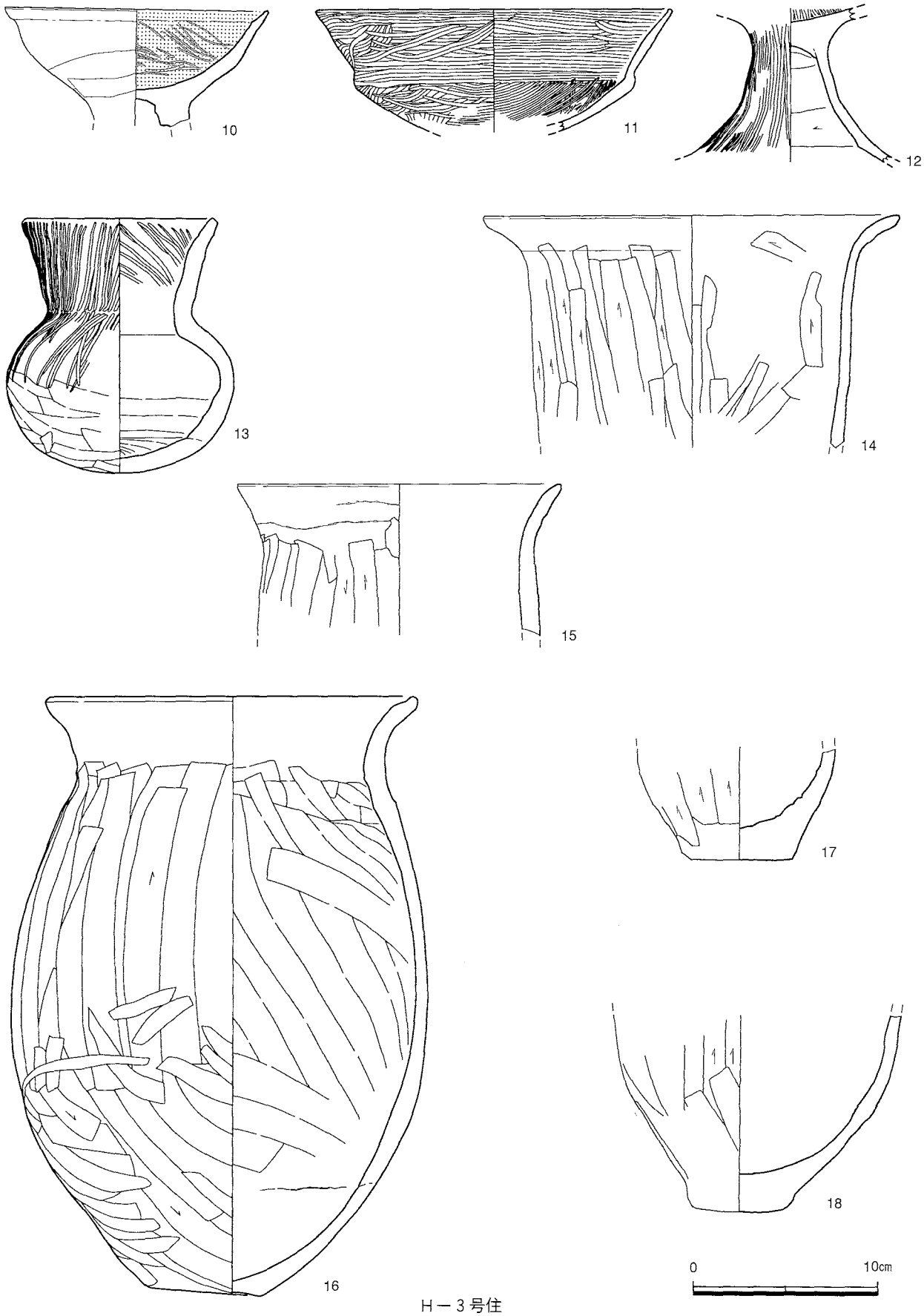


H－2号住



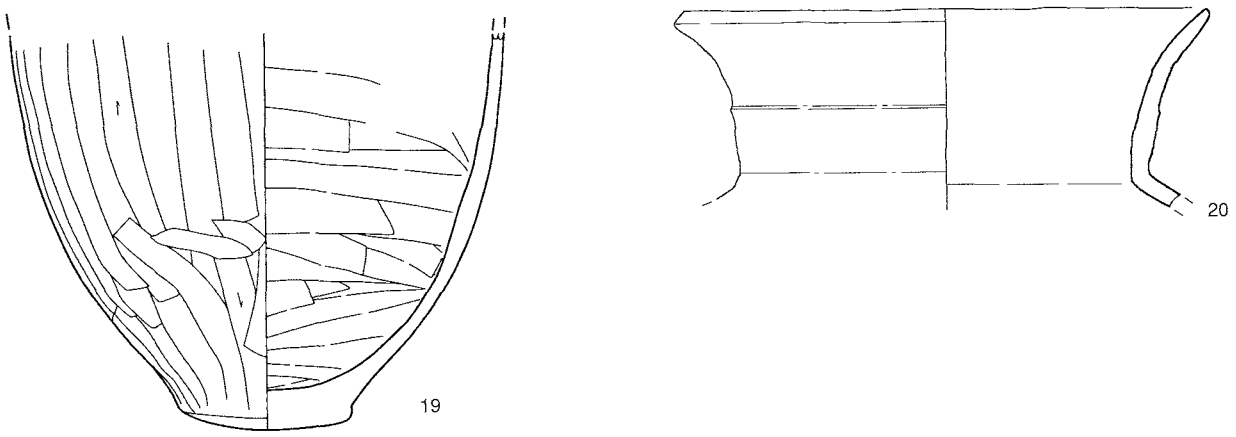
H－3号住

第38図　H－2号住・H－3号住居址出土の遺物

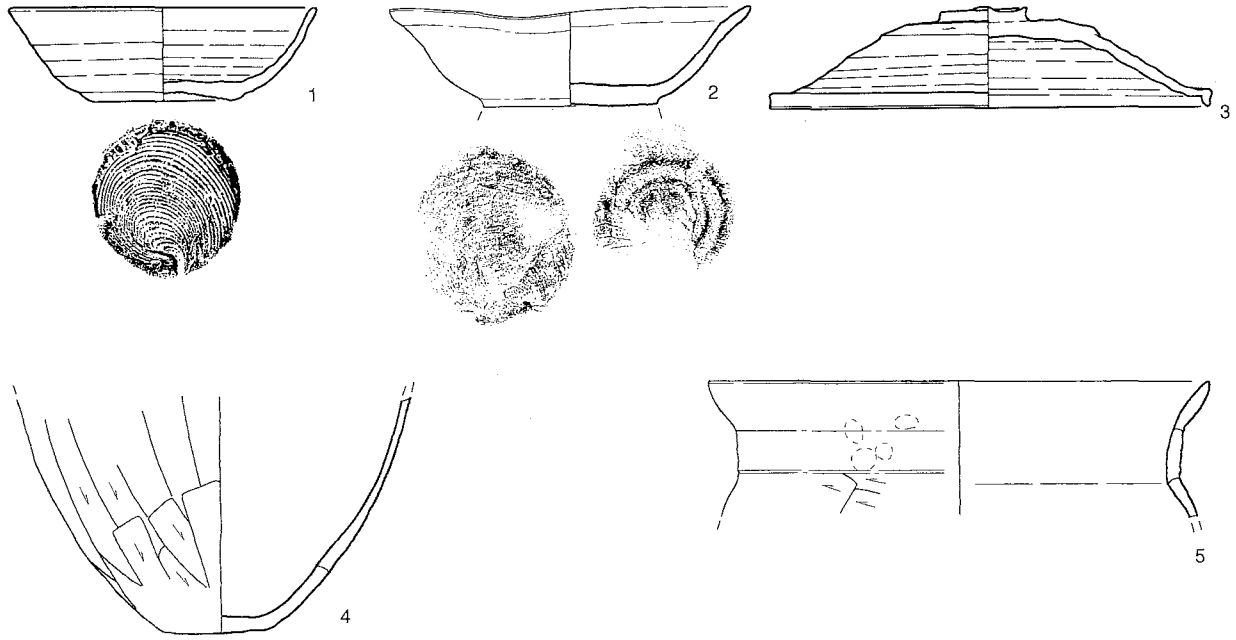


H－3号住

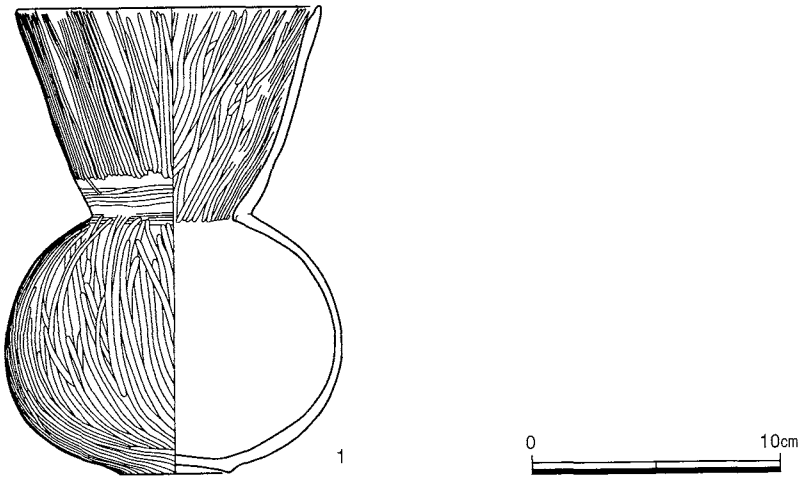
第39図　H－3号住居址出土の遺物



H－3号住

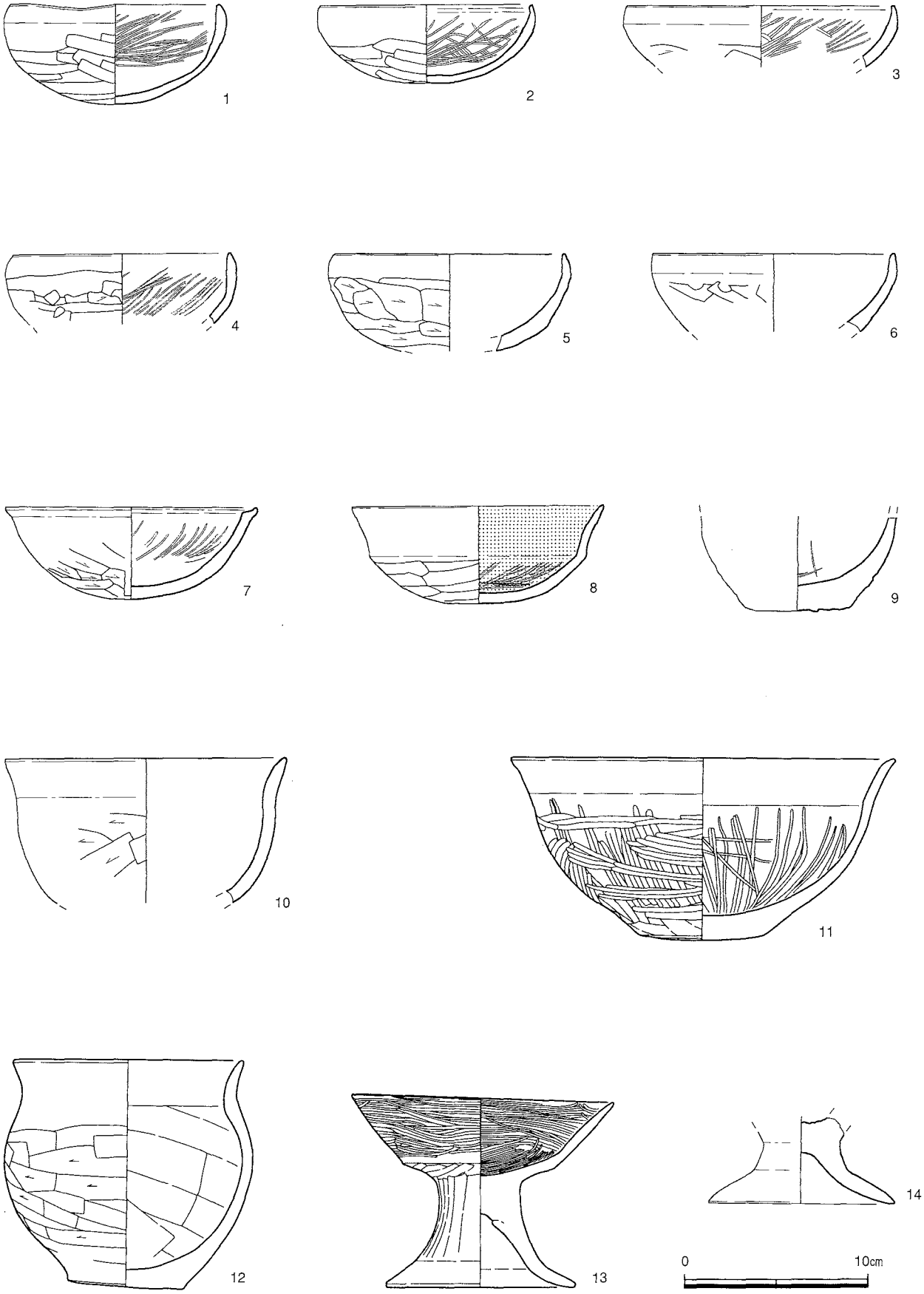


H－4号住



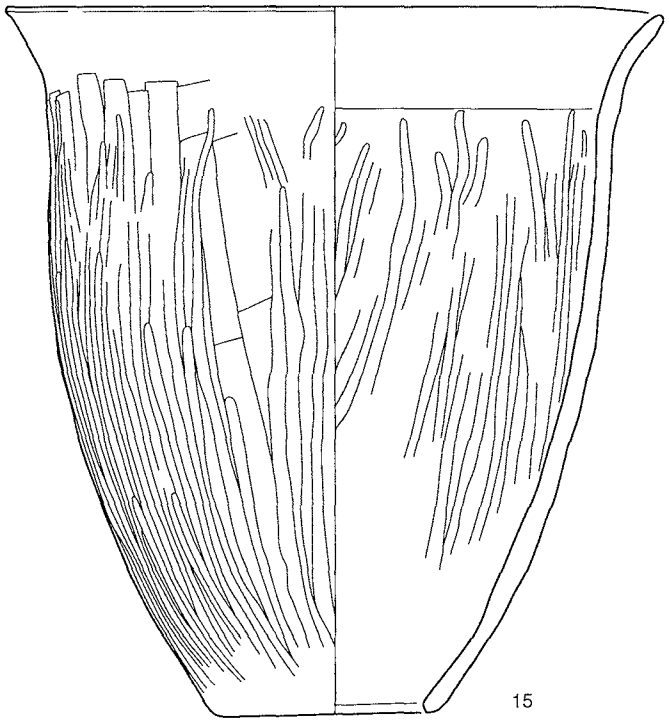
H－5号住

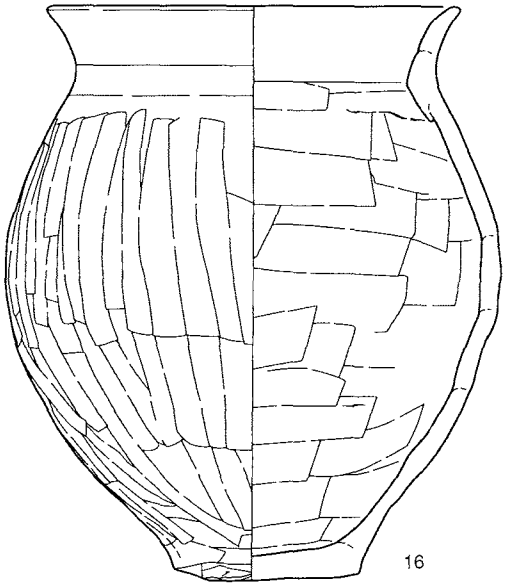
第40図　H－3号住・H－4号住・H－5号住居址出土の遺物

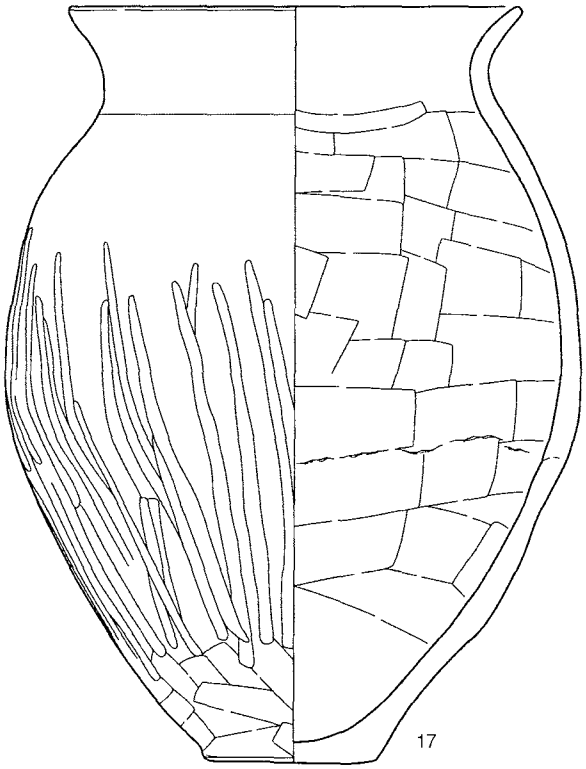


H－6号住

第41図　H－6号住居址出土の遺物

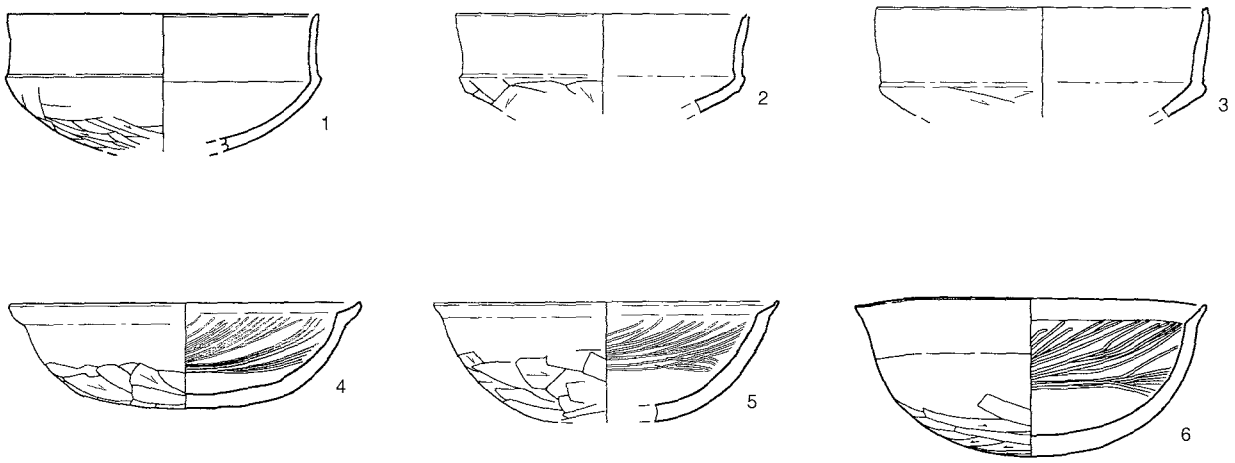




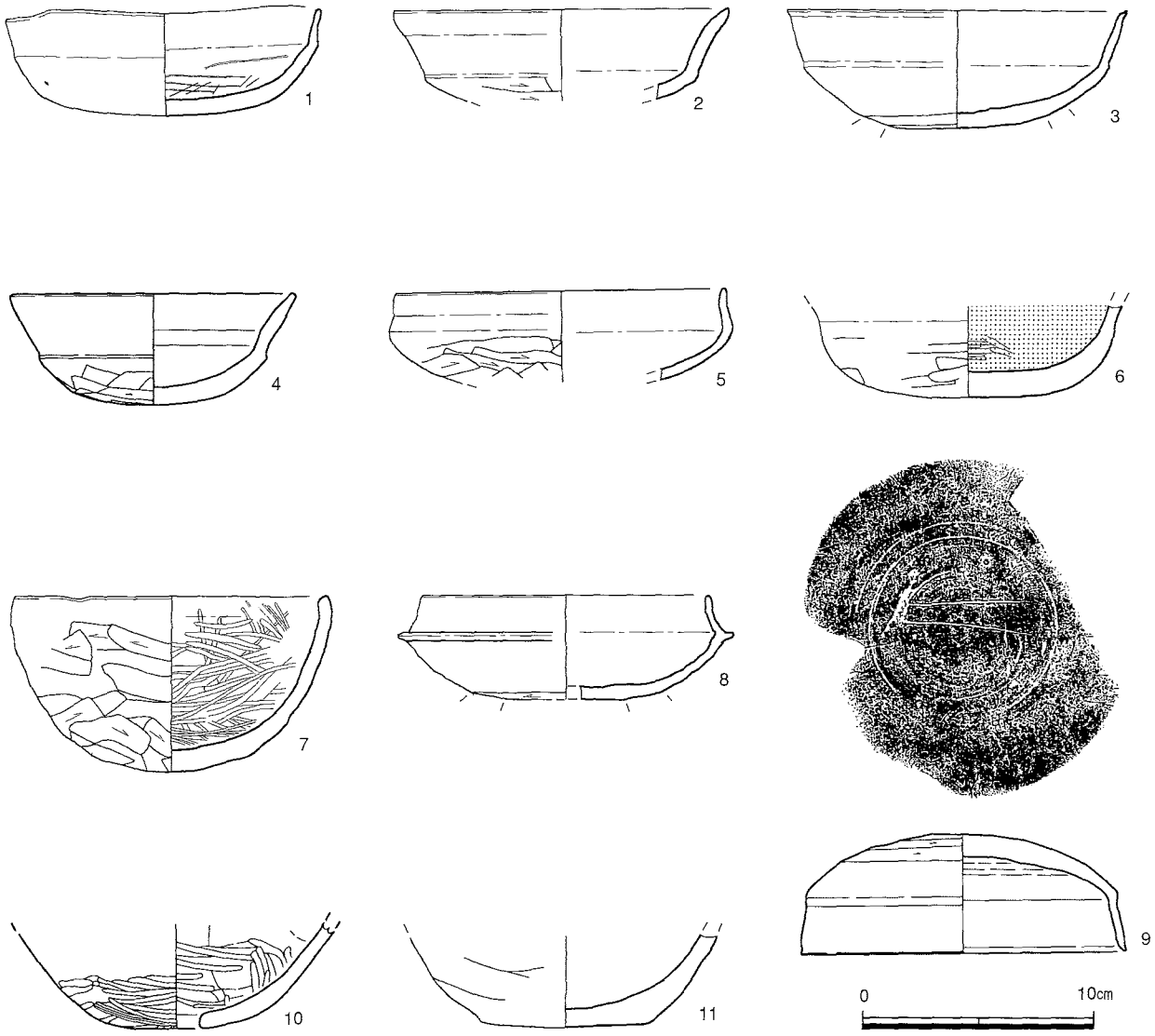


H－6号住

第42図　H－6号住居址出土の遺物

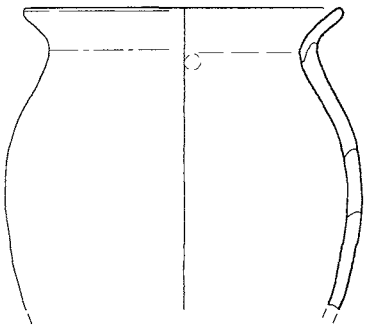


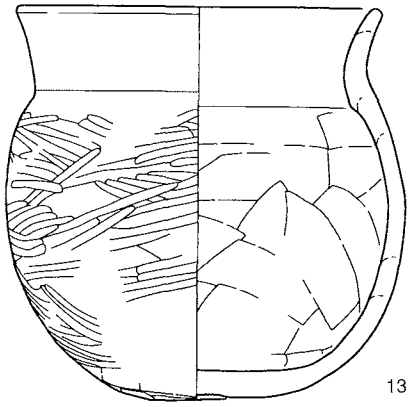
H－7号住

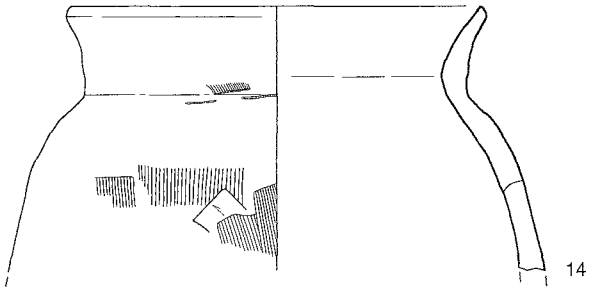


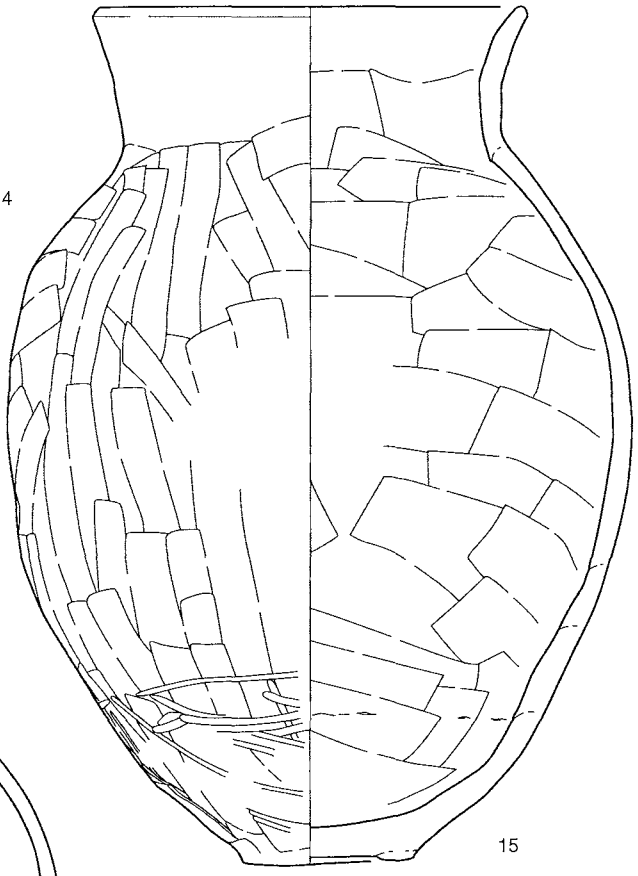
H－8号住

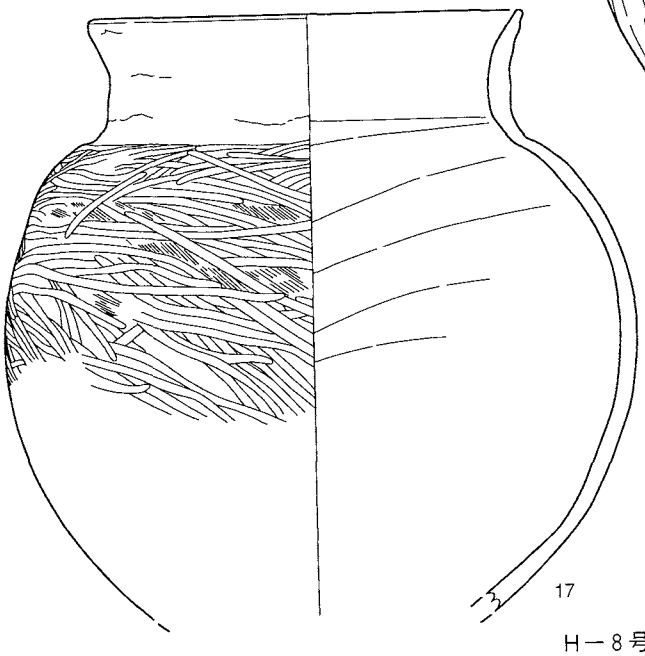
第43図　H－7号住・H－8号住居址出土の遺物





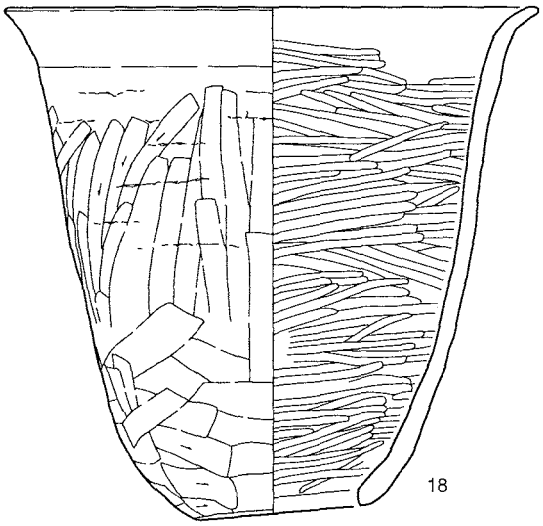


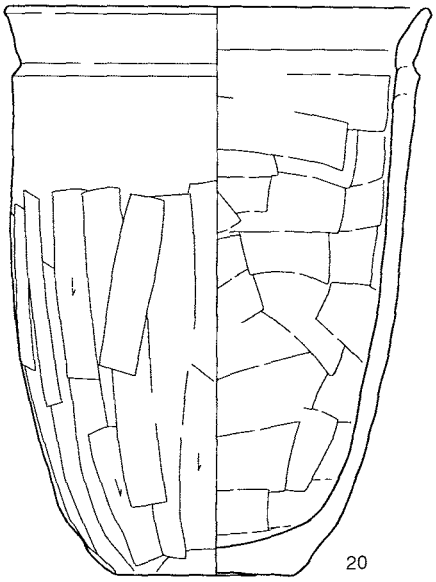


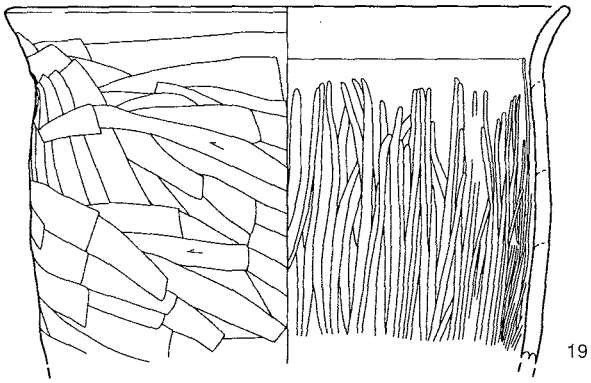


H－8号住

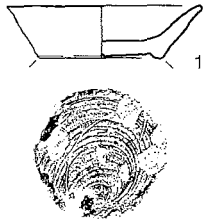
第44図　H－8号住居址出土の遺物

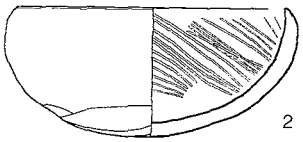


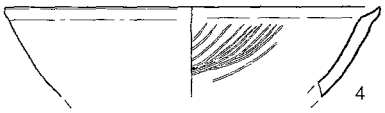


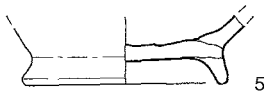


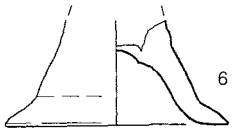
H－8号住

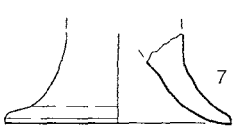


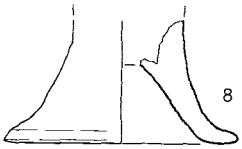


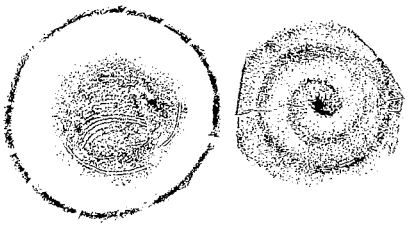


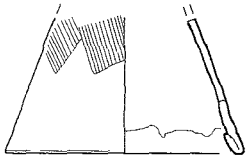


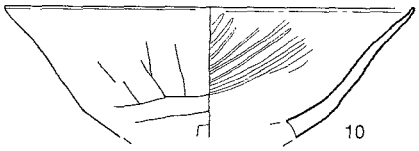


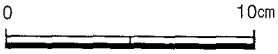






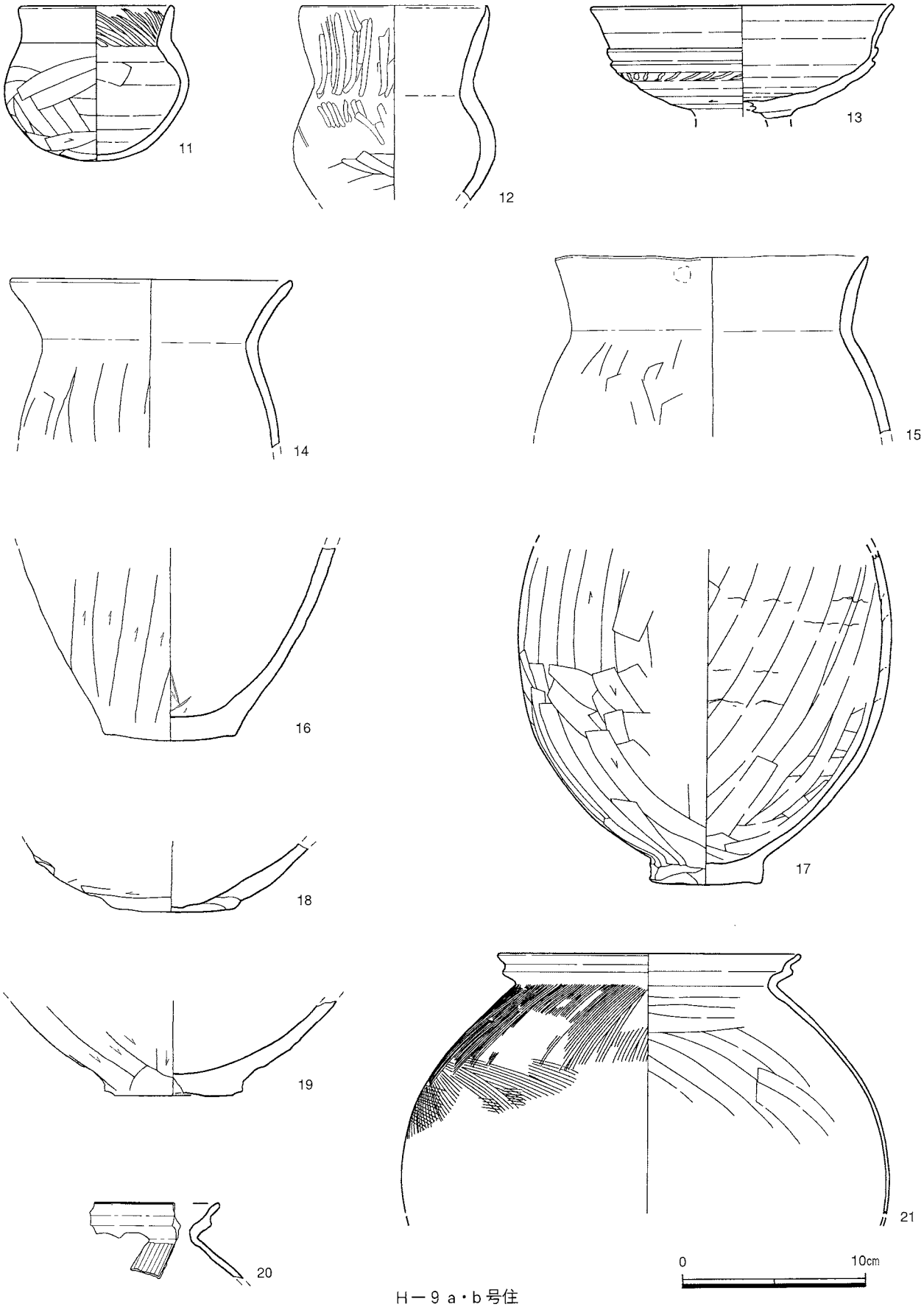






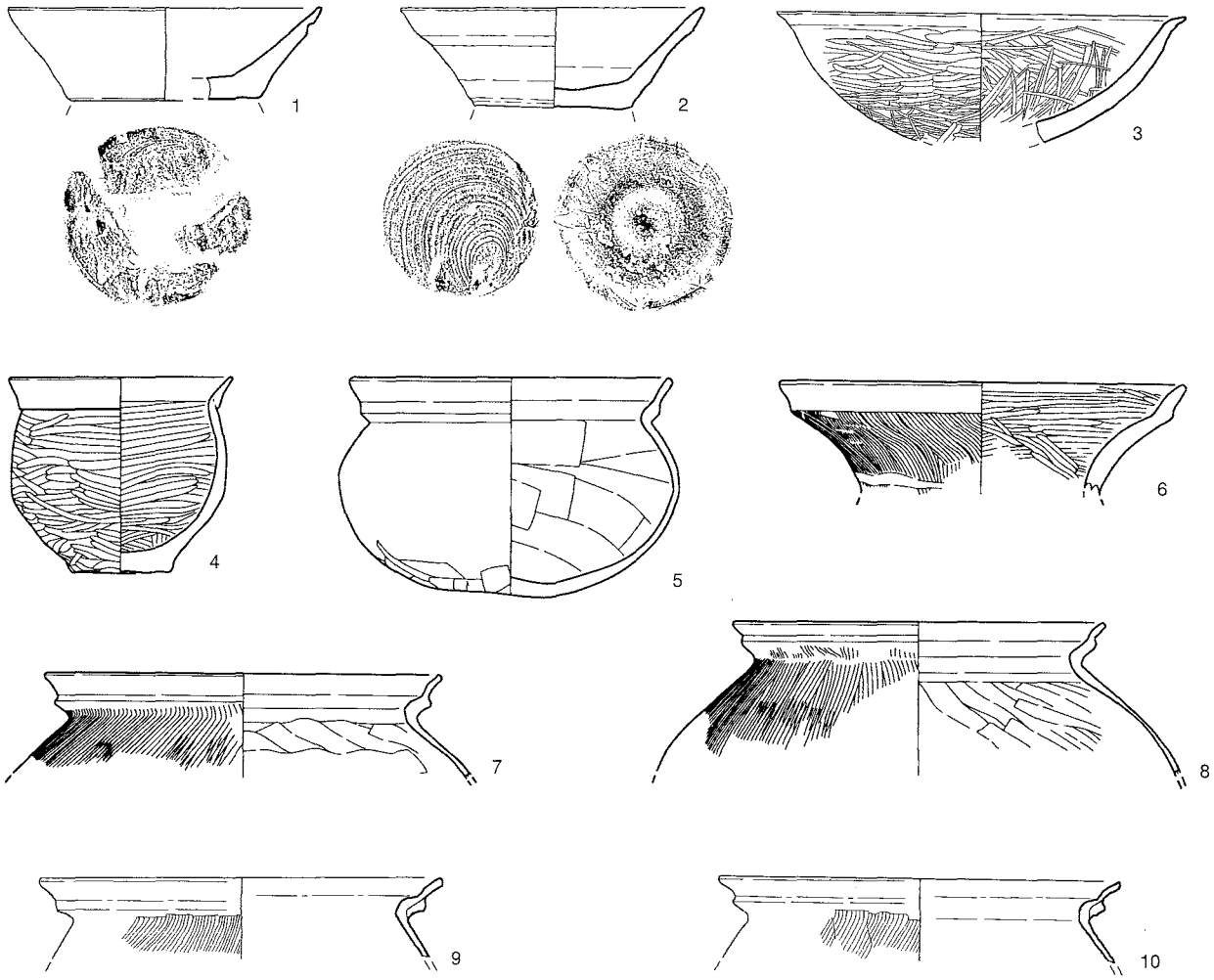
H－9 a・b号住

第45図　H－8号住・H－9 a・b号住居址出土の遺物

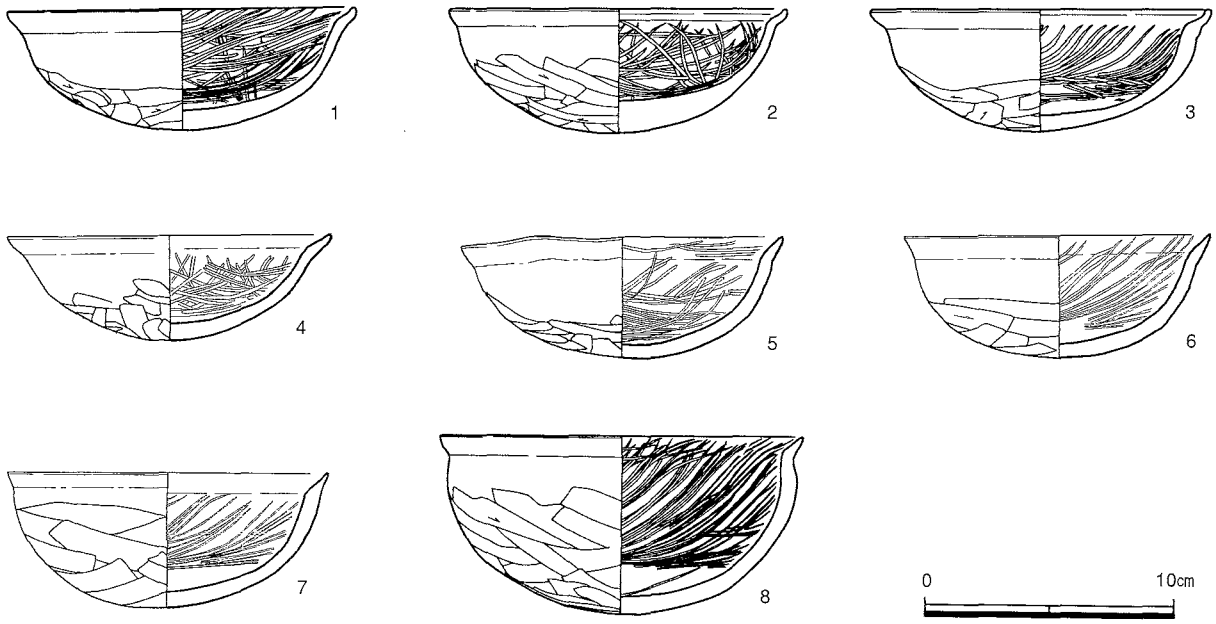


H－9 a・b号住

第46図　H－9 a・b号住居址出土の遺物

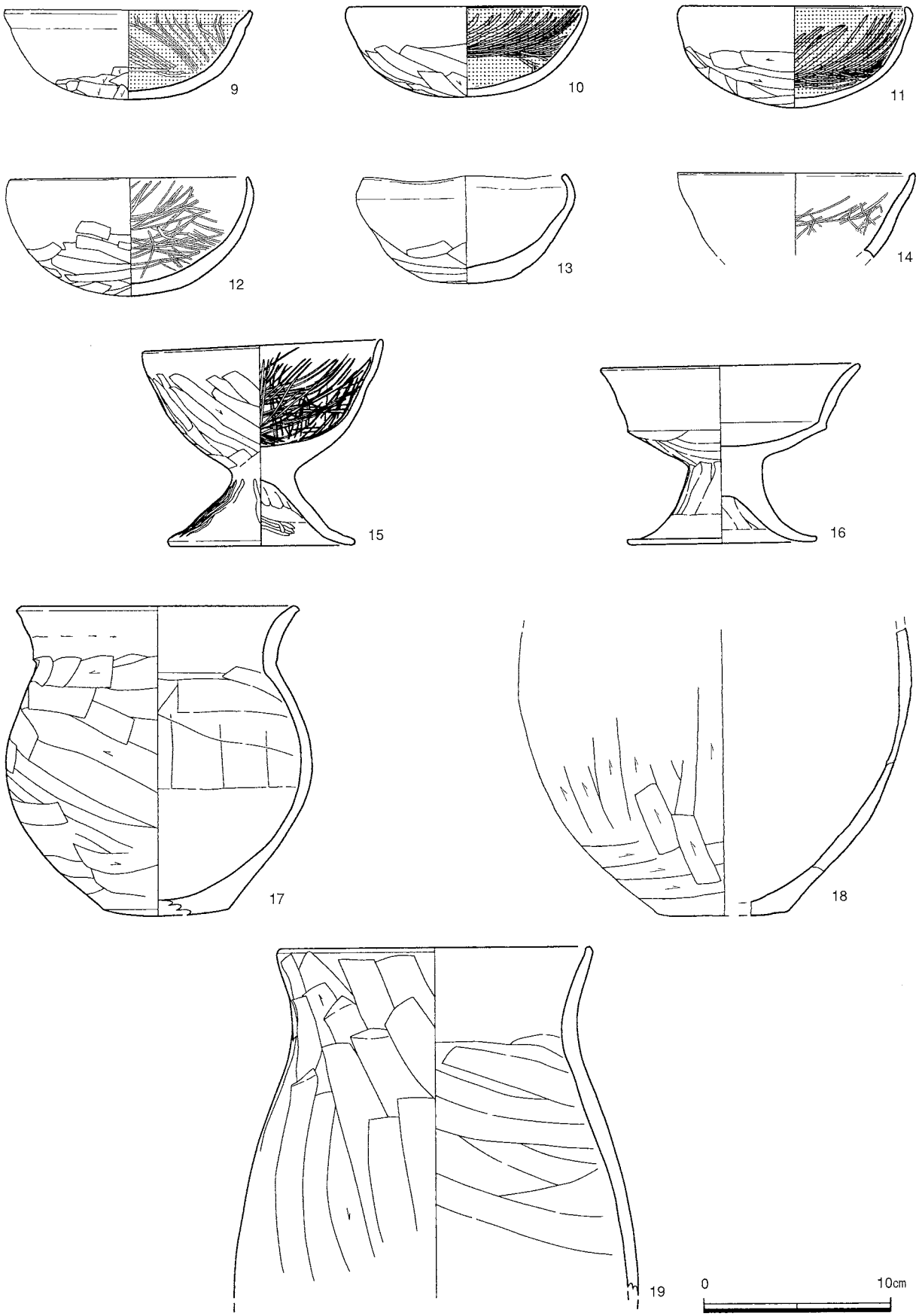


H－10号住



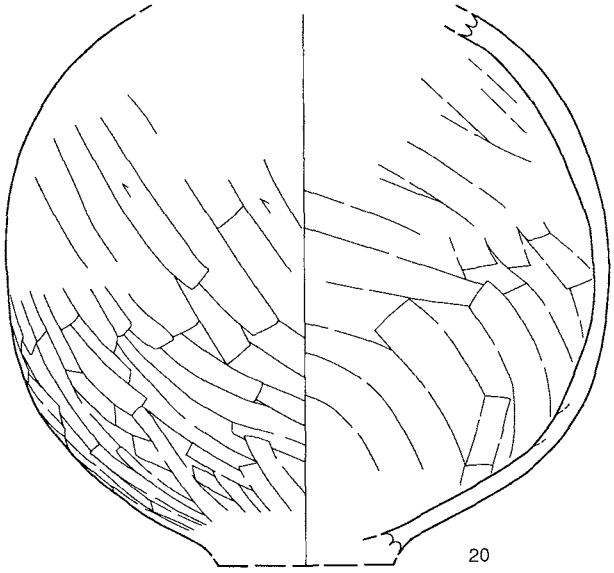
H－11号住

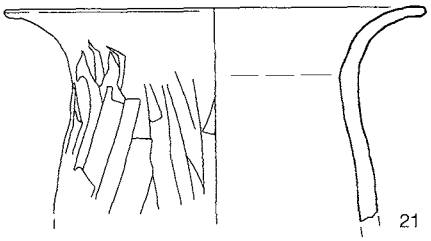
第47図　H－10号住・H－11号住居址出土の遺物

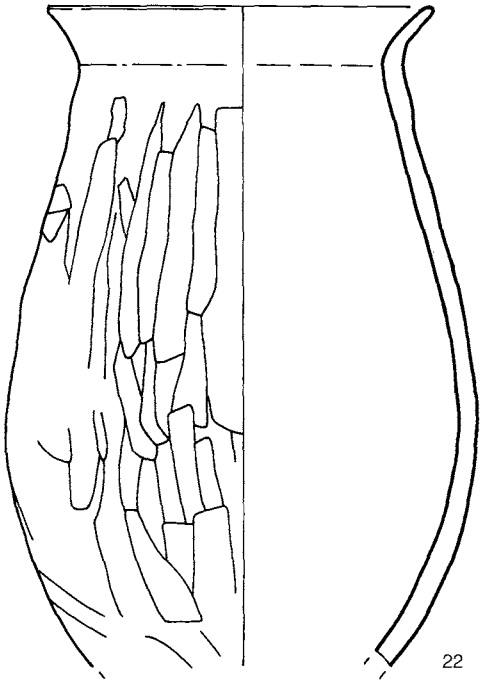


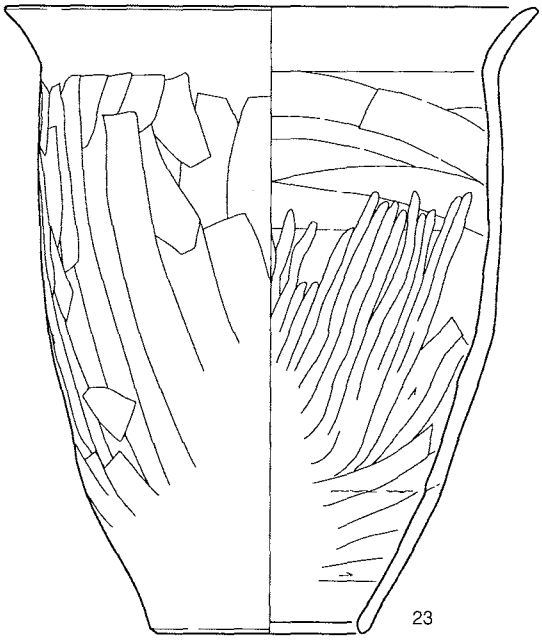
H－11号住

第48図　H－11号住居址出土の遺物

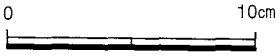








H－11号住



第49図　H－11号住居址出土の遺物

H－1号住

No	器　種	出土位置	法　量	器形・技法等の特徴	胎土・色調・焼成	残存状態・備考	時　期
1	土師器坏	12区3層	口　12.4 底　－ 高　4.3	外面：口辺部横ナデ　体底部不定方向ヘラケズリ 内面：口辺部横ナデ　体底部ナデ	胎　砂粒を含む 色　橙色 焼　普通	ほぼ完形	6世紀後半
2	土師器坏	16区2層 16区3層	口　13.2 底　－ 高　4.3	外面：口辺部横ナデ　体底部不定方向ヘラケズリ 内面：口辺部横ナデ　体底部ナデ	胎　砂粒を含む 色　橙色 焼　普通	ほぼ完形	6世紀後半
3	土師器坏	16区2層 16区3層	口　13.3 底　－ 高　4.0	外面：口辺部横ナデ　体底部不定方向ヘラケズリ 内面：口辺部横ナデ　体底部ナデ	胎　砂粒を含む 色　橙色 焼　普通	完形	6世紀後半
4	土師器坏	16区3層 16区2層	口　12.4 底　－ 高　4.3	外面：口辺部横ナデ　体部横方向ヘラケズリ　底部ヘラケズリ 内面：口縁部～体部横ナデ　底部ナデ	胎　砂粒を含む 色　明赤褐色 焼　良	2／3	
5	土師器 小形甕	8区3層 9区2層 A区一括 8区2層	口　15.6 底　6.0 高　14.6	外面：口辺部横ナデ　胴上部～胴中央部斜方向ヘラケズリ　胴下部縦方向ヘラケズリ　底部ヘラケズリ 内面：口辺部横ナデ　胴上部～胴下部斜方向ヘラナデ　底部ヘラナデ	胎　砂粒を含む 色　暗赤褐色 焼　普通	1／2	6世紀後半

H－2号住

No	器　種	出土位置	法　量	器形・技法等の特徴	胎土・色調・焼成	残存状態・備考	時　期
1	土師器坏	カマド	口　13.1 底　－ 高　4.8	外面：口辺部横ナデ　体底部ナデ後不定方向ヘラケズリ 内面：口辺部横方向ヘラミガキ　体底部ナデ	胎　砂粒を含む 色　橙色 焼　普通	完形 外面口辺部に指頭圧痕有り	6世紀後半
2	土師器坏	3区3層	口　12.4 底　－ 高　5.3	外面：口辺部横ナデ　体底部ヘラケズリ 内面：口縁部～底部剥落により不明	胎　砂粒を含む 色　にぶい黄褐色 焼　良	口縁部の1／3～底部	
3	土師器坏	3区3層 D－1	口　12.4 底　－ 高　4.5	外面：口辺部横ナデ　体部～底部ヘラケズリ・単位不明瞭 内面：口縁部～体部横ナデ　底部ナデ	胎　砂粒を少量含む 色　橙色 焼　良	3／4 内外面共に摩滅著しい	
4	土師器坏	カマド 12区1層	口　12.6 底　－ 高　(5.2)	外面：口辺部横ナデ　体部ヘラケズリ・単位不明瞭 内面：口縁部～体部横ナデ後放射状ヘラミガキ	胎　砂粒を含む 色　橙色 焼　良	口縁部～体部の1／3 外面全面摩滅・剥落著しい	
5	土師器甕	5区2層 1区2層 1区1層	口　16.2 底　－ 高　(19.9)	外面：口辺部横ナデ　胴上部～胴下部縦方向ヘラケズリ 内面：口辺部横ナデ　胴上部～胴中央部横方向ヘラナデ　胴下部斜方向ヘラケズリ	胎　砂粒を含む 色　明赤褐色 焼　良	口縁部～胴下部の1／3	
6	土師器甕	カマド	口　16.0 底　5.7 高　24.0	外面：口辺部横ナデ　胴上部～胴下部縦方向ヘラミガキ　胴下部横方向ヘラケズリ　底部ヘラケズリ 内面：口辺部横ナデ　胴上部斜方向ヘラナデ　胴中央部～底部ヘラナデ	胎　砂粒を含む 色　赤褐色 焼　普通	1／2 内面胴上部に輪積痕顕著	6世紀後半
7	土師器甕	1区3層 カマド 3区3層	口　16.9 底　－ 高　(31.0)	外面：口辺部横ナデ　胴上部～胴中央部縦方向ヘラケズリ　胴下部斜方向ヘラケズリ 内面：口辺部横ナデ　胴上部斜方向ヘラナデ　胴中央部～胴下部不定方向ヘラナデ	胎　砂粒を含む 色　にぶい黄橙～にぶい黄褐色 焼　普通	口縁部～胴下部の2／3	6世紀後半

H－3号住

No	器　種	出土位置	法　量	器形・技法等の特徴	胎土・色調・焼成	残存状態・備考	時　期
1	土師器坏	3区1層	口　12.3 底　－ 高　4.4	外面：口辺部横ナデ　体底部不定方向ヘラケズリ 内面：口辺部横・斜方向ヘラミガキ　体部放射状ヘラミガキ　底部ヘラミガキ	胎　砂粒を含む 色　赤褐色～にぶい赤褐色 焼　普通	2／3 内面黒色処理	6世紀前半
2	土師器坏	10区1層 A区一括 12区1層	口　11.2 底　－ 高　5.3	外面：口辺部横ナデ　体部～底部ヘラケズリ・単位不明瞭 内面：口辺部横方向ヘラミガキ　体部横・斜方向ヘラミガキ　底部ヘラミガキ	胎　砂粒を含む 色　明赤褐色 焼　普通	4／5	6世紀前半
3	土師器坏	16区1層	口　12.2 底　－ 高　4.3	外面：口辺部横ナデ　体部ナデ　底部ヘラケズリ 内面：口縁部～体部横ナデ後放射状ヘラミガキ　底部ナデ	胎　砂粒を含む 色　明赤褐色 焼　良	口縁部の1／5～底部の1／2	
4	土師器坏	7区1層	口　12.2 底　－ 高　4.3	外面：口辺部横ナデ　体部ナデ　底部ヘラケズリ 内面：口縁部～体部横ナデ後放射状ヘラミガキ　底部ナデ	胎　砂粒を含む 色　明赤褐色 焼　良	口縁部～底部の1／2	

第8表　H－1・H－2・H－3号住出土遺物観察表

H－3号住

No	器　種	出土位置	法　量	器形・技法等の特徴	胎土・色調・焼成	残存状態・備考	時　期
5	土師器坏	13区1層 14区2層	口　12.0 底　－ 高　5.3	外面：口辺部横ナデ　体部横・斜方向ヘラケズリ　底部ヘラケズリ 内面：口縁部～体部放射状ヘラミガキ　底部ヘラミガキ	胎　砂粒を含む 色　明赤褐色 焼　普通	ほぼ完形 内面黒色処理	6世紀前半
6	土師器坏	8区1層	口　10.7 底　－ 高　5.0	外面：口辺部横ナデ　体部ナデ　底部ヘラケズリ 内面：口縁部～体部放射状ヘラミガキ　底部ナデ	胎　砂粒を含む 色　橙色 焼　普通	ほぼ完形	6世紀前半
7	土師器坏	10区1層 12区1層 9区1層 14区1層	口　11.8 底　－ 高　5.9	外面：口辺部横ナデ　体底部不定方向ヘラケズリ 内面：口縁部～体部横ナデ後不定方向ヘラミガキ　底部ヘラミガキ	胎　砂粒を含む 色　にぶい橙色 焼　良	口縁部の1／4～底部	
8	須恵器坏	5区1層 5区3層	口　10.7 底　－ 高　(4.3)	外面：回転横ナデ　底部回転ヘラケズリ 内面：回転横ナデ	胎　砂粒を含む 色　暗青灰色 焼　不良	1／4 歪み有り 内外面共に底部剥落著しい	
9	土師器椀	8区1層 7区1層	口　11.4 底　－ 高　(6.0)	外面：口辺部横ナデ　体部縦・斜方向ヘラナデ・単位不明瞭 内面：口辺部横ナデ　体部横方向ヘラナデ	胎　砂粒を含む 色　にぶい赤褐色 焼　良	口縁部～体部の1／2外面体部摩滅著しい	
10	土師器高坏	5区1層	口　14.2 底　－ 高　(6.3)	外面：口辺部横ナデ　坏部斜方向ナデ 内面：口縁部～体部横ナデ後放射状ヘラミガキ　坏底部ナデ	胎　砂粒を含む 色　橙色 焼　良	坏部 内面黒色処理 内面坏底部に剥落有り	
11	土師器高坏	3区1層 8区1層 7区1層 A区一括	口　19.0 底　－ 高　(6.6)	外面：口辺部横・斜方向ヘラミガキ　坏部不定方向ヘラミガキ 内面：口辺部横方向ヘラミガキ　坏部放射状ヘラミガキ	胎　砂粒を含む 色　にぶい赤褐色 焼　普通	口縁部～体部の1／2	6世紀前半
12	土師器高坏	5区1層	口　－ 底　－ 高　(8.2)	外面：坏底部～脚部縦方向ヘラミガキ 内面：坏底部ヘラミガキ　脚部横方向ヘラケズリ・横ナデ	胎　砂粒を含む 色　橙～にぶい赤褐色 焼　普通	坏底部～脚部の3／4	6世紀前半
13	土師器 小形壺	12区1層	口　10.0 底　－ 高　13.7	外面：口辺部縦方向ヘラミガキ　胴上部斜方向ヘラミガキ　胴中央部～胴下部横・斜方向ヘラナデ　底部ヘラナデ 内面：口辺部斜方向ヘラミガキ　胴上部～胴下部横方向ヘラナデ　底部ヘラナデ	胎　砂粒を含む 色　にぶい赤褐色 焼　普通	2／3	5世紀後半
14	土師器甕	6区1層 5区1層	口　22.2 底　－ 高　(10.5)	外面：口辺部横ナデ　胴上部縦方向ヘラケズリ 内面：口辺部横ナデ　胴上部横方向ヘラナデ後不定方向ヘラケズリ	胎　砂粒を含む 色　明赤褐色 焼　良	口縁部～胴上部の1／4	
15	土師器甕	17区1層	口　17.4 底　－ 高　(8.1)	外面：口辺部横ナデ　胴上部縦方向ヘラケズリ 内面：口辺部横ナデ　胴上部横方向ヘラナデ	胎　砂粒を含む 色　明赤褐色 焼　良	口縁部～胴上部の1／4 外面口辺部に輪積痕顕著	
16	土師器甕	12区1層 10区1層 9区1層 14区1層 13区1層	口　19.6 底　6.0 高　32.3	外面：口辺部横ナデ　胴上部縦方向ヘラケズリ　胴中央部～胴下部不定方向ヘラケズリ　底部ヘラケズリ 内面：口辺部横ナデ　胴上部～胴中央部縦・斜方向ヘラナデ　胴下部～底部ヘラナデ	胎　砂粒を含む 色　橙～にぶい赤褐色 焼　普通	2／3 内面胴下部に輪積痕顕著	6世紀後半
17	土師器甕	5区1層 5区3層	口　－ 底　5.7 高　(6.0)	外面：胴下部縦方向ヘラケズリ　底部ヘラケズリ 内面：胴下部剥落により不明　底部ヘラナデ	胎　砂粒を含む 色　にぶい赤褐色 焼　良	胴下部～底部	
18	土師器甕	9区1層 14区1層 15区1層 12区1層	口　－ 底　5.0 高　(10.6)	外面：胴下部縦・斜方向ヘラケズリ　底部ヘラケズリ 内面：胴下部横方向ヘラナデ　底部ヘラナデ	胎　砂粒を含む 色　橙色 焼　良	胴下部～底部 内面底部に工具痕有り	
19	土師器甕	12区1層 10区1層 9区1層 14区1層 13区1層	口　－ 底　6.8 高　(15.8)	外面：胴中央部～胴下部縦・斜方向ヘラケズリ　底部ヘラケズリ 内面：胴中央部～胴下部横・斜方向ヘラナデ　底部ヘラナデ	胎　砂粒を含む 色　にぶい赤褐色 焼　普通	胴中央部～底部の2／3	6世紀前半
20	土師器甕	16区1層	口　20.8 底　－ 高　(8.0)	外面：口辺部横ナデ 内面：口辺部横ナデ	胎　砂粒を多量に含む 色　橙色 焼　良	口辺部	

H－4号住

No	器　種	出土位置	法　量	器形・技法等の特徴	胎土・色調・焼成	残存状態・備考	時　期
1	須恵器坏	P－1	口　12.1 底　5.5 高　3.8	外面：回転横ナデ　底部回転糸切り 内面：回転横ナデ	胎　砂粒を含む 色　灰色 焼　還元	完形	9世紀後半

第9表　H－3・H－4号住出土遺物観察表

H－4号住

No	器　種	出土位置	法　量	器形・技法等の特徴	胎土・色調・焼成	残存状態・備考	時　期
2	須恵器坏	11区3層 14区1層 15区3層 15区2層	口　14.5 底　7.0 高　3.9	外面：回転横ナデ　底部回転糸切り 内面：回転横ナデ　渦巻き	胎　砂粒を含む 色　オリーブ黒色 焼　やや不良	1／2 歪み有り	
3	須恵器蓋	P－1	口　17.5 ツマミ径 3.4 高　4.0	外面：回転横ナデ　天井端部回転ヘラケズリ 天井部宝珠状摘み貼付 内面：回転横ナデ	胎　砂粒を含む 色　黄灰色 焼　還元	7／8	9世紀後半
4	土師器甕	11区3層 12区2層 11区2層	口　－ 底　4.6 高　(9.4)	外面：胴下部縦・斜方向ヘラケズリ　底部ヘラケズリ 内面：胴下部縦方向ヘラナデ　底部ヘラナデ	胎　砂粒を多量に含む 色　明赤褐色 焼　良	胴下部～底部	
5	土師器甕	12区2層	口　20.0 底　－ 高　(5.4)	外面：口辺部横ナデ　胴上部横方向ヘラケズリ 内面：口辺部横ナデ　胴上部斜方向ヘラナデ	胎　砂粒を含む 色　橙色 焼　良	口辺部の1／3～胴上部の一部 外面口辺部に指頭圧痕有り	

H－5号住

No	器　種	出土位置	法　量	器形・技法等の特徴	胎土・色調・焼成	残存状態・備考	時　期
1	土師器坩	8区3層	口　12.1 底　4.4 高　18.6	外面：口辺部縦方向ヘラミガキ　頸部横方向ヘラミガキ　胴上部～胴下部縦・斜方向ヘラミガキ　底部ヘラケズリ 内面：口辺部縦方向ヘラミガキ　胴上部～底部ナデ	胎　砂粒を含む 色　明赤褐色～にぶい褐色 焼　普通	ほぼ完形	4世紀前半

H－6号住

No	器　種	出土位置	法　量	器形・技法等の特徴	胎土・色調・焼成	残存状態・備考	時　期
1	土師器坏	9区3層	口　11.3 底　－ 高　5.4	外面：口辺部横ナデ　体部横方向ヘラケズリ　底部ヘラケズリ 内面：口縁部～体部横ナデ後放射状ヘラミガキ　底部ナデ	胎　砂粒を含む 色　赤褐色 焼　良	2／3 歪み有り	
2	土師器坏	カマド	口　11.4 底　－ 高　4.2	外面：口辺部横ナデ　体部横方向ヘラケズリ　底部ヘラケズリ 内面：口縁部～体部横ナデ後不定方向ヘラミガキ　底部ナデ	胎　砂粒を含む 色　明赤褐色 焼　良	口縁部～底部の1／2	
3	土師器坏	19区2層 2D－28a	口　14.4 底　－ 高　(3.3)	外面：口辺部横ナデ　体部斜方向ヘラケズリ 内面：口縁部～体部横ナデ後不定方向ヘラミガキ	胎　砂粒を含む 色　明赤褐色 焼　良	口縁部～体部の1／5	
4	土師器坏	6区2層 10区2層	口　11.8 底　－ 高　(3.8)	外面：口辺部横ナデ　体部横方向ヘラケズリ 内面：口縁部～体部横ナデ後放射状ヘラミガキ	胎　砂粒を含む 色　赤褐色 焼　良	口縁部～体部の1／4	
5	土師器坏	21区1層	口　12.4 底　－ 高　(5.2)	外面：口辺部横ナデ　体部横方向ヘラケズリ 内面：口縁部～体部横ナデ	胎　砂粒を含む 色　赤褐色 焼　良	口縁部～体部の1／3	
6	土師器坏	21区1層	口　13.0 底　－ 高　(4.2)	外面：口辺部横ナデ　体部斜方向ヘラケズリ 内面：口縁部～体部横ナデ	胎　砂粒を含む 色　赤褐色 焼　良	口縁部～体部の1／3	
7	土師器坏	4区3層	口　13.6 底　－ 高　5.0	外面：口辺部横ナデ　体部ナデ・斜方向ヘラケズリ　底部ヘラケズリ 内面：口縁部～体部横ナデ後放射状ヘラミガキ　底部ナデ	胎　砂粒を含む 色　赤褐色 焼　良	完形 内面摩滅著しい	
8	土師器坏	4区3層	口　13.6 底　－ 高　5.3	外面：口辺部横ナデ　体部横方向ヘラケズリ　底部ヘラケズリ 内面：口辺部横ナデ　体部放射状ヘラミガキ　底部ナデ	胎　砂粒を含む 色　明赤褐色 焼　良	1／3 内面黒色処理	
9	土師器 小型甕	6区1層 2C－28a	口　－ 底　5.6 高　(5.1)	外面：胴下斜方向ナデ　底部ヘラケズリ 内面：胴下部横方向ヘラナデ　底部ヘラナデ	胎　砂粒を含む 色　明赤褐色 焼　良	胴下部～底部 内外面共に工具痕有り	
10	土師器椀	カマド	口　15.2 底　－ 高　(7.8)	外面：口辺部横ナデ　体部横・斜方向ヘラケズリ 内面：口辺部横ナデ　体部横方向ヘラナデ	胎　砂粒を含む 色　赤褐色 焼　良	口縁部～胴部の1／4	
11	土師器坏	4区3層	口　20.6 底　6.7 高　9.9	外面：口辺部横ナデ　体部縦方向ヘラミガキ後横方向ヘラミガキ・ヘラナデ　底部ヘラケズリ 内面：口辺部横ナデ　体部不定方向ヘラミガキ　底部ヘラミガキ	胎　砂粒を含む 色　暗褐色 焼　普通	1／3	6世紀前半
12	土師器 小形甕	4区3層 カマド	口　12.3 底　6.3 高　12.4	外面：口縁部～頸部横ナデ　胴上部～胴下部横・斜方向ヘラケズリ　底部ヘラケズリ 内面：口辺部横ナデ　胴上部～胴下部斜方向ヘラナデ　底部ヘラナデ	胎　砂粒を含む 色　暗赤褐色 焼　普通	4／5	6世紀前半

第10表　H－4・H－5・H－6号住出土遺物観察表

H－6号住

No	器　種	出土位置	法　量	器形・技法等の特徴	胎土・色調・焼成	残存状態・備考	時　期
13	土師器高坏	4区3層 カマド	口　14.0 底　10.1 高　10.5	外面：坏部横方向ヘラミガキ　坏底部斜方向ヘラナデ　脚部縦方向ヘラナデ　裾部横ナデ 内面：坏部横・斜方向ヘラミガキ　坏底部ヘラミガキ　脚部ヘラナデ　裾部横ナデ	胎　砂粒を含む 色　明褐色～赤褐色 焼　普通	ほぼ完形 坏部と脚部の接合痕顕著	6世紀前半
14	土師器高坏	9区2層 9区1層 10区2層	口　－ 底　10.2 高　(4.7)	外面：脚部横ナデ 内面：坏底部剥落により不明　脚部横ナデ	胎　砂粒を含む 色　明赤褐色 焼　良	坏底部～脚部の1／2	
15	土師器甑	3区3層	口　26.0 底　7.7 高　28.3	外面：口辺部横ナデ　胴上部～底部縦方向ヘラケズリ後縦方向ヘラミガキ 内面：口辺部横ナデ　胴上部～胴中央部縦・斜方向ヘラミガキ　胴下部～底部ヘラミガキ	胎　砂粒を含む 色　明赤褐色～暗赤褐色 焼　普通	完形	6世紀前半
16	土師器甕	4区3層	口　16.1 底　7.4 高　22.9	外面：口辺部横ナデ　胴上部ナデ　胴上部～胴下部縦方向ヘラナデ　底部ヘラケズリ 内面：口辺部横ナデ　胴上部～胴下部横方向ヘラナデ　底部ヘラナデ	胎　砂粒を含む 色　褐色 焼　普通	ほぼ完形 内面頸部に輪積痕顕著	6世紀前半
17	土師器甕	4区3層 カマド	口　17.9 底　6.9 高　30.3	外面：口辺部横ナデ　胴上部～胴中央部縦方向ヘラミガキ　胴下部不定方向ヘラナデ　底部ヘラナデ 内面：口辺部横ナデ　胴上部～胴下部横方向ヘラナデ　底部ヘラナデ	胎　砂粒を含む 色　明赤褐色～暗褐色 焼　普通	ほぼ完形 内面頸部・胴中央部に輪積痕顕著	6世紀前半

H－7号住

No	器　種	出土位置	法　量	器形・技法等の特徴	胎土・色調・焼成	残存状態・備考	時　期
1	土師器坏	12区3層 8区2層	口　12.4 底　－ 高　(5.4)	外面：口辺部横ナデ　体部不定方向ヘラケズリ 内面：口辺部横ナデ　体部ナデ	胎　砂粒を含む 色　暗褐色 焼　普通	口縁部～体部の1／4	6世紀前半
2	土師器坏	13区1層 2D－27a	口　11.6 底　－ 高　(3.9)	外面：口辺部横ナデ　体部斜方向ヘラケズリ 内面：口縁部～体部横ナデ	胎　砂粒を含む 色　橙色 焼　良	口縁部～体部の1／6	
3	土師器坏	10区1層 15区3層 2D－27b 1区1層	口　13.2 底　－ 高　(4.4)	外面：口辺部横ナデ　体部斜方向ヘラケズリ 内面：口縁部～体部横ナデ	胎　砂粒を含む 色　明赤褐色 焼　良	口縁部～体部の1／6	
4	土師器坏	9区3層 13区1層	口　13.8 底　－ 高　4.2	外面：口辺部横ナデ　体部ナデ・斜方向ヘラケズリ　底部ヘラケズリ 内面：口縁部～体部横ナデ後放射状ヘラミガキ　底部ナデ	胎　砂粒を含む 色　橙色 焼　良	口縁部～底部の1／4	
5	土師器坏	3区2層	口　13.8 底　－ 高　(4.8)	外面：口辺部横ナデ　体部横方向ヘラケズリ 内面：口縁部～体部横ナデ後放射状ヘラミガキ	胎　砂粒を含む 色　赤褐色 焼　良	口縁部～体部の1／4	
6	土師器坏	9区2層 9区3層	口　13.9 底　－ 高　6.3	外面：口辺部横ナデ　体部ナデ　底部ヘラケズリ 内面：口辺部横ナデ　体部放射状ヘラミガキ　底部ナデ	胎　砂粒を含む 色　赤褐色 焼　普通	5／6 歪み有り	6世紀前半

H－8号住

No	器　種	出土位置	法　量	器形・技法等の特徴	胎土・色調・焼成	残存状態・備考	時　期
1	土師器坏	H－8住一括 6区3層	口　13.5 底　－ 高　4.7	外面：口辺部横ナデ　体底部ヘラケズリ・単位不明瞭 内面：口辺部横ナデ　体底部ナデ後不定方向ヘラミガキ	胎　砂粒を含む 色　明赤褐色 焼　良	1／2 歪み有り	
2	土師器坏	14区3層 10区3層	口　14.4 底　－ 高　(3.9)	外面：口辺部横ナデ　体部斜方向ヘラケズリ 内面：口縁部～体部横ナデ	胎　砂粒を含む 色　にぶい褐色 焼　良	口縁部～体部の1／4	
3	須恵器坏	H－8住一括	口　14.6 底　－ 高　5.1	外面：回転横ナデ　底部回転ヘラケズリ 内面：回転横ナデ	胎　砂粒を含む 色　外面：褐灰色 内面：にぶい黄橙色 焼　良	口辺部の1／4～ 体部～底部の7／8	
4	土師器坏	16区3層	口　12.0 底　－ 高　4.7	外面：口辺部横ナデ　体部ナデ　底部ヘラケズリ 内面：口縁部～体部横ナデ　底部ナデ	胎　砂粒を含む 色　明赤褐色 焼　普通	完形	6世紀前半
5	土師器坏	15区1層 15区3層	口　14.2 底　－ 高　(3.9)	外面：口辺部横ナデ　体部横・斜方向ヘラケズリ 内面：口縁部～体部横ナデ	胎　砂粒を含む 色　暗褐色 焼　良	口縁部～体部の1／6	
6	土師器坏	10区3層	口　－ 底　6.6 高　(3.9)	外面：口辺部横ナデ　体部横方向ヘラケズリ　底部ヘラケズリ 内面：口辺部横ナデ　体部～底部ヘラミガキ	胎　砂粒を含む 色　赤褐色 焼　良	口辺部の一部～底部 内面黒色処理	

第11表　H－6・H－7・H－8号住出土遺物観察表

H－8号住

No	器　種	出土位置	法　量	器形・技法等の特徴	胎土・色調・焼成	残存状態・備考	時　期
7	土師器鉢	16区2層 12区2層 12区3層	口　13.4 底　－ 高　7.6	外面：口辺部横ナデ　体部横方向ヘラケズリ 底部ヘラケズリ 内面：口縁部～底部不定方向ヘラミガキ	胎　砂粒を含む 色　赤褐色 焼　良	1／4	
8	須恵器坏	1区3層 表採 H－8住一括	口　12.2 底　－ 高　(4.5)	外面：回転横ナデ　底部回転ヘラケズリ 内面：回転横ナデ	胎　砂粒を含む 色　外面：灰色 内面：にぶい黄褐色 焼　良	1／4	
9	須恵器蓋	12区3層 11区3層	口　13.9 ツマミ径　－ 高　5.1	外面：回転横ナデ　天井部回転ヘラケズリ 内面：回転横ナデ	胎　砂粒を含む 色　灰色 焼　普通	1／2 外面天井部に焼成前の線刻有り	6世紀前半 MT－15
10	土師器甑	H－8住一括	口　－ 底　6.0 高　(4.0)	外面・胴下部～底部ナデ後横・斜方向ヘラミガキ 内面：胴下部～底部ヘラナデ後不定方向ヘラミガキ	胎　砂粒を含む 色　にぶい褐色 焼　普通	胴下部～底部	6世紀前半
11	土師器甕	H－8住一括	口　－ 底　7.4 高　(3.9)	外面：胴下部斜方向ヘラナデ　底部ヘラナデ 内面：胴下部縦方向ヘラナデ　底部ナデ	胎　砂粒を含む 色　明赤褐色 焼　良	胴下部～底部	
12	土師器甕	1区3層	口　12.6 底　－ 高　(12.0)	外面：口縁部～胴中央部摩滅により不明 内面：口辺部横ナデ　胴上部～胴中央部横方向ヘラナデ	胎　砂粒を多量に含む 色　赤褐色 焼　やや不良	口縁部～胴中央部の1／4 内面口縁部に指頭圧痕有り	
13	土師器 小形甕	6区3層 H－8住一括 2区3層 1区3層	口　14.0 底　4.3 高　15.7	外面：口辺部横ナデ　胴上部～胴中央部斜方向ヘラミガキ　胴下部横方向ヘラナデ　底部ヘラケズリ 内面：口辺部横ナデ　胴上部～胴下部横・斜方向ヘラナデ　底部ヘラナデ	胎　砂粒を含む 色　橙～明赤褐色 焼　普通	1／3	6世紀前半
14	土師器甕	5区3層	口　16.4 底　－ 高　(10.5)	外面：口縁部～頸部横ナデ　胴上部縦方向ハケメ・斜方向ヘラケズリ 内面：口縁部～頸部横ナデ　胴上部横・斜方向ヘラナデ	胎　砂粒を含む 色　にぶい褐色 焼　良	口縁部～胴上部の1／4	
15	土師器甕	H－8住一括 1区3層	口　16.6 底　6.8 高　33.8	外面：口辺部横ナデ　胴上部～胴中央部縦・斜方向ヘラナデ　胴下部縦方向ヘラナデ後斜方向ヘラミガキ　底部ヘラナデ 内面：口辺部横ナデ　頸部～胴下部横・斜方向ヘラナデ　底部ヘラナデ	胎　砂粒を含む 色　にぶい橙色 焼　普通	2／3 内面胴下部に輪積痕顕著	6世紀前半
16	S字口縁 台付甕	9区2層	口　－ 底　－ 高　(2.1)	外面：口辺部横ナデ 内面：口辺部横ナデ	胎　砂粒を含む 色　黄褐色 焼　良	口辺部の破片	
17	土師器甕	7区3層	口　17.0 底　－ 高　(24.0)	外面：口辺部横ナデ　胴上部～胴中央部ヘラナデ後横・斜方向ヘラミガキ　胴下部ヘラナデ 内面：口辺部横ナデ　胴上部～胴中央部斜方向ヘラナデ　胴下部ヘラナデ	胎　砂粒を含む 色　明赤褐色 焼　普通	口縁部～胴下部の1／3 外面口辺部に輪積痕顕著	6世紀前半
18	土師器甑	12区3層	口　21.0 底　6.5 高　20.5	外面：口辺部横ナデ　胴上部ナデ　胴上部～底部ヘラケズリ後縦・斜方向ヘラナデ 内面：口辺部横ナデ　胴上部～胴下部横方向ヘラミガキ　底部ヘラケズリ	胎　砂粒を含む 色　にぶい赤褐色 焼　普通	口縁部の2／3～底部 外面胴上部に輪積痕顕著	6世紀前半
19	土師器甑	7区3層 12区3層	口　22.0 底　－ 高　(14.2)	外面：口辺部横ナデ　頸部横方向ヘラケズリ　胴上部～胴中央部斜方向ヘラケズリ 内面：口辺部横ナデ　胴上部～胴中央部縦方向ヘラミガキ	胎　砂粒を含む 色　橙色～にぶい褐色 焼　普通	口縁部～胴中央部 外面頸部に工具痕顕著	6世紀前半
20	土師器甕	H－8住一括	口　16.6 底　7.1 高　22.7	外面：口辺部横ナデ　胴上部ナデ　胴上部～胴下部縦方向ヘラケズリ 内面：口辺部横ナデ　胴上部～胴下部横方向ヘラナデ　底部ヘラナデ	胎　砂粒を含む 色　にぶい褐色 焼　普通	4／5 外面底部に木葉圧痕有り	6世紀前半

H－9a・b号住

No	器　種	出土位置	法　量	器形・技法等の特徴	胎土・色調・焼成	残存状態・備考	時　期
1	須恵器坏	30区2層	口　7.8 底　4.9 高　2.1	外面：回転横ナデ　底部回転糸切り 内面：回転横ナデ	胎　砂粒を含む 色　橙色 焼　不良	口縁部の1／3～底部	
2	土師器坏	カマド	口　10.8 底　－ 高　5.2	外面：口辺部横ナデ　体部斜方向ナデ　底部ヘラケズリ 内面：口縁部～体部横ナデ後放射状ヘラミガキ　底部ナデ	胎　砂粒を含む 色　明赤褐色 焼　良	1／2	
3	土師器坏	20区1層	口　13.2 底　－ 高　(4.6)	外面：口辺部横ナデ　体部横・斜方向ヘラケズリ 内面：口縁部～体部横ナデ後放射状ヘラミガキ	胎　砂粒を含む 色　明赤褐色 焼　良	口縁部～体部の1／6 内面黒色処理	

第12表　H－8・H－9a・b号住出土遺物観察表

H－9a･b号住

No	器　種	出土位置	法　量	器形・技法等の特徴	胎土・色調・焼成	残存状態・備考	時　期
4	土師器坏	14区3層 19区3層 15区4層	口　15.0 底　－ 高　(3.6)	外面：口辺部横ナデ　体部ヘラナデ・単位不明瞭 内面：口縁部～体部横ナデ後放射状ヘラミガキ	胎　砂粒を含む 色　にぶい赤褐色 焼　良	口縁部～体部の1／4	
5	須恵器 高台付坏	カマド	口　－ 底　8.0 高　(2.7)	外面：回転横ナデ　底部回転糸切り後付高台 内面：回転横ナデ　底部渦巻き	胎　砂粒を含む 色　にぶい黄色 焼　やや不良	胴下部の一部～底部	
6	土師器高坏	カマド 19区4層	口　－ 底　9.0 高　(4.2)	外面：脚部横方向ヘラナデ　裾部横ナデ 内面：脚部横方向ヘラナデ　裾部横ナデ	胎　砂粒を含む 色　橙色 焼　良	脚部の1／3	
7	土師器高坏	カマド	口　－ 底　9.1 高　(3.6)	外面：脚部横方向ヘラナデ　裾部横ナデ 内面：脚部横方向ヘラナデ　裾部横ナデ	胎　砂粒を含む 色　明赤褐色 焼　良	脚部の2／3	
8	土師器高坏	カマド 14区2層	口　－ 底　9.4 高　2.1	外面：脚部斜方向ヘラナデ　裾部横ナデ 内面：脚部斜方向ヘラナデ　裾部横ナデ	胎　砂粒を含む 色　明赤褐色 焼　良	脚部の2／3	
9	土師器 台付甕	18区3層 カマド	口　－ 底　9.6 高　(5.4)	外面：脚部斜方向ヘラナデ後斜方向ハケメ 内面：脚部横方向ヘラナデ　裾部折り返し	胎　砂粒を含む 色　橙色 焼　良	台部の1／3	
10	土師器高坏	カマド 20区2層 19区3層	口　16.4 底　－ 高　(5.2)	外面：口辺部横ナデ　体部縦・横方向ヘラケズリ 内面：口縁部～体部横ナデ後放射状ヘラミガキ	胎　砂粒を含む 色　明褐色 焼　良	口縁部～体部の1／4	
11	土師器 小形甕	カマド	口　8.1 底　－ 高　8.4	外面：口縁部～胴上部横ナデ　胴中央部～胴下部不定方向ヘラケズリ　底部ヘラケズリ 内面：口辺部斜方向ヘラミガキ　胴上部～胴下部ヘラナデ　底部ヘラナデ	胎　砂粒を含む 色　橙色 焼　普通	ほぼ完形	6世紀後半
12	土師器坩	22区4層 14区1層	口　10.0 底　－ 高　(10.5)	外面：口辺部横ナデ後縦方向ヘラミガキ　胴上部縦方向ヘラナデ後斜方向ヘラミガキ　胴中央部斜方向ヘラケズリ 内面：口辺部横ナデ　胴上部～胴中央部横方向ヘラナデ	胎　砂粒を少量含む 色　橙色 焼　良	口縁部～胴中央部の1／4	
13	須恵器高坏	カマド	口　16.2 底　－ 高　(6.0)	外面：回転横ナデ　坏底部回転ヘラケズリ　体部に斜方向の沈線有り 内面：回転横ナデ	胎　砂粒を含む 色　暗灰黄色 焼　還元	坏部の2／3 坏部と脚部の接合部に透しと推定される痕跡有り	TK－10 6世紀後半
14	土師器甕	22区2層 18区2層 15区4層 カマド	口　15.2 底　－ 高　(9.1)	外面：口辺部横ナデ　胴上部縦方向ヘラケズリ 内面：口辺部横ナデ　胴上部横方向ヘラナデ	胎　砂粒を含む 色　明赤褐色 焼　良	口縁部～胴上部の1／8	
15	土師器甕	18区3層 19区2層 カマド 15区4層	口　17.0 底　－ 高　(9.7)	外面：口辺部横ナデ　胴上部斜方向ヘラケズリ 内面：口辺部横ナデ　胴上部横方向ヘラナデ	胎　砂粒を含む 色　明赤褐色 焼　良	口縁部～胴上部の3／8 外面口辺部に指頭圧痕有り	
16	土師器甕	18区3層 22区2層 18区2層 カマド	口　－ 底　7.2 高　(10.4)	外面：胴下部縦方向ヘラケズリ　底部ヘラケズリ 内面：胴下部～底部横・斜方向ヘラナデ	胎　砂粒・小石を含む 色　明赤褐色 焼　良	胴下部～底部 内面底部に工具痕有り 外面胴下部に剥落有り	
17	土師器甕	カマド 18区3層 17区2層 14区3層 14区1層 18区2層	口　－ 底　6.0 高　(18.2)	外面：胴上部縦方向ヘラケズリ　胴中央部斜方向ヘラケズリ　胴下部縦方向ヘラケズリ　底部ヘラケズリ 内面：胴上部～胴下部横・斜方向ヘラケズリ　底部ヘラケズリ	胎　砂粒を含む 色　灰褐～にぶい赤褐色 焼　普通	胴上部～底部の2／5 内面胴中央部に輪積痕顕著	5世紀
18	土師器甕	カマド	口　－ 底　6.6 高　(3.8)	外面：胴下部斜方向ヘラケズリ　底部ヘラケズリ 内面：胴下部～底部不定方向ヘラナデ	胎　砂粒を含む 色　明赤褐色 焼　良	胴下部～底部の1／2 外面胴下部に剥落有り	
19	土師器甕	22区3層 カマド	口　－ 底　7.4 高　(5.2)	外面：胴下部縦方向ヘラケズリ　底部ヘラケズリ 内面：胴下部～底部不定方向ヘラナデ	胎　砂粒を含む 色　明赤褐色 焼　良	胴下部～底部の1／3	
20	S字口縁 台付甕	12区1層 20区2層	口　－ 底　－ 高　(4.1)	外面：口辺部横ナデ　胴上部斜方向ハケメ 内面：口辺部横ナデ　胴上部斜方向ヘラナデ	胎　砂粒を含む 色　にぶい黄橙色 焼　良	口縁部～胴上部の破片	

第13表　H－9a･b号住出土遺物観察表

H－9a･b号住

No	器　種	出土位置	法　量	器形・技法等の特徴	胎土・色調・焼成	残存状態・備考	時　期
21	S字口縁 台付甕	13区3層 カマド 13区2層 18区2層 13区1層 20区2層 15区4層 14区2層 18区3層 14区1層 12区1層 17区2層	口　16.3 底　－ 高　(14.1)	外面：口辺部横ナデ　胴上部～胴中央部斜方向ハケメ 内面：口辺部横ナデ　胴上部～胴中央部横・斜方向ヘラナデ	胎　砂粒を含む 色　橙色 焼　普通	口縁部～胴中央部の1／3	4世紀後半

H－10号住

No	器　種	出土位置	法　量	器形・技法等の特徴	胎土・色調・焼成	残存状態・備考	時　期
1	須恵器坏	13区1層	口　12.6 底　7.8 高　3.8	外面：回転横ナデ　底部回転糸切り 内面：回転横ナデ	胎　砂粒を含む 色　明黄褐色 焼　不良	口縁部～底部の3／4	
2	須恵器坏	9区1層	口　12.4 底　6.4 高　4.3	外面：回転横ナデ　底部回転糸切り 内面：回転横ナデ	胎　砂粒を含む 色　浅黄色 焼　不良	ほぼ完形 歪み有り	
3	土師器高坏	5区2層	口　16.6 底　－ 高　(5.2)	外面：口辺部横ナデ　体部不定方向ヘラミガキ 内面：口辺部横ナデ　体部不定方向ヘラミガキ	胎　砂粒を含む 色　橙色 焼　良	口縁部～体部の1／6	
4	土師器 小形甕	14区1層	口　9.0 底　3.9 高　8.0	外面：口辺部横ナデ　胴上部～胴下部横・斜方向ヘラミガキ　底部ヘラケズリ 内面：口辺部横ナデ　胴上部～胴下部横・斜方向ヘラミガキ　底部ヘラミガキ	胎　砂粒を含む 色　灰褐色 焼　普通	2／3	4世紀後半
5	土師器 小形甕	16区1層 16区3層 14区3層 12区1層 15区3層	口　12.9 底　－ 高　8.9	外面：口縁部～胴上部横ナデ　胴中央部ナデ・単位不明瞭　胴下部不定方向ヘラケズリ　底部ヘラケズリ 内面：口辺部横ナデ　胴上部～胴下部横・斜方向ヘラナデ　底部ヘラナデ	胎　砂粒を含む 色　暗灰黄色 焼　普通	7／8	4世紀後半
6	土師器壺	16区1層 5区3層 16区3層 9区1層	口　16.4 底　－ 高　(4.5)	外面：口縁部横ナデ　口辺部～頸部縦・斜方向ハケメ後横方向ヘラナデ 内面：口縁部～頸部斜方向ハケメ後横・斜方向ヘラミガキ	胎　砂粒を含む 色　橙色 焼　普通	口縁部～頸部の1／2	4世紀後半
7	S字口縁 台付甕	16区1層	口　16.0 底　－ 高　(4.2)	外面：口辺部横ナデ　胴上部斜方向ハケメ 内面：口辺部横ナデ　胴上部斜方向ヘラナデ	胎　砂粒を含む 色　灰黄褐色 焼　普通	口縁部～胴上部の1／4	4世紀後半
8	S字口縁 台付甕	15区3層	口　15.0 底　－ 高　(6.2)	外面：口辺部横ナデ　胴上部縦方向ハケメ 内面：口辺部横ナデ　胴上部斜方向ヘラナデ	胎　砂粒を含む 色　にぶい黄橙色 焼　普通	口縁部～胴上部の1／5	4世紀後半
9	S字口縁 台付甕	9区1層	口　16.4 底　－ 高　(3.3)	外面：口辺部横ナデ　胴上部斜方向ハケメ 内面：口辺部横ナデ　胴上部ヘラナデ	胎　砂粒を含む 色　にぶい黄褐色 焼　良	口縁部～胴上部の1／8	
10	S字口縁 台付甕	12区2層	口　16.4 底　－ 高　(3.3)	外面：口辺部横ナデ　胴上部斜方向ハケメ 内面：口辺部横ナデ　胴上部斜方向ヘラナデ	胎　砂粒を含む 色　暗灰黄色 焼　良	口縁部～胴上部の破片	

H－11号住

No	器　種	出土位置	法　量	器形・技法等の特徴	胎土・色調・焼成	残存状態・備考	時　期
1	土師器坏	カマド	口　13.8 底　－ 高　4.9	外面：口辺部横ナデ　体部不定方向ヘラケズリ　底部ヘラケズリ 内面：口縁部～底部不定方向ヘラミガキ	胎　砂粒を含む 色　にぶい赤褐色 焼　普通	完形	5末～6初
2	土師器坏	D－1	口　13.4 底　－ 高　5.0	外面：口辺部横ナデ　体部斜方向ヘラケズリ　底部ヘラケズリ 内面：口縁部～底部不定方向ヘラミガキ	胎　砂粒を含む 色　にぶい赤褐色 焼　普通	ほぼ完形	5末～6初
3	土師器坏	カマド 9区3層	口　14.4 底　－ 高　4.9	外面：口辺部横ナデ　体部横・斜方向ヘラケズリ　底部ヘラケズリ 内面：口縁部～体部放射状ヘラミガキ　底部ヘラミガキ	胎　砂粒を含む 色　赤褐色 焼　普通	ほぼ完形	5末～6初
4	土師器坏	14区1層 7区1層 10区1層	口　13.0 底　－ 高　(4.2)	外面：口辺部横ナデ　体部斜方向ヘラケズリ　底部ヘラケズリ 内面：口縁部～体部横ナデ後不定方向ヘラミガキ　底部ヘラミガキ	胎　砂粒を含む 色　赤褐色 焼　良	口縁部～底部の1／3	
5	土師器坏	D－1	口　12.8 底　－ 高　4.8	外面：口辺部横ナデ　体部横方向ヘラケズリ　底部ヘラケズリ 内面：口縁部～底部横ナデ後不定方向ヘラミガキ	胎　砂粒を少量含む 色　橙色 焼　良	ほぼ完形 歪み有り	

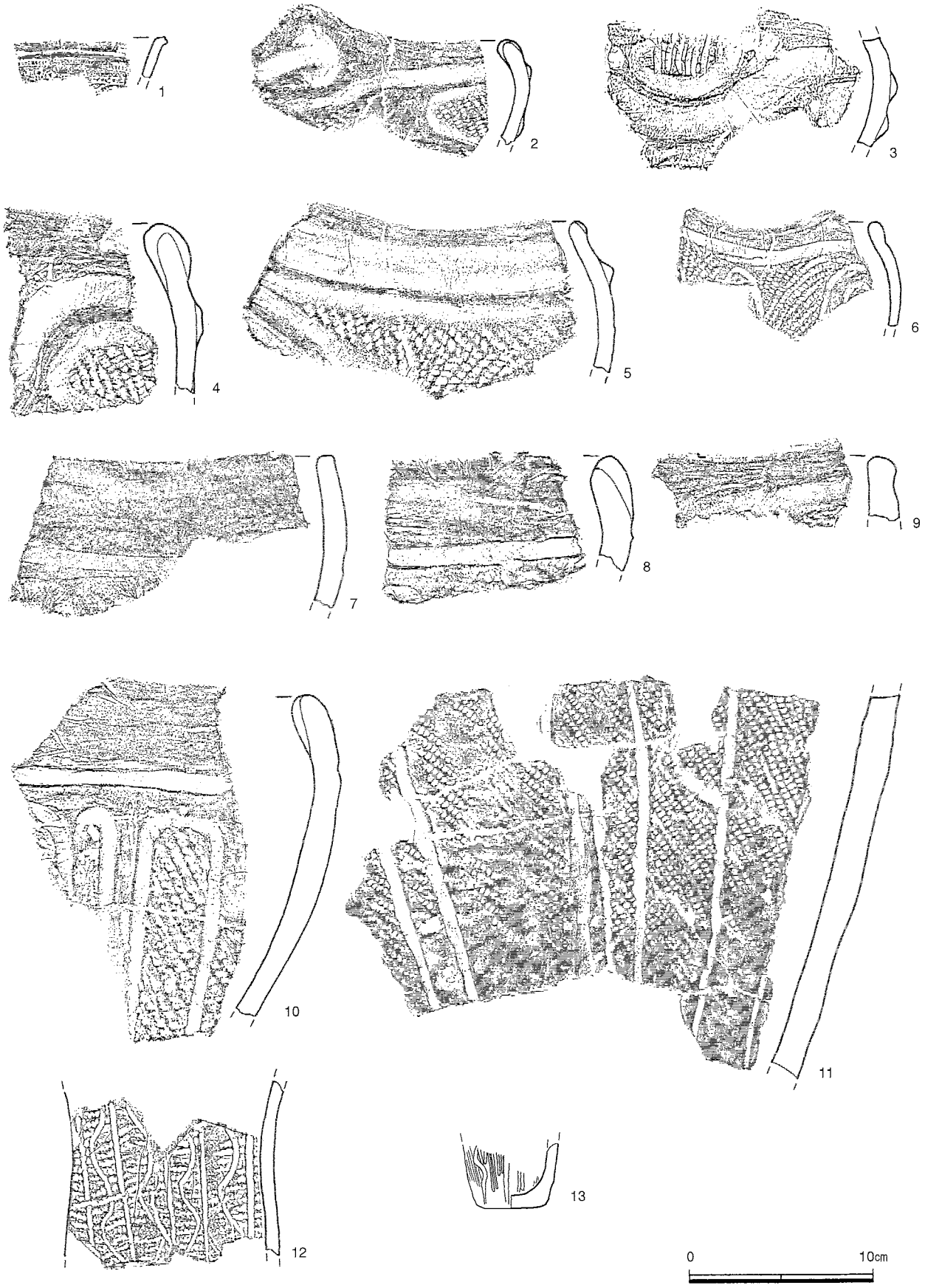
第14表　H－9a･b・H－10・H－11号住出土遺物観察表

H－11号住

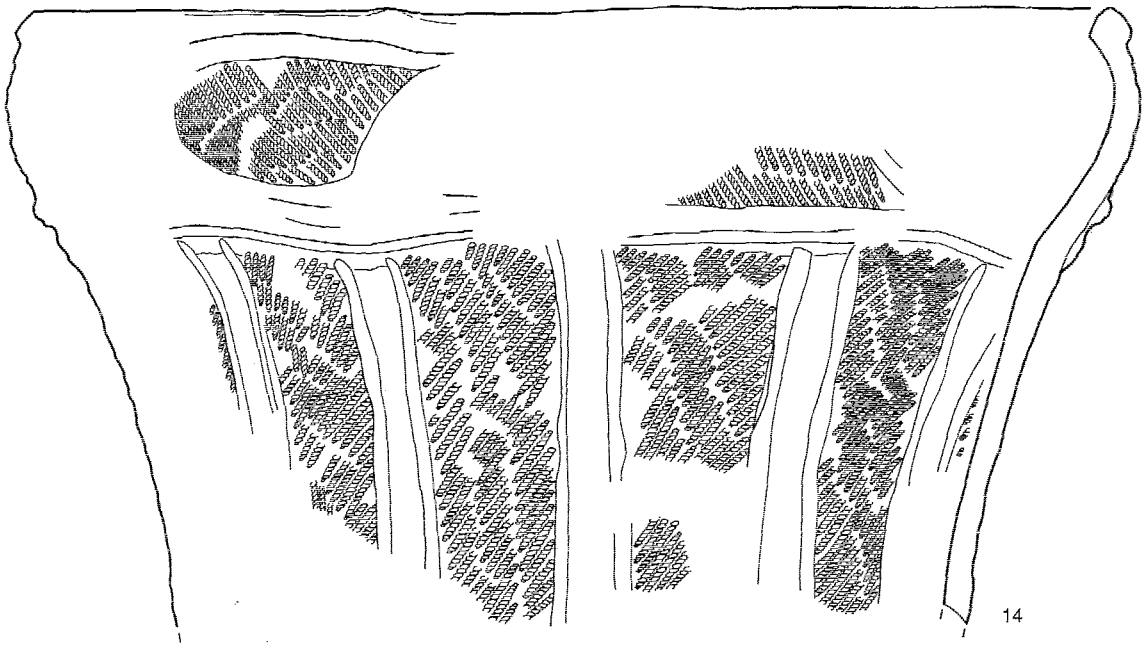
No	器　種	出土位置	法　量	器形・技法等の特徴	胎土・色調・焼成	残存状態・備考	時　期
6	土師器坏	D－1 5区2層	口　12.2 底　－ 高　4.9	外面：口辺部横ナデ　体部横方向ヘラケズリ 底部ヘラケズリ 内面：口縁部～体部横ナデ後放射状ヘラミガキ 底部ナデ	胎　砂粒を含む 色　橙色 焼　良	ほぼ完形 内面体部～底部に剥落あり	
7	土師器坏	10区3層 D－2	口　12.8 底　－ 高　5.4	外面：口辺部横ナデ　体部横方向ヘラケズリ 底部ヘラケズリ 内面：口縁部～体部横ナデ後放射状ヘラミガキ 底部ナデ	胎　砂粒を含む 色　橙色 焼　良	ほぼ完形	
8	土師器坏	4区3層	口　14.4 底　－ 高　7.1	外面：口辺部横ナデ　体部斜方向ヘラケズリ 底部ヘラケズリ 内面：口縁部～体部放射状ヘラミガキ　底部ヘラミガキ	胎　砂粒を含む 色　赤褐色 焼　普通	ほぼ完形	5末～6初
9	土師器坏	3区3層 3区1層 6区3層	口　13.0 底　－ 高　4.7	外面：口辺部横ナデ 体部ナデ 底部ヘラケズリ 内面：口縁部～体部横ナデ後放射状ヘラミガキ 底部ナデ	胎　砂粒を含む 色　橙色 焼　良	1／3 内面黒色処理	
10	土師器坏	D－1 5区2層	口　12.4 底　－ 高　4.8	外面：口辺部横ナデ　体部斜方向ヘラケズリ 底部ヘラケズリ 内面：口縁部～体部放射状ヘラミガキ　底部ヘラミガキ	胎　砂粒を含む 色　明赤褐色 焼　普通	ほぼ完形 内面黒色処理	5末～6初
11	土師器坏	D－1	口　11.8 底　－ 高　4.9	外面：口辺部横ナデ　体部横・斜方向ヘラケズリ　底部ヘラケズリ 内面：口縁部～底部放射状ヘラミガキ	胎　砂粒を含む 色　明赤褐色 焼　普通	ほぼ完形 内面黒色処理	5末～6初
12	土師器坏	7区1層	口　12.6 底　－ 高　6.2	外面：口辺部横ナデ　体部横方向ヘラケズリ 底部ヘラケズリ 内面：口縁部～体部横ナデ後不定方向ヘラミガキ　底部ナデ	胎　砂粒を含む 色　橙色 焼　良	1／8	
13	土師器坏	D－1 5区2層	口　10.8 底　－ 高　5.7	外面：口辺部横ナデ　体部斜方向ヘラケズリ 底部ヘラケズリ 内面：口縁部～体部横ナデ　底部ヘラナデ	胎　砂粒を含む 色　にぶい褐色 焼　良	1／2 歪み有り	
14	土師器坏	1区3層 D－1	口　12.6 底　－ 高　(4.4)	外面：口辺部横ナデ　体部不定方向ヘラナデ 内面：口縁部～体部横ナデ後不定方向ヘラミガキ	胎　砂粒を含む 色　赤褐色 焼　良	口縁部～体部の1／2	
15	土師器高坏	D－1	口　12.6 底　9.7 高　10.9	外面：口辺部横ナデ　体部斜方向ヘラケズリ 坏底部斜方向ヘラナデ　脚部縦方向ヘラミガキ 内面：口縁部～坏底部不定方向ヘラミガキ 脚部縦方向ヘラナデ 裾部横ナデ後斜方向ヘラミガキ	胎　砂粒を含む 色　赤褐色 焼　普通	ほぼ完形	5末～6初
16	土師器高坏	D－1 カマド 13区3層	口　13.5 底　9.8 高　9.4	外面：口辺部横ナデ　体部斜方向ヘラナデ　脚部縦方向ヘラナデ　裾部横ナデ 内面：口辺部横ナデ　体底部ナデ　脚部縦方向ヘラナデ	胎　砂粒を含む 色　橙色 焼　普通	2／3	5末～6初
17	土師器甕	13区3層 カマド 5区3層 5区2層	口　14.5 底　6.7 高　16.4	外面：口辺部横ナデ　胴上部横方向ヘラケズリ 胴中央部斜方向ヘラケズリ　胴下部横方向ヘラケズリ　底部ヘラケズリ 内面：口辺部横ナデ　胴上部～胴中央部不定方向ヘラケズリ　胴下部～底部ヘラケズリ	胎　砂粒を含む 色　橙～灰黄褐色 焼　普通	口縁部～胴下部の4／5と底部の一部 外面口辺部に輪積痕顕著	5末～6初
18	土師器甕	カマド D－1 7区1層	口　－ 底　7.0 高　(15.1)	外面：胴中央部縦方向ヘラケズリ　胴下部横方向ヘラケズリ　底部ヘラケズリ 内面：胴中央部～底部横・斜方向ヘラナデ	胎　砂粒を含む 色　にぶい黄褐色 焼　良	胴中央部～底部	
19	土師器甕	D－1 5区3層 9区3層 1区3層	口　16.4 底　－ 高　(18.5)	外面：口縁部～胴中央部縦・斜方向ヘラケズリ 内面：口辺部横ナデ　胴上部～胴中央部斜方向ヘラナデ	胎　砂粒を含む 色　にぶい黄橙色 焼　普通	口縁部～胴中央部の1／2	5末～6初
20	土師器壺	D－1 カマド 9区3層 13区3層	口　－ 底　－ 高　(21.6)	外面：頸部～胴中央部縦・斜方向ヘラケズリ 胴下部ヘラケズリ 内面：頸部～胴下部斜方向ヘラナデ	胎　砂粒を含む 色　赤褐色 焼　普通	頸部～胴下部の2／3	5末～6初
21	土師器甕	14区1層 14区2層	口　16.6 底　－ 高　(8.6)	外面：口辺部横ナデ　胴上部縦方向ヘラケズリ 内面：口辺部横ナデ　胴上部斜方向ヘラナデ	胎　砂粒を含む 色　赤褐色 焼　良	口縁部～胴上部の1／6	
22	土師器甕	カマド 9区3層	口　15.6 底　－ 高　(26.6)	外面：口辺部横ナデ　胴上部～胴中央部縦方向ヘラケズリ　胴下部斜方向ヘラケズリ 内面：口辺部横ナデ　胴上部～胴下部不定方向ヘラナデ	胎　砂粒を含む 色　赤褐色 焼　良	口縁部～胴下部の1／3	
23	土師器甑	D－1 11区1層	口　21.0 底　8.2 高　25.0	外面：口辺部横ナデ　胴上部～胴下部縦・斜方向ヘラケズリ　底部ヘラケズリ 内面：口辺部横ナデ　胴上部～胴中央部斜方向ヘラナデ後胴中央部斜方向ヘラミガキ　胴下部～底部横・斜方向ヘラケズリ	胎　砂粒を含む 色　赤褐色 焼　普通	1／2 内面胴下部に輪積痕顕著	5末～6初

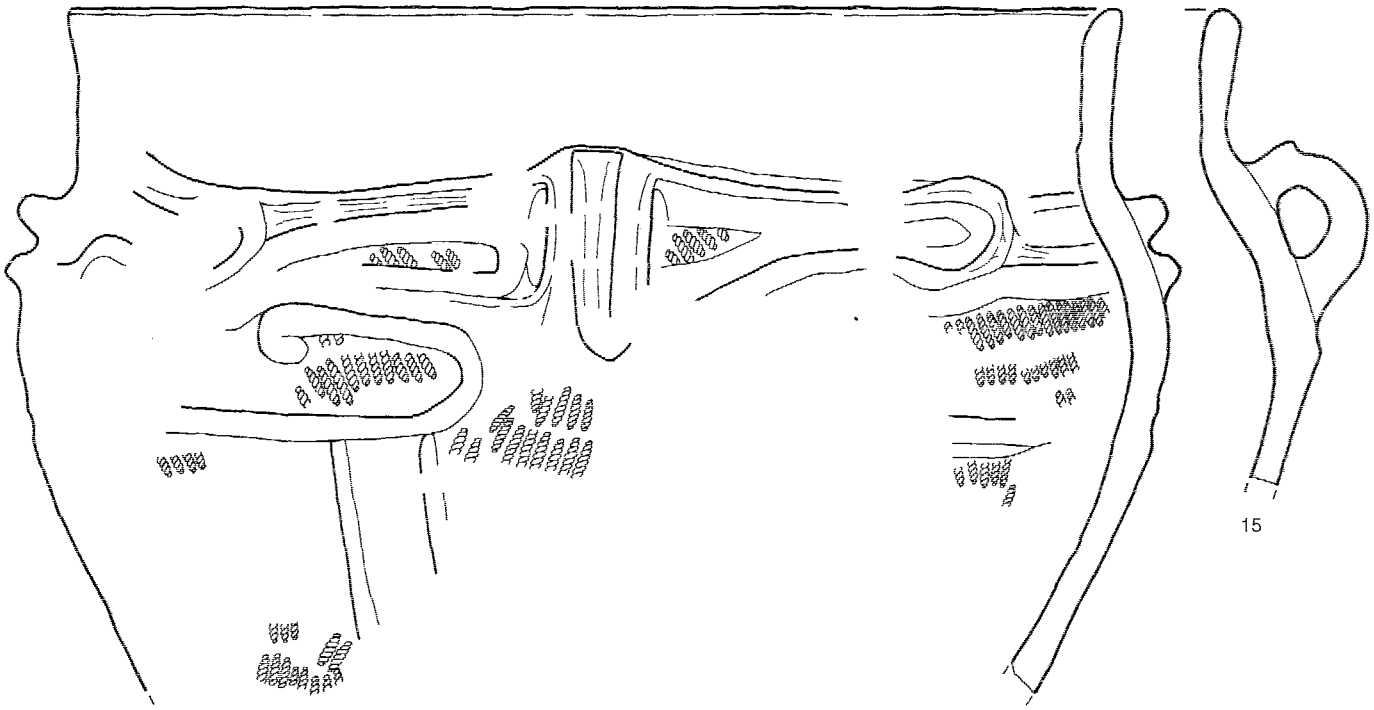
出土位置は、重量が重い順に記載した

第15表　H－11号住出土遺物観察表



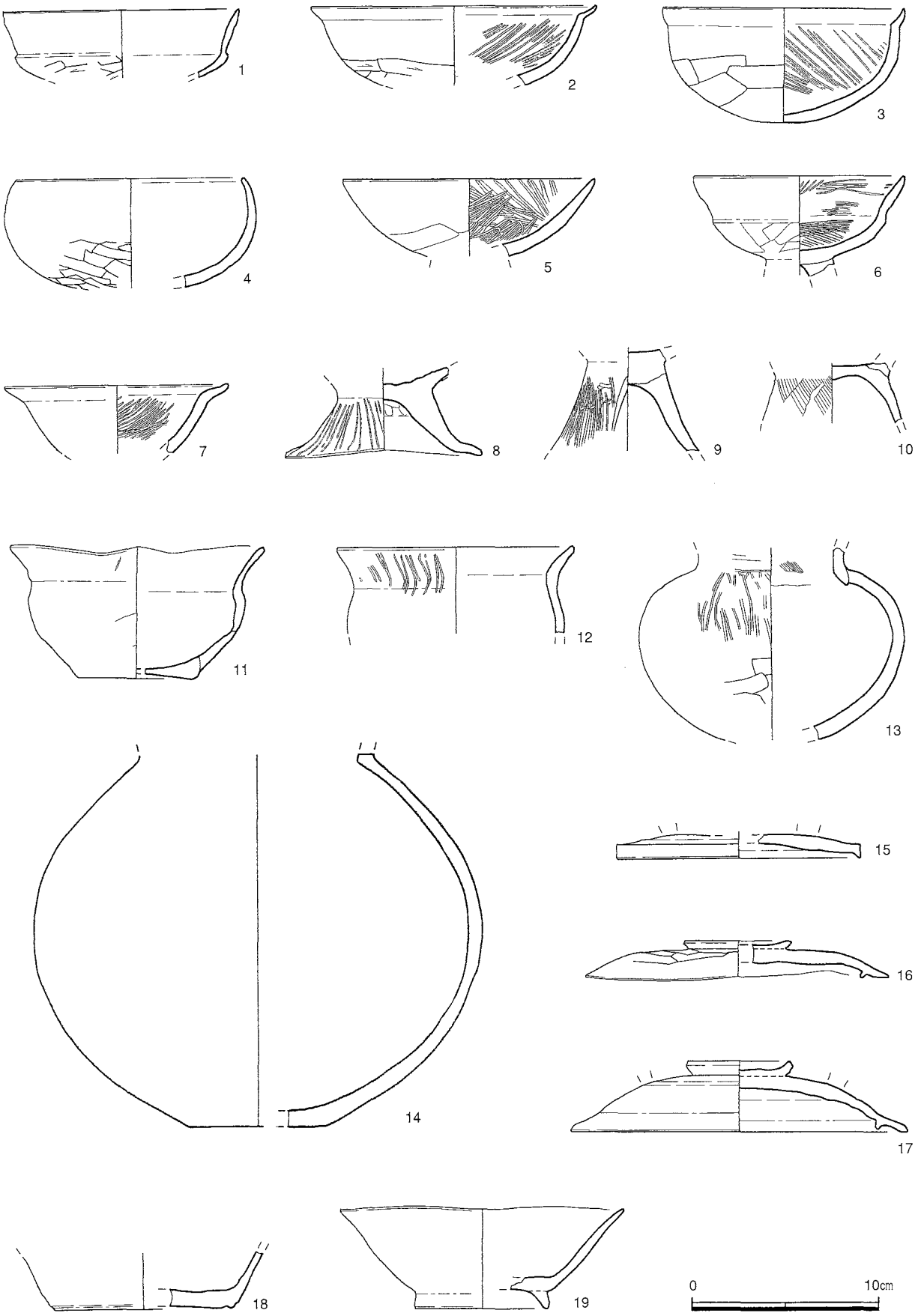
第50図　グリッド出土の遺物（1）縄文



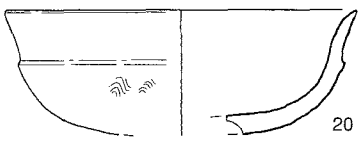


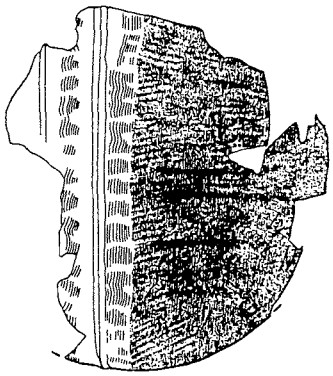
0 10cm

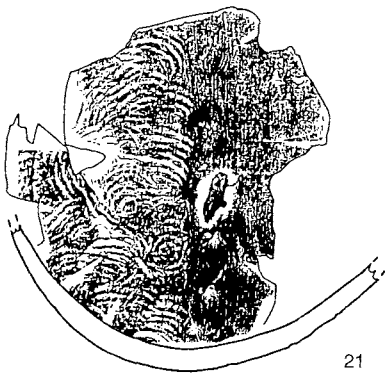
第51図　グリッド出土の遺物（2）縄文

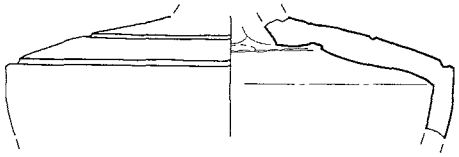


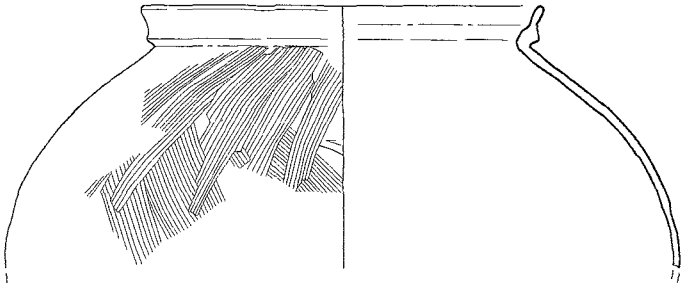
第52図　グリッド出土の遺物（3）土師器・須恵器

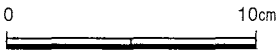




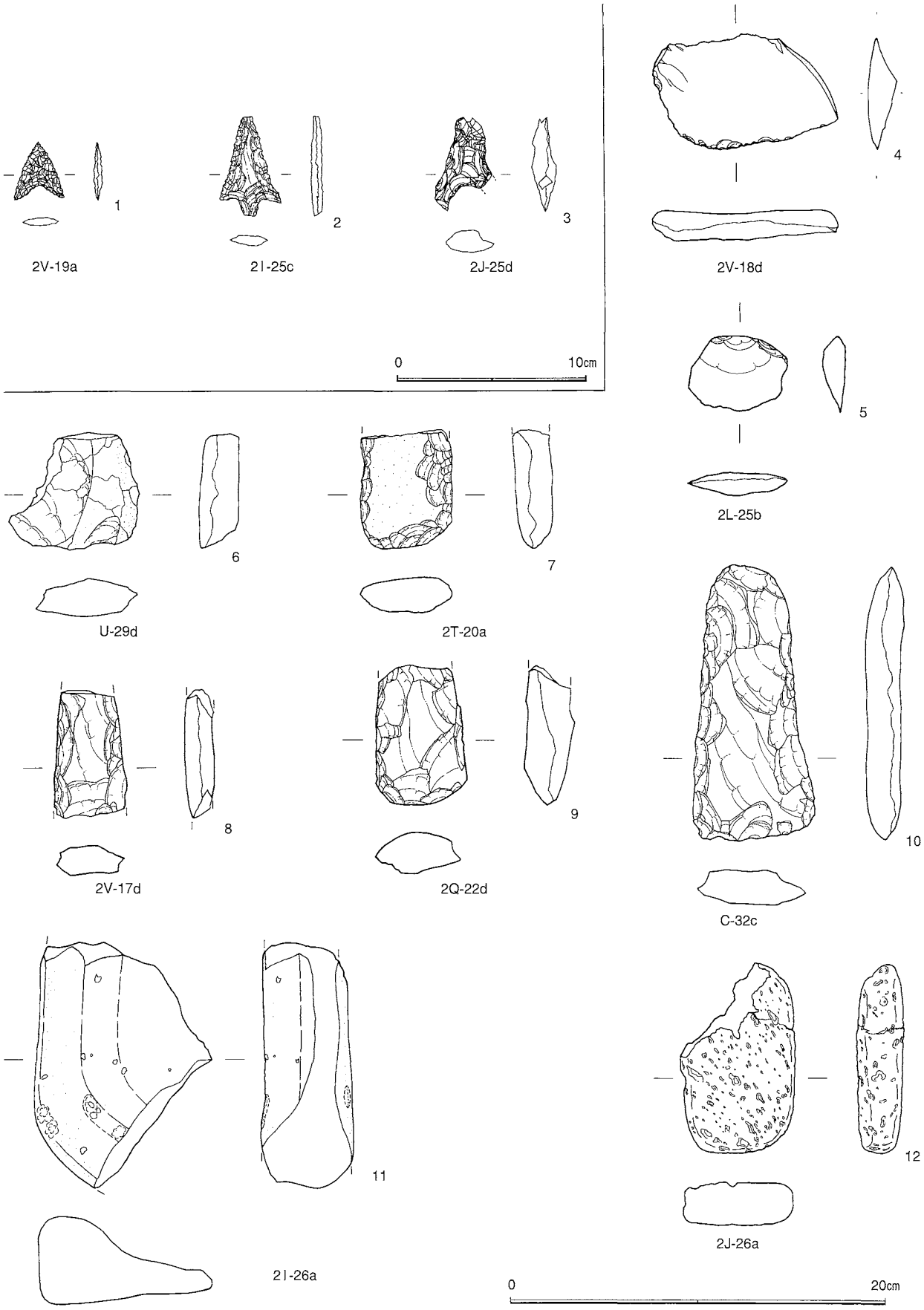




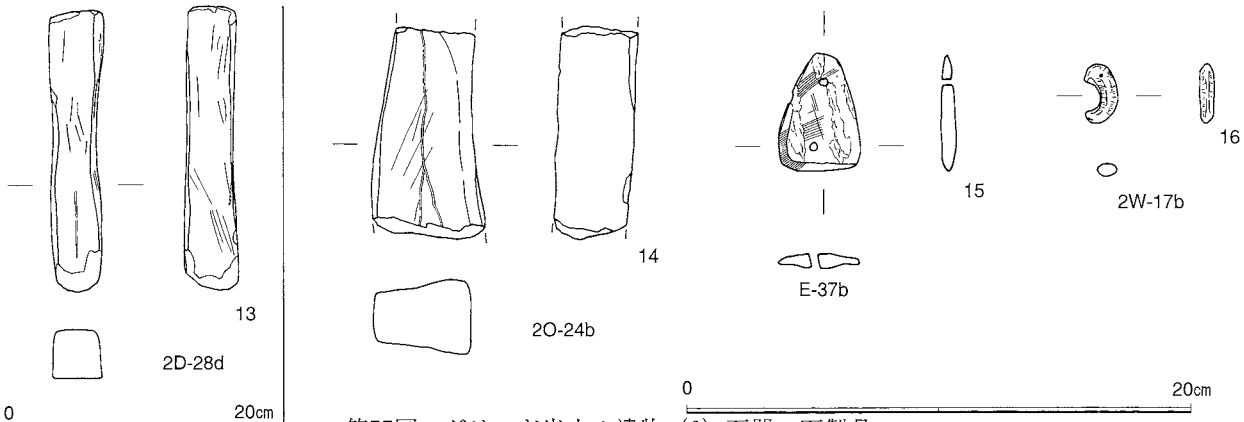




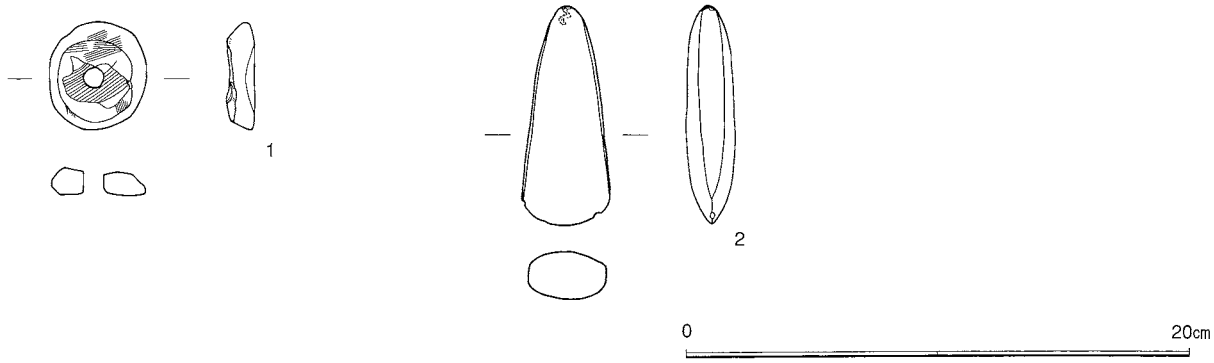
第53図　グリッド出土の遺物（4）土師器・須恵器



第54図　グリッド出土の遺物（5）石器・石製品



第55図　グリッド出土の遺物（6）石器・石製品



第56図　表採の遺物

No	出土位置	文　　様	法量 口径×底径×器高	焼　成 色　調	残　　存	備　　考
1	2Ｉ－26ｃ 2Ｇ－27ａ	口縁直下に平行沈線と爪形文を巡らす。円形刺突を施し、平行沈線と爪形文で木葉状入組文を描くと推定される。施文具は幅狭の半截竹管を使用する。	－ × － ×（2.2）	良 にぶい黄橙色	口縁部の破片	諸磯ａ
2	2Ｑ－21ｃ 2Ｑ－22ａ	波状口縁を呈す。波頂部に沈線による渦巻文を施す。口縁部文様帯は、単節ＲＬを横位施文後隆帯で楕円形区画文を横位に配す。	－ × － ×（5.7）	良 橙色	口縁部の破片	加曽利Ｅ３
3	2Ｇ－21ｃ 2Ｑ－21ｃ 2Ｑ－22ａ	沈線を縦位施文後隆帯とそれに沿う凹線を弧状に配し、口縁部文様帯とする。弧状の端部に押捺を施す。隆帯で楕円形区画文を施すと推定される。	－ × － ×（6.0）	良 にぶい黄橙色	口辺部の破片	加曽利Ｅ３
4	2Ｄ－27ｂ 2Ｄ－27ｄ	隆帯とその両脇に沿う凹線で、楕円形区画文を配すと推定される。区画文内には、凹線に先立ち単位ＲＬを横位施文する。	－ × － ×（9.2）	良 にぶい黄橙色	口縁部の破片	加曽利Ｅ３
5	2Ｅ－26ｃ 2Ｅ－27ｃ	波状口縁を呈す。口縁部文様帯を区画する隆帯が巡り、単節ＲＬを縦位・横位施文後、隆帯とそれに沿う凹線で曲線文を描く。	－ × － ×（8.3）	良 にぶい黄橙色	口縁部の破片	加曽利Ｅ４
6	2Ｊ－26ａ 2Ｊ－25ｄ	波状口縁を呈す。口縁部無文帯を区画する沈線を巡らす。２条の沈線で曲線文施文後、単節ＲＬを縦位・横位施文する。	－ × － ×（5.6）	良 にぶい黄橙色	口縁部の破片	加曽利Ｅ４
7	2Ｇ－26ａ 2Ｈ－26ａ	口縁に沿って沈線を巡らす。	－ × － ×（8.3）	良 にぶい黄橙色	口縁部の破片	加曽利Ｅ４
8	2Ｇ－27ｂ	口縁部無文帯を区画する沈線が巡る。沈線で曲線文を描き縄文施文するが、縄文原体不明。	－ × － ×（6.2）	良 明赤褐色	口縁部の破片	加曽利Ｅ４
9	2Ｑ－21ｄ	隆帯で楕円形区画文を配すと推定される。区画文内には、単節ＲＬを横位施文する。	－ × － ×（3.5）	良 褐色	口縁部の破片	加曽利Ｅ３
10	2Ｇ－26ｄ 2Ｈ－26ｃ	口縁部無文帯を区画する沈線が巡る。単節ＬＲを縦位施文後、沈線で「Π」状区画文を配す。「Π」状区画文間に上端蕨手状沈線を垂下する。	－ × － ×（17.2）	良 にぶい赤褐色	口縁部～胴部の破片	加曽利Ｅ４
11	2Ｈ－27ｂ 2Ｈ－27ａ 2Ｈ－26ａ 2Ｈ－26ｃ	単節ＬＲを縦位施文後、数条の沈線を垂下して縦位区画する。	－ × － ×（20.8）	良 明赤褐色	胴部の破片	加曽利Ｅ３～Ｅ４
12	2Ｂ－28ａ	単節ＲＬを縦位・横位・斜位施文後沈線を垂下して縦位区画し、沈線間に波状沈線を垂下する。	－ × － ×（9.5）	良 にぶい黄橙色	胴部の破片	加曽利Ｅ３～Ｅ４
13	2Ｒ－22ａ	２条の沈線を垂下して縦位区画する。櫛歯状工具による条線を縦位施文後波状沈線を垂下する。	－ × 3.3 ×（3.5）	良 暗赤褐色	胴下部の１／４～底部の３／４	加曽利Ｅ３～Ｅ４ ミニチュア土器
14	2Ｈ－26ａ 2Ｈ－26ｂ	キャリパー形を呈す。口縁部文様帯は隆帯で楕円形区画文を横位に配す。楕円形区画文内には単節ＲＬを横位施文後、隆帯に沿って沈線を巡らす。胴部は単節ＲＬを縦位施文後、２条の沈線を垂下して縦位区画する。	43.3 × － ×（24.9）	良 明赤褐色	口縁部の一部～胴中央部の１／４	加曽利Ｅ３
15	2Ｈ－27ａ 2Ｇ－27ｂ 2Ｈ－26ｃ 2Ｇ－26ｄ 2Ｄ－27ｄ 2Ｄ－28ｂ 2Ｉ－26ｃ	口縁部はやや外反ぎみに立ち上がり、胴上部に強い張りを有す器形。幅広の口縁部無文帯を有す。肩部文様帯は隆沈線で楕円形区画文を横位に配し、隆帯より橋状把手を貼付する。区画文内には単節ＲＬを横位施文する。胴上部は２条の沈線を垂下して縦位区画し、単節ＲＬを縦位施文する。	42.0 × － ×（27.4）	良 浅黄色	口縁部の２／３～胴上部の１／３	加曽利Ｅ３

出土位置は、重量が重い順に記載した

第16表　グリッド出土遺物観察表（縄文）

No.	器　種	出土位置	法　量	器形・技法等の特徴	胎土・色調・焼成	残存状態・備考
1	土師器坏	2F－26c	口　12.5 底　－ 高　(3.6)	外面：口辺部横ナデ　体部不定方向ヘラケズリ 内面：口縁部～体部横ナデ	胎　砂粒を含む 色　にぶい黄橙色 焼　良	口縁部～体部の1／4
2	土師器坏	2J－25d	口　15.2 底　－ 高　(4.2)	外面：口辺部横ナデ　体部横方向ヘラケズリ 内面：口縁部～体部横ナデ後放射状ヘラミガキ	胎　砂粒を含む 色　にぶい赤褐色 焼　良	口縁部～体部の1／5
3	土師器坏	H－35d	口　12.8 底　－ 高　6.1	外面：口辺部横ナデ　体部横方向ヘラケズリ　底部剥落により不明 内面：口縁部～体部横ナデ放射状ヘラミガキ　底部剥落により不明	胎　砂粒を含む 色　明赤褐色 焼　良	1／3 内面黒色処理
4	土師器坏	2U－19c 2U－19a	口　12.0 底　－ 高　(5.8)	外面：口辺部横ナデ　体部不定方向ヘラケズリ 内面：口辺部横ナデ　体部横・斜方向ナデ	胎　砂粒を含む 色　にぶい赤褐色 焼　良	口縁部～体部の1／5
5	土師器高坏	G－36b	口　13.4 底　－ 高　(4.1)	外面：口辺部横ナデ　体部斜方向ヘラナデ 内面：口辺部横ナデ　体部放射状ヘラミガキ	胎　砂粒を含む 色　橙色 焼　良	口縁部～体部の1／6 内面黒色処理
6	土師器高坏	J－1住一括	口　11.2 底　－ 高　(5.3)	外面：口辺部横ナデ　坏部不定方向ヘラナデ 内面：口縁部～体部横ナデ後横・斜方向ヘラミガキ　坏底部ヘラナデ後ヘラミガキ	胎　砂粒を含む 色　明赤褐色 焼　良	坏部の1／3
7	土師器高坏	2H－26b	口　12.0 底　－ 高　(3.6)	外面：口辺部横ナデ　体部ナデ 内面：口縁部～体部横ナデ後放射状ヘラミガキ	胎　砂粒を含む 色　赤褐色 焼　良	口縁部～体部の1／4
8	土師器高坏	J－1住付近	口　－ 底　10.4 高　(4.7)	外面：脚部ナデ後縦方向ヘラミガキ　裾部横ナデ 内面：坏底部剥落により不明　脚部横方向ヘラナデ　裾部横ナデ	胎　砂粒を含む 色　明赤褐色 焼　良	脚部の3／4 歪み有り
9	土師器高坏	T－30c	口　－ 底　－ 高　(5.5)	外面：脚部縦方向ヘラミガキ 内面：坏底部ヘラミガキ　脚部横方向ヘラナデ	胎　砂粒を含む 色　明赤褐色 焼　良	脚部の1／3 3ヶ所に3角形の透かし有り
10	土師器台付甕	2A－27c	口　－ 底　－ 高　(3.2)	外面：台部斜方向ハケメ 内面：台部斜方向ヘラナデ	胎　砂粒を含む 色　にぶい黄橙色 焼　良	底部～台部の1／2
11	土師器小形甕	2V－17c	口　13.4 底　6.0 高　7.1	外面：口縁部～頸部横ナデ　胴上部～胴下部横方向ヘラナデ　底部ヘラケズリ 内面：口縁部～頸部横ナデ　胴上部～胴下部不定方向ヘラナデ　底部ヘラナデ	胎　砂粒を含む 色　にぶい橙色 焼　良	1／4 歪み有り 外面口辺部に輪積痕顕著
12	土師器小形甕	2V－17c 2V－17d	口　12.6 底　－ 高　(4.6)	外面：口辺部横ナデ後縦方向ヘラミガキ　胴上部ヘラナデ・単位不明瞭 内面：口辺部横ナデ　胴上部斜方向ヘラナデ	胎　砂粒を含む 色　明赤褐色 焼　良	口縁部～胴上部の1／6
13	土師器坩	2U－18d 2U－19b	口　－ 底　－ 高　(10.2)	外面：頸部横ナデ後横方向ヘラミガキ　胴上部～胴中央部ヘラナデ後縦方向ヘラミガキ　胴下部横・斜方向ヘラケズリ 内面：頸部横ナデ後斜方向ヘラミガキ　胴中央部～胴下部ヘラナデ	胎　砂粒を含む 色　赤褐色 焼　良	頸部～胴下部の1／4 内面頸部に輪積痕顕著
14	土師器甕	Y－29a	口　－ 底　7.4 高　(20.0)	外面：頸部～胴中央部ヘラナデ・単位不明瞭　胴下部～底部摩滅により不明 内面：頸部～底部横・斜方向ヘラナデ	胎　砂粒を多量に含む 色　橙色 焼　良	頸部～底部の一部
15	須恵器蓋	2E－27b 2E－27a	口　13.0 ツマミ径　－ 高　(1.3)	外面：回転横ナデ　天井端部回転ヘラケズリ 内面：回転横ナデ	胎　砂粒を含む 色　灰色 焼　良	1／2
16	須恵器蓋	2A－28b 2B－27c 2B－28a 2B－27d	口　16.2 ツマミ径　5.7 高　2.1	外面：天井部横方向ヘラケズリ　回転横ナデ 内面：回転横ナデ	胎　砂粒を含む 色　にぶい褐色 焼　やや不良	1／3 歪み有り
17	須恵器蓋	2C－27b	口　18.0 ツマミ径　5.4 高　3.8	外面：天井端部回転ヘラケズリ後回転横ナデ　天井部リング状摘み貼付 内面：回転横ナデ	胎　砂粒を含む 色　灰色 焼　良	1／2
18	須恵器坏	B区一括 2A－28b	口　－ 底　9.4 高　(3.0)	外面：回転横ナデ　底部回転糸切り後回転ヘラナデ 内面：回転横ナデ	胎　砂粒を含む 色　灰黄褐色 焼　良	体部の1／4～底部の1／2
19	須恵器高台付坏	Y－28b	口　15.2 底　7.2 高　5.3	外面：回転横ナデ　底部切り離し後付高台 内面：回転横ナデ	胎　砂粒を含む 色　灰白色 焼　良	口縁部～底部の1／5 歪み有り
20	須恵器坏	2V－19a 2V－18d	口　14.0 底　－ 高　(5.0)	外面：回転横ナデ　体部に波状文あり 内面：回転横ナデ	胎　砂粒・小石を含む 色　黄灰色 焼　良	口縁部～体部の1／6

第17表　グリッド出土遺物観察表（土師器・須恵器）

No	器　種	出土位置	法　量	器形・技法等の特徴	胎土・色調・焼成	残存状態・備考
21	須恵器提瓶	22X－17b 2X－16b 2Y－15c	口　－ 底　－ 高　－	外面：轆轤整形　波状文　平行叩き 内面：同心円文	胎　砂粒を含む 色　灰色 焼　還元	胴部の２／５
22	須恵器壺	3B－15a	口　－ 底　－ 高　(4.8)	外面：回転横ナデ　２条の沈線が巡る 内面：回転横ナデ	胎　砂粒を含む 色　黄灰色 焼　良	肩部の１／６ 内面輪積痕顕著・指頭圧痕有り
23	S字口縁台付甕	2A－28d 2A－28c	口　16.0 底　－ 高　(10.4)	外面：口辺部横ナデ　胴上部斜方向ヘラケズリ後斜方向ハケメ 内面：口辺部横ナデ　胴上部斜・横方向ヘラナデ	胎　砂粒を含む 色　にぶい黄褐色 焼　良	口縁部の一部～胴上部の１／５

出土位置は、重量が重い順に記載した

第18表　グリッド出土遺物観察表（土師器・須恵器）

グリッド出土の石器・石製品

No	器　種	石　材	長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重量（g）	備　考
1	石鏃	黒曜石	3.1	2.7	0.5	0.4	
2	石鏃	硬質頁岩	5.3	3.3	6.5	1	
3	石鏃	黒曜石	2.5	1.5	0.65	1.4	欠損
4	石匙B類	頁岩	6.1	10	1.5	87.7	
5	スクレイパーB類	頁岩	5.3	4	1.2	23.7	
6	打製石斧	頁岩	6.3	6.9	2.2	95.7	
7	打製石斧Ⅱ	頁岩	6.4	5	2.1	101	欠損
8	打製石斧Ⅱ	頁岩	6.8	3.9	1.6	53.9	欠損
9	打製石斧Ⅱ	頁岩	7.4	4.8	2.7	104.6	欠損
10	打製石斧Ⅱ	頁岩	14.7	6.5	2.1	235.8	
11	石皿Ⅲb	安山岩	13.1	9.5	4.9	493.3	欠損
12	石製品		10.1	6.2	2.5	72.1	軽石により削りだして整形されている
13	砥石		22.4	4.3	4.3	656.2	
14	砥石		8.3	4.5	3.2	158.9	欠損
15	垂飾	滑石	4.7	3.3	0.7	16.3	
16	曲玉	滑石	2.3	1.3	0.6	2.2	

表採の遺物

No	器　種	石　材	長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重量（g）	備　考
1	紡錘車	滑石	4.3	3.8	1.1	30.4	
2	磨製石斧	緑色岩類	17.5	7	3.9	671.2	

第19表　グリッド・表採出土遺物観察表

Ⅶ　まとめ

海竜寺遺跡は前述のとおり、碓氷川と九十九川の合流点より約１㎞下流の秋間丘陵から伸びる北岸の細長い台地上に位置している。遺跡の西側は、天神山から南東方向に延びる尾根が壁のように存在し、東には大谷津川が谷を刻み、その比高差は約24ｍを計り、南は碓氷川が流れ段丘比高差は約36ｍを計る。このような地形に囲まれた本遺跡のある字海竜寺周辺は幅約300ｍ、長さ約1000ｍを計る細長い緩やかな南傾斜の丘陵地で、標高は144ｍ前後である。

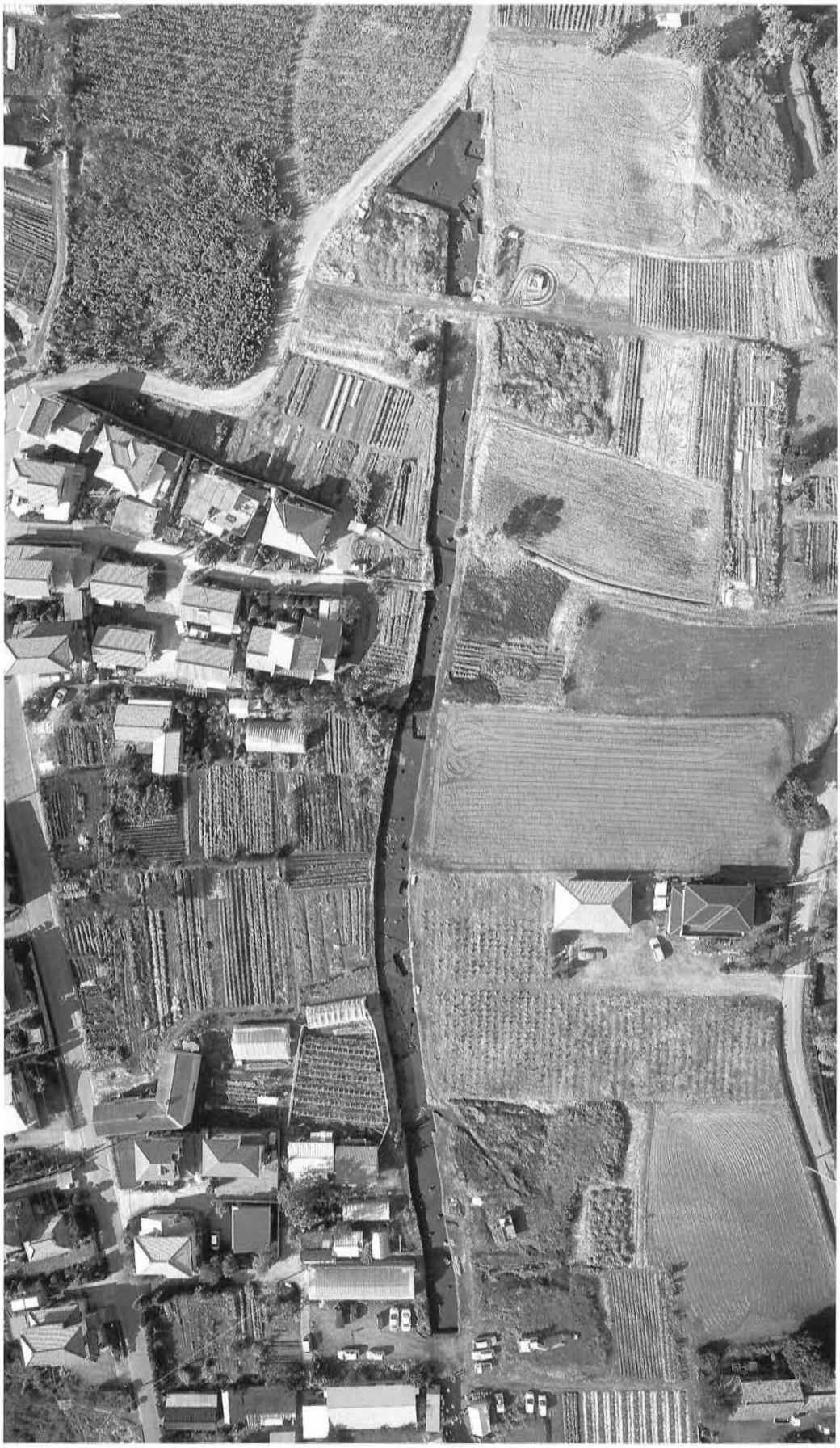
発掘調査はこの丘陵に沿いながら、そのほぼ中心部分を南北方向に縦断する形で行われた。しかし道路建設に伴うものであり、調査区は約10ｍの幅しか無いため、丘陵中心部に細長いトレンチを入れたような状況となった。

調査によって、縄文時代中期後半の敷石住居跡１軒、４世紀前半の住居跡１軒、４世紀後半の住居跡２軒、５世紀後半から６世紀前半にかけての住居跡２軒、６世紀前半の住居跡３軒、６世紀後半の住居跡２軒、９世紀後半の住居跡１軒が検出されたが、縄文時代以外は全ての住居跡がその１部が調査区外となってしまい、１軒全てを調査できるものはなかった。しかし、幸いにも耕作による攪乱層は薄く、Ⅲ層の堆積が厚いこともあり、遺構の遺存状態は良好であった。竈の残存率が良好な住居跡も多く、遺物も完形及び残存率の高いものが比較的多く、良好な資料を得ることが出来た。

ただし、前述のとおりトレンチによる確認調査の様な状況のため、各時期の集落の広がりはとらえることが出来ないが、遺構の検出状況や調査区外の畑の踏査結果などを観ると、本遺跡が立地する細長い丘陵全面に遺跡の広がりがあるものと思われる。しかし、今回の遺構の検出状況から推測して、各時期の集落は、あまり多くの遺構によって構成されているものではないと考えられる。

写　真　図　版

図版 1



海竜寺遺跡全景

図版 2

J－1号住

H－1号住

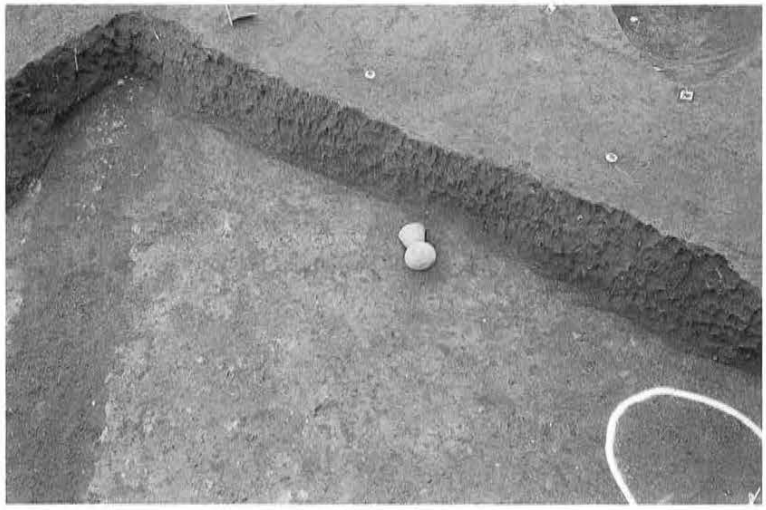
H－3号住

H－2号住

H－2・11号住

H－4号住

図版 4

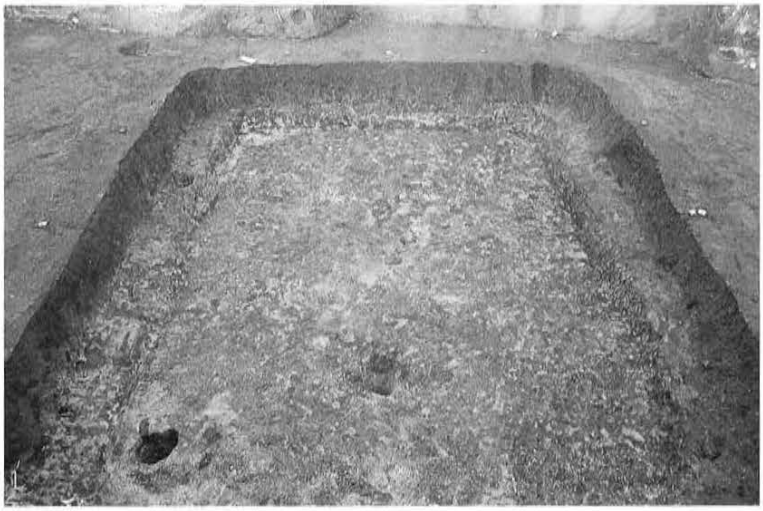


H－5号住

H－6号住

H－8号住

H－9号住



H－10号住

H－11号住

図版6

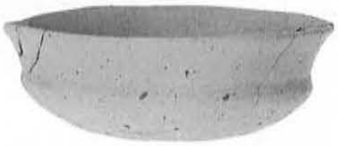
H－1号住　No.1

H－1号住　No.2

H－1号住　No.3

H－1号住　No.5

H－2号住　No.1



H－2号住　No.3

H－2号住　No.6

H－2号住　No.7

H－3号住　No.1

H－3号住　No.2

H－3号住　No.4

H－3号住　No.5

H－3号住　No.6

H－3号住　No.10

H－3号住　No.11

H－3号住　No.12

図版 8

H－3号住　No13

H－3号住　No16

H－3号住　No19

H－4号住　No 1

H－4号住　No 3

H－5号住　No 1

H－6号住　No 1

H－6号住　No 7

H－6号住　No11

H－6号住　No12

H－6号住　No13

H－6号住　No15

H－6号住　No16

H－6号住　No17

H－7号住　No 1

H－7号住　No 6

図版10

H－8号住　No.1

H－8号住　No.3

H－8号住　No.4

H－8号住　No.9

H－8号住　No.9

H－8号住　No.10

H－8号住　No.13

H－8号住　No.15

H－8号住　No.17

H－8号住　No.18

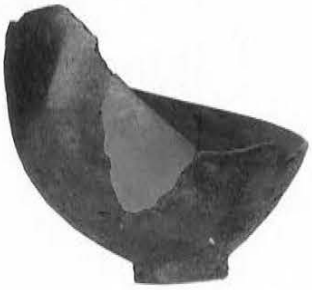
H－8号住　No.19

H－8号住　No.20

H－9号住　No.2

H－9号住　No.11

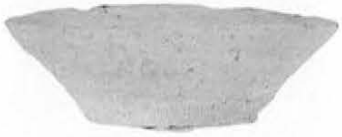
H－9号住　No.13



H－9号住　No.17

図版12

H－9号住　No.21



H－10号住　No.2

H－10号住　No.4

H－10号住　No.5

H－10号住　No.6

H－10号住　No.7

H－10号住　No.8

H－11号住　No.1

H－11号住　No.2

H－11号住　No.3

H－11号住　No.8

H－11号住　No.10

H－11号住　No.11

H－11号住　No.15

H－11号住　No.16

H－11号住　No.17

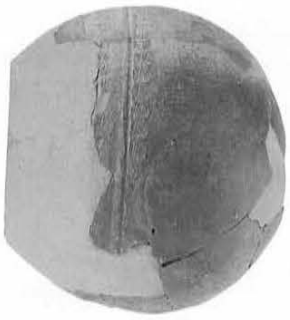
図版14

H－11号住　No.19

H－11号住　No.20

H－11号住　No.23

グリッド　No.17



グリッド　No.21

1

2

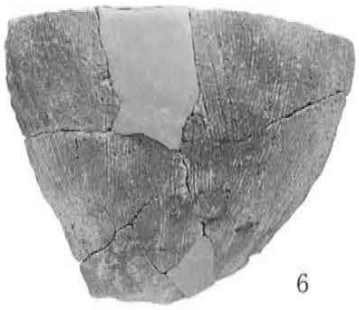
3

4

J－1号住出土遺物（1）

図版16

5


6

7

8

9

10

11

12

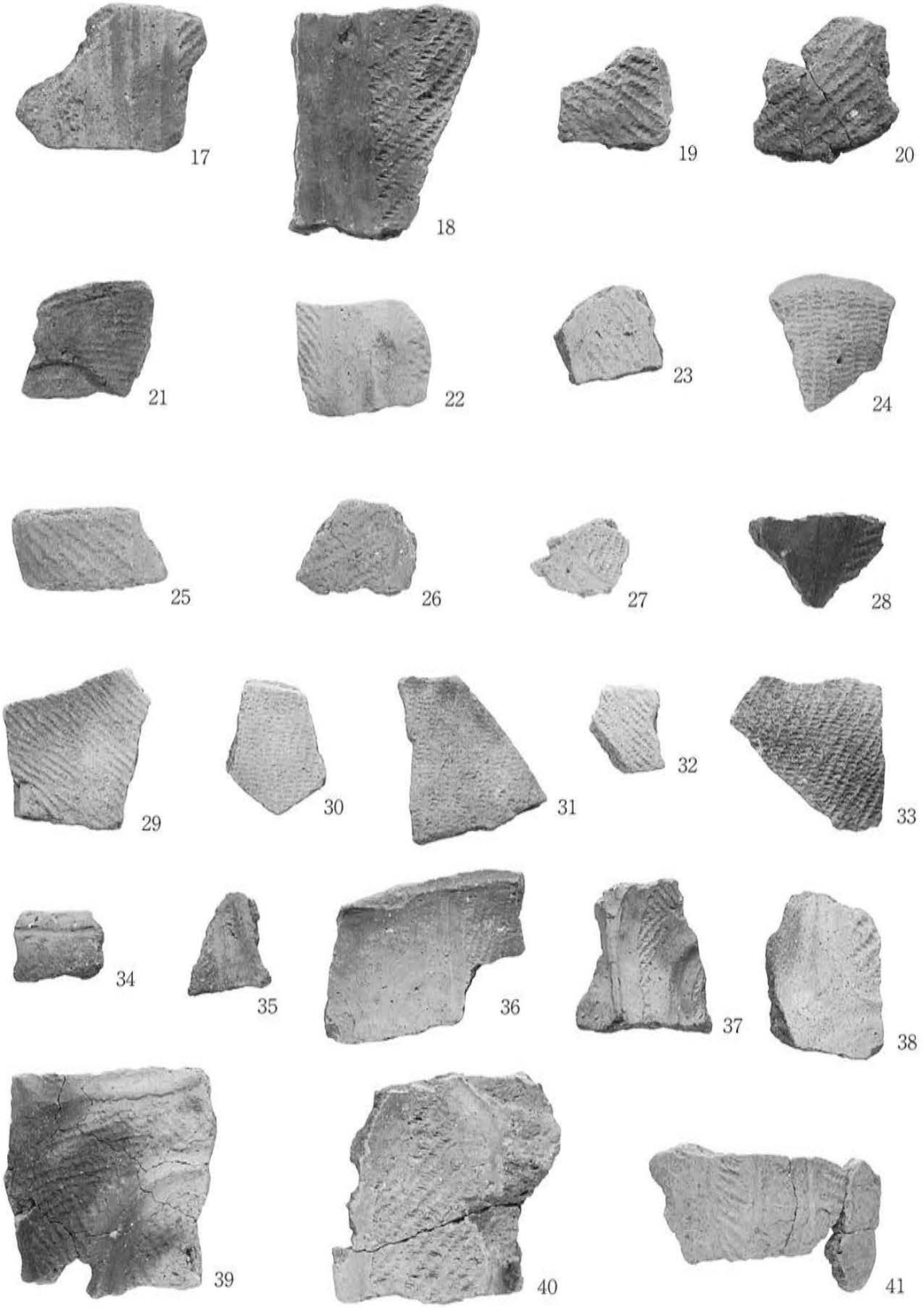
13

14

15

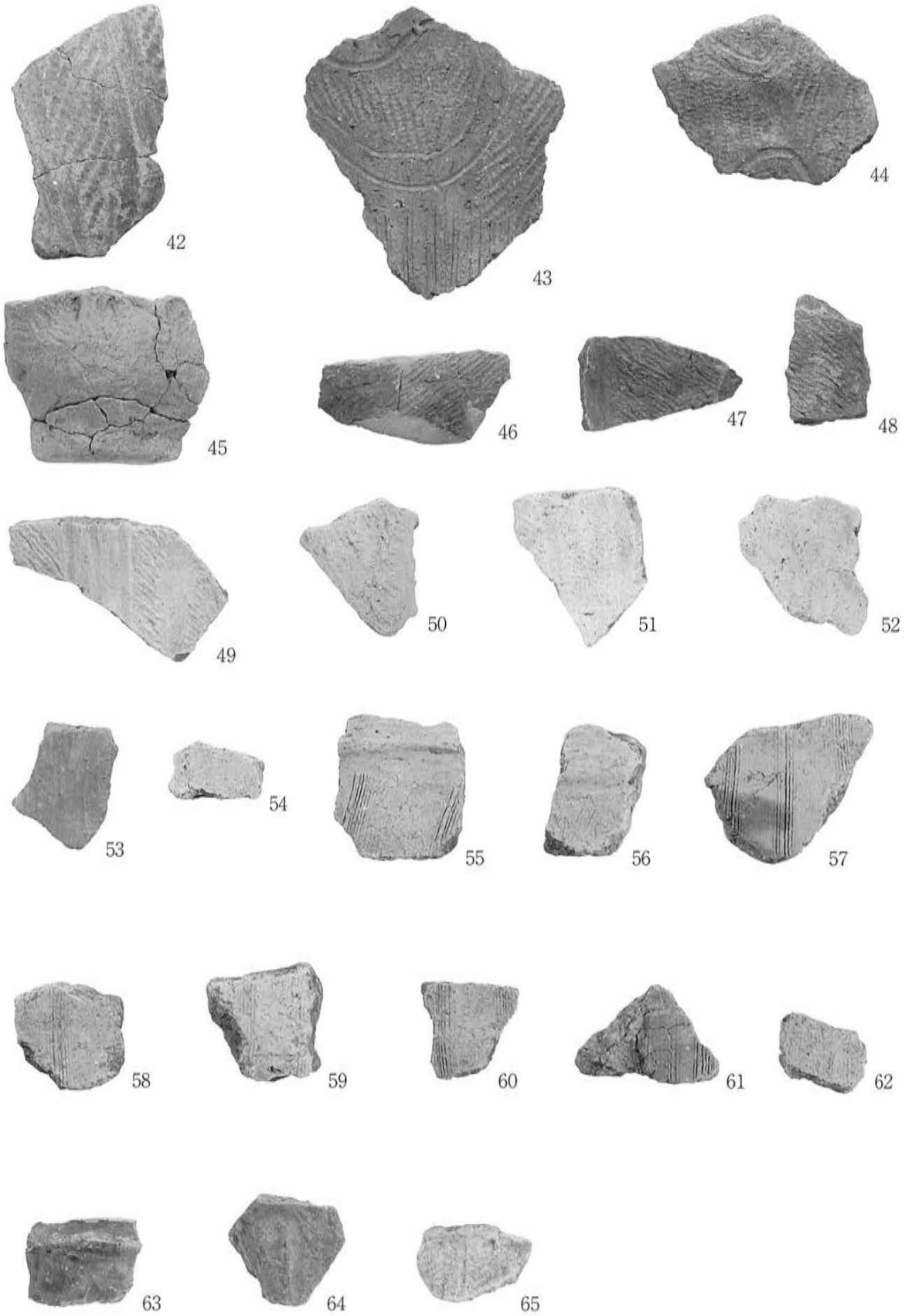
16

J－1号住出土遺物（2）

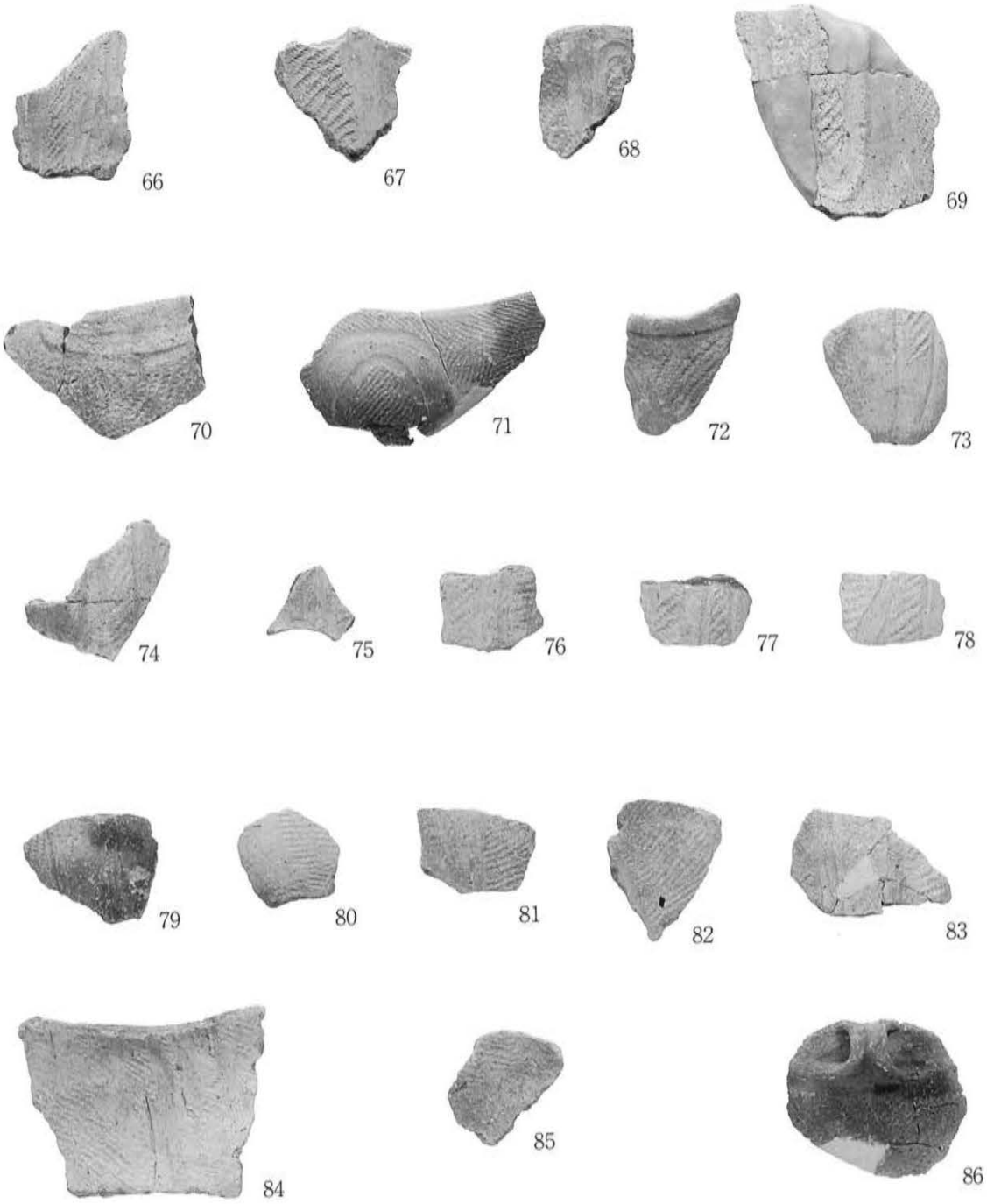

17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40
41

J－1号住出土遺物（3）

図版18

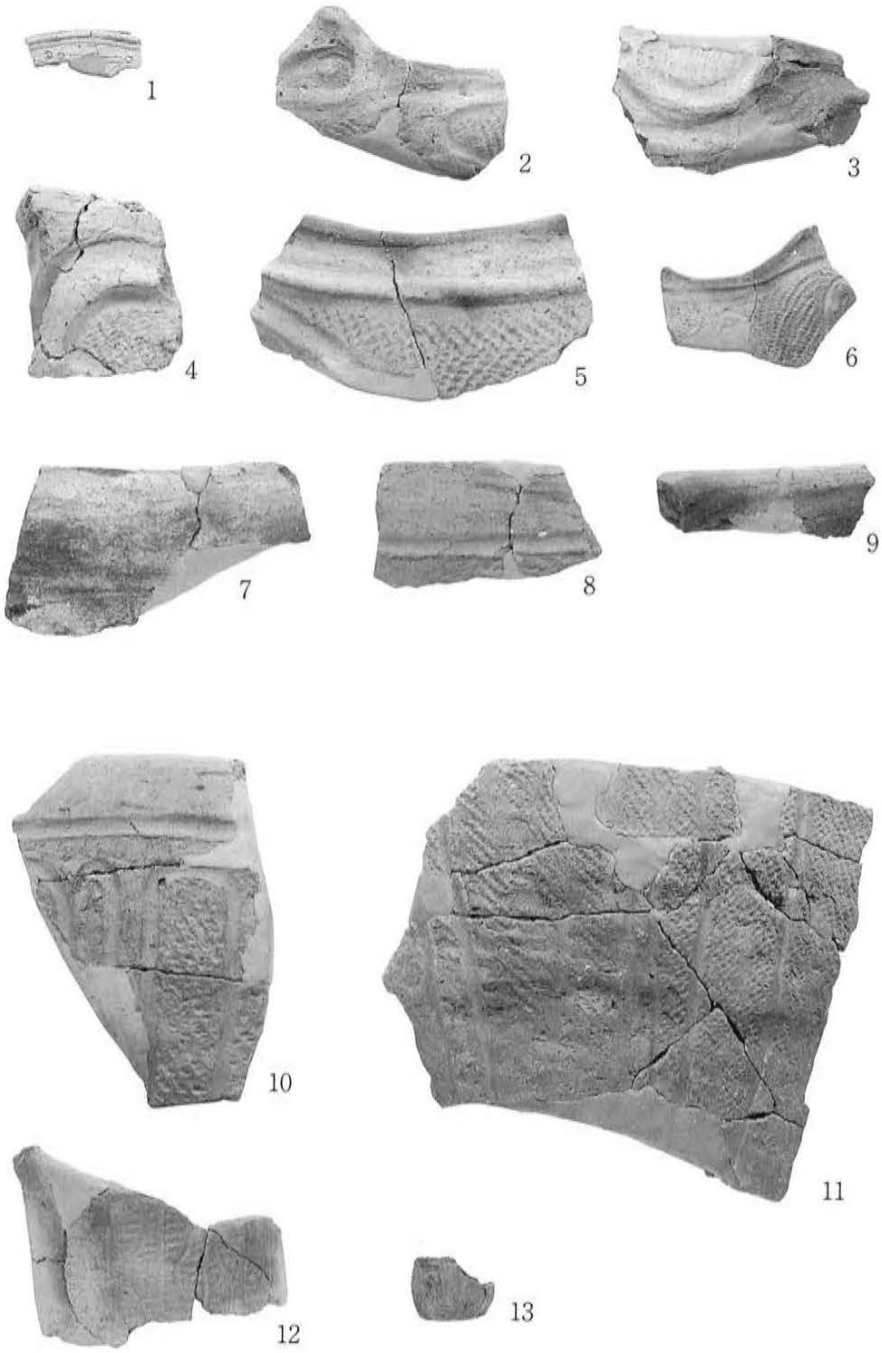


Ｊ－１号住出土遺物（4）

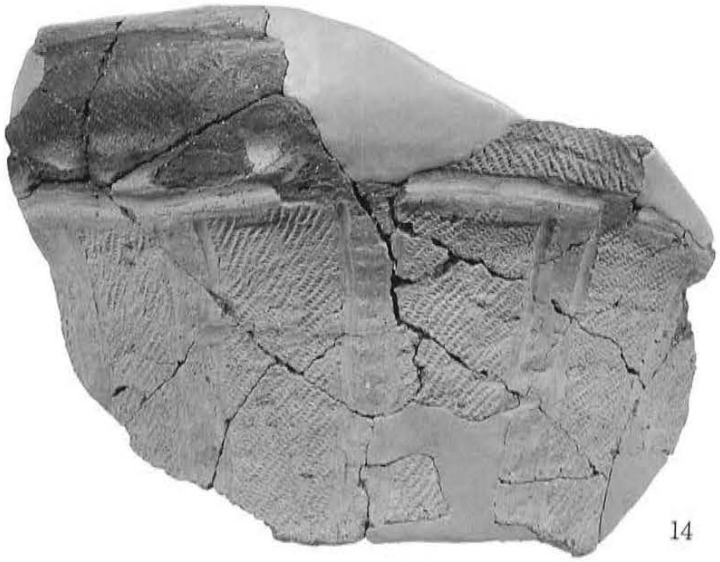


J－1号住出土遺物（5）

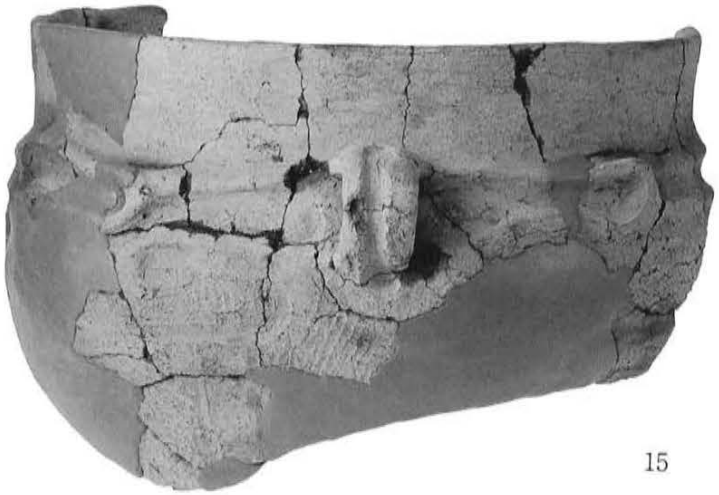
図版20



グリッド出土遺物（1）



14



15

グリッド出土遺物 (2)

発 掘 調 査 抄 録

ふ り が な	かいりゅうじいせきはっくつちょうさほうこくしょ
書 名	海竜寺遺跡発掘調査報告書
副 書 名	県営畑地帯総合整備事業（担い手育成型）里見板鼻地区に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻 次	
シ リ ー ズ 名	
シリーズ番号	
編 著 者 名	千田茂雄　鬼形敦子
編 集 機 関	安中市教育委員会
編集機関所在地	379－0192　群馬県安中市安中一丁目23－13
発 行 年	西暦2006年３月17日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
海竜寺遺跡（かいりゅうじいせき）	安中市板鼻字海竜寺（あんなかしいたはなあざかいりゅうじ）	102113	E－6	362028	1385547	20040428－ 20050325	6,000	県営畑地帯総合整備事業（担い手育成型）

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特 記 事 項
海竜寺遺跡	集落	縄文時代 ４世紀前半 ４世紀後半 ５世紀後半～ ６世紀前半 ６世紀前半 ６世紀後半 ９世紀	住居址１軒 住居址１軒 住居址２軒 住居址２軒 住居址３軒 住居址３軒 住居址１軒	土器・石器 土師器・須恵器	縄文時代中期後半・４世紀前半から６世紀後半・９世紀の集落址

海竜寺遺跡発掘調査報告書

―県営畑地帯総合整備事業（担い手育成型）
里見板鼻地区に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書―

発　行　日　平成18年３月17日

編集・発行　安中市教育委員会
群馬県安中市安中１丁目23－13

印　　刷　上武印刷株式会社
群馬県高崎市鳥野町890－25